

人間の理解と科学的思想科目群	...	1
専門基礎科目群	...	33
看護専門科目群	...	68
教職専門科目	...	165
本年度休講	...	176

講義科目名称： 仏教学

英文科目名称： Buddhist studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
矢島 道彦				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	<p>本学は「以和為貴」の仏教精神を建学の精神に据えていることから、仏教について理解を深めることを目的とする。まず、釈尊の生涯と教え、私たちの日常生活に生きる仏教について理解を促す。そして、仏教と看護の関連を知り、相手の立場に立ち、温かな人間的配慮を持った関わりについて学ぶ。また仏教における死生観を紹介し、現代社会において人は死といかに向き合えばよいかという問題についても考察する。</p>
授業計画	<p>第1回 仏教のもののみかた・考え方の特徴 ●予習：キリスト教やイスラム教など諸宗教の人間観や世界観を調べておく。 ●復習：仏教の人間観や世界観の特徴、他の宗教との違いを理解する。</p> <p>第2回 日常生活にとけ込んでいる仏教 ●予習：仏教に由来する言葉や習慣などを調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第3回 仏教の誕生 釈尊の生涯と伝道 ●予習：「お釈迦さま」について調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第4回 仏教の福祉思想の展開 ●予習：講義内容について調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第5回 聖徳太子と「和」の思想 ●予習：建学の精神について改めて調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第6回 日本仏教の展開 ～とく鎌倉期の叡尊・忍性など～ ●予習：講義内容について調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第7回 死生学（タナトロジー）と仏教の死生観 ●予習：講義内容について調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第8回 現代における仏教の役割～臨床仏教師の誕生など～ ●予習：講義内容について調べてくる。 ●復習：講義でわからなかった部分を確認しておく。</p>
授業の目的・到達目標	<p>仏教を身近に感じることができるとともに、仏教を開いた釈尊の生涯とその教えについて理解することができるようになる。また、「以和為貴」の仏教精神に基づき、「和」を重んじて他者に対する慈しみの心を養い、看護の立場に立った時に思いやりを持って人間関係が築けることを目的とする。さらには、現代社会において、死との向き合い方について様々な視点から考えることができるようになる。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	適宜、プリントを配布する
参考書	
評価基準及び成績評価方法	平常点70% 試験30%
達成度の伝達	適宜小テストを行い、返却した時に解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：論理学

英文科目名称：Logic

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
米田 和美				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		
授業概要	「論理的」とはどのようなことかを理解するために、論理学の基礎について学習する。論理は人間が共通に持つ普遍的な思考の枠組みであって、論理的だということはどんな人間にも共通に了解可能だということである。そして、論理的な思考法は他者とのコミュニケーションや、社会生活のあらゆる場面において必要とされている。授業の中では、文章の書き方を通して、論理的思考とは何かを実践的に学ぶ。特に論文や記事などの事例について、学生自ら解釈・判断しながら書く作業を行うことによって、筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。			
授業計画	<p>第1回 「文の七原則」・用語の読み・悪文 ●予習:資料集61ページ「文の七原則」を読む。</p> <p>第2回 引用の練習・間違い探し・誤字 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈1〉</p> <p>第3回 意見文:1 用語の読み ●予習:意見文:1を書く。</p> <p>第4回 印刷された意見文:1のA B C D E Fの検討 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈2〉</p> <p>第5回 意見文:2 用語の読み ●予習:意見文:2を書く。</p> <p>第6回 印刷された意見文:2のA B C D E Fの検討 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈3〉</p> <p>第7回 意見文:3 用語の読み ●予習:意見文:3を書く。</p> <p>第8回 印刷された意見文:3のA B C D E Fの検討 ●まとめ</p>			
授業の目的・到達目標	<p>筋道の通った思考ができるように、正しく考える訓練をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、どこで、誰が、誰に、何をどうしたか、正確に読む。 ・「一文一義」の文を書く。 ・主張と理由を書く。 			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>			
教科書	プリント配布			
参考書	「資料論理的思考」のファイルを貸し出す。			
評価基準及び成績評価方法	1. 意見文 2. 小テスト 3. 授業中の提出物の点数(各々100点)を100点に換算して配点する。60点以上を合格とする。			
達成度の伝達	成績			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：倫理学

英文科目名称：Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
茂木謙之介				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	倫理学とは道徳を研究する学問である。その中心問題は道徳規範と善の問題である。学生が、どのような倫理的問題に遭遇しても、それを人間のおかれた多様な状況から捉えなおし、基礎から考えて解決を見出そうとする姿勢を養う。「脳死段階における臓器移植」「安楽死」「代理母」など現代社会における医療に関連した倫理的問題について、皆で議論しながら考えていきたい。			
授業計画	第1回	倫理学とは何か 授業の前に教科書にざっと目を通しておくこと		
	第2回	治療する人の選別 予習として教科書の第1章を読んでおくこと		
	第3回	間違った出生 予習として教科書の第2章・第3章を読んでおくこと		
	第4回	代理出産 小テストも実施 予習として教科書の第4章を読んでおくこと		
	第5回	自己決定権 予習として教科書の第5章を読んでおくこと		
	第6回	安楽死 予習として教科書の第6章・第7章を読んでおくこと		
	第7回	脳死と臓器移植 予習として教科書の第8章・第9章を読んでおくこと		
	第8回	まとめ 小テストも実施		
授業の目的・到達目標				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			
教科書	香川知晶著『命は誰のものか』 ディスカヴァー・トゥエンティワン			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	小テストを2回実施する。議論への参加度40%、小テスト60%で評価する。			
達成度の伝達	小テストを返還する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	教科書を読んで必ず予習してくること。			
履修登録条件				

講義科目名称：心理学

英文科目名称：Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
森 慶輔				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	看護師、保健師、養護教諭として人間を理解するために、人間の心理とその発達について概観することを目的とする。感覚と知覚、学習、記憶、認知、生理、情動と動機づけ、性格、社会等について取り上げ、人間に対する心理面からのアプローチについて学ぶ。(臨床心理学、発達心理学についてはそれぞれの科目を受講されたい。)			
授業計画	第1回	感覚と知覚 教科書第2章を読んでおく		
	第2回	学習 教科書第3章を読んでおく		
	第3回	記憶 教科書第4章を読んでおく		
	第4回	認知 教科書第5章を読んでおく		
	第5回	情動と動機づけ 教科書第7章を読んでおく		
	第6回	性格 教科書第8章を読んでおく		
	第7回	社会 教科書第11章を読んでおく		
	第8回	まとめ		
授業の目的・到達目標	人間に対する心理面からのアプローチについて学ぶことを目的とし、心理学の基礎的な内容が理解され、現実の場面に即してテクニカルタームを説明できるようになることが目標である。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			
教科書	土肥伊都子(編著)「自ら実感する心理学」保育出版社, 2016年			
参考書	鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版, 2009年			
評価基準及び成績評価方法	第2回から第8回に実施する小テストを35%、期末考査を50%、課題レポートを15%の割合で、総合的に評価する。総合評価が60点以上で単位を認定する。課題レポートの詳細は第1回に説明する。			
達成度の伝達	総合成績の内訳は希望者に開示する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	1) 1単位科目ですが講義内容は膨大な量です。必ず、事前に教科書の該当する範囲を読んで、不明点や疑問点を整理しておくように。 2) 高等学校の授業と大学の講義は異なります。授業に出席さえしていれば単位が取得できると思わないでください。 3) やむを得ない理由による遅刻欠席の場合を除き、原則として期末考査の追・再試験は実施しません。 4) 大学生としての常識をもって講義に臨むこと。			
履修登録条件				

講義科目名称：日本国憲法

英文科目名称：the Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
星澤 栄一				
人間の理解と科学的思考科目群			人文・社会科学	養護教諭一種免許状

授業概要	我が国における国家の構成、統治組織、統治活動に関する根本的法規に関する講義である。そこでは、国民が、民主主義国家の主権者であると同時に義務を負う立場にあることに留意しつつ、福祉国家、議会制民主主義、憲法制定権力と憲法、日本国憲法の基本原理、戦争の放棄、国民の権利及び義務、国会、内閣、裁判所、地方自治などについての考察を試みる。
授業計画	<p>第1回 憲法と日本の法体系の概要 予習：憲法の概要及び日本の法体系について概説する。憲法1条から99条まで一度目を通しておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第2回 平和主義、国民主権と天皇制、人権の享有主体、子どもの人権、外国人の人権 予習：憲法の三大原理と憲法の適用範囲を学ぶ。「憲法は何のために存在するのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第3回 統治1 三権分立と立法（国会）、行政（内閣）、司法（裁判所）の機能 予習：日本の統治機構の基礎を学ぶ。「なぜ権力を分割したのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第4回 統治2 財政（予算）の仕組み、国民の義務、地方自治の仕組み 予習：日本の統治機構の運用を学ぶ。「どのようにして国を運営していくのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第5回 人権1 経済的自由権、財産権、公共の福祉 予習：人権と人権の制約原理の基礎を学ぶ。「なぜ人権は保障され、制約されるのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第6回 人権2 包括的基本権（幸福追求権）、公共の福祉 予習：幸福追求権とその制約原理の基礎を学ぶ。「幸福追求とはなにか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第7回 人権3 平等権 予習：平等権について学ぶ。「一体何が平等なのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第8回 人権4 思想良心の自由、学問の自由 予習：思想良心、学問の自由とその限界を学ぶ。「絶対的自由は存在しうるのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第9回 人権5 表現の自由1、公共の福祉による制限 予習：表現の自由の価値と制約原理を学ぶ。「表現行為にどのような価値があるか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第10回 人権6 表現の自由2、知る権利、取材報道の自由、検閲の禁止 予習：表現の自由を担保するための仕組みと制約原理を学ぶ。「表現のためには何が必要か」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第11回 人権7 人身の自由、罪刑法定主義、刑法とは何か、推定無罪 予習：人身の自由と刑罰の仕組みを学ぶ。「なぜ無罪は推定されるのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第12回 人権8 社会権、国務請求権 参政権 予習：国家と国民との間の権利関係等を学ぶ。「国がすべきことは何か」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第13回 憲法と民法（民法とは何か、私的自治の原則、物件と債権、契約とは） 予習：民法と憲法の関わりを学ぶ。「私的自治とは何か」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第14回 憲法と労働法（労働法とは何か、労働者の権利義務、解雇、残業代等） 予習：労働法と憲法の関わりを学ぶ。「なぜ労働者のための法があるのか」を考えておくこと。 復習：レジュメの確認</p> <p>第15回 試験と解説 予習：これまでの授業の内容を再確認し、試験に臨むこと。 復習：試験と解説の確認。</p>
授業の目的・到達目標	社会的存在としての人及び国家制度の基礎を理解する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。
教科書	授業時配布レジュメのほか何か憲法の教科書（指定しない）を用意すること。憲法の条文は必須なので各自準備すること。
参考書	いちばんやさしい憲法入門第5版（有斐閣） * 末尾に条文が添付している。
評価基準及び成績評価方法	成績評価は、4回程度実施する小テスト（合計20点満点）、最終回で行う試験（80点満点）で最終成績を評価し、60点以上のものに単位を認める。多肢択一式の小問では、憲法の基礎的知識の有無を確認し、記述式の小問では憲法上の問題点を発見する能力の有無と、当該問題点に関する憲法の理解の程度を確認する。
達成度の伝達	試験についての採点と解説を実施し、理解の程度について説明を行う。

資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	法律はわかりにくい、難しいというイメージがあると思いますが、きちんとした知識や理解があれば、そのようなイメージを払拭できるのではないかと思います。難しい内容をなるべくわかりやすく解説していきたいと考えていますので、要望があれば気軽に担当まで。
履修登録条件	

講義科目名称：発達心理学

英文科目名称：Development Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	選択	講義
担当教員				
森 慶輔				
人間の理解と科学的思考科目群			人文・社会科学	養護教諭一種免許状

授業概要	人間の成長・発達を理解する基礎として、胎児期から老年期までの各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の變化と、これらを促進する学習過程について理解することを目的とする。ピアジェやエリクソンの発達理論を取り上げ、胎児期から老年期まで、人間の身体・認知・思考・自我・パーソナリティの側面を学ぶとともに、さまざまな障害に関する理解も深める。
授業計画	<p>第1回 発達理論とその歴史的展開</p> <p>第2回 胎児期の心と身体</p> <p>第3回 乳幼児期の心と身体</p> <p>第4回 学童期の心と身体</p> <p>第5回 思春期の心と身体</p> <p>第6回 青年期の心と身体</p> <p>第7回 成人期の心と身体</p> <p>第8回 老年期の心と身体</p> <p>第9回 第1回から第8回までのまとめ（含、小テスト）</p> <p>第10回 医学の発展と人間の発達：出生前診断と看取りをめぐって VTR視聴の感想文を後日提出する</p> <p>第11回 乳児期から青年期にかけての発達支援（1）：生活習慣形成に関わる発達上の問題への対応 配付資料を読み、事例問題を解いておく</p> <p>第12回 乳児期から青年期にかけての発達支援（2）：身体的・知的発達の遅れへの対応 配付資料を読み、事例問題を解いておく</p> <p>第13回 乳児期から青年期にかけての発達支援（3）：社会的・人格的発達に関わる発達上の問題への対応、身体的な障害への対応 配付資料を読み、事例問題を解いておく</p> <p>第14回 乳児期から青年期にかけての発達支援（4）：発達障害への対応 配付資料を読み、事例問題を解いておく</p> <p>第15回 乳児期から青年期にかけての発達支援（5）：精神障害への対応 配付資料を読み、事例問題を解いておく</p>
授業の目的・到達目標	本授業では、人間の誕生から死に至る生涯発達の過程を、主として発達・教育心理学的な視点から概観する。人間の発達を支える生物学的基盤及び社会・文化的基盤（家族、学校、地域社会、文化、時代背景等）を多角的に捉えた上で、認知、言語、概念、感情など心理的諸機能の発達の特性、及び各発達段階の特性及び発達の障害に関する理解を図る。とりわけ養護教諭に必要な児童期から青年期の特徴を理解することを目標とする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」等に対応する。
教科書	舟島なをみ・望月美知代「看護のための人間発達学（第5版）」医学書院、2017年
参考書	小野寺敦子「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版、2009年 高橋一公・中川佳子「発達臨床心理学15講」北大路出版、2014年 小林芳郎編著「発達のための臨床心理学」保育出版社、2010年
評価基準及び成績評価方法	講義への出席を前提とし、第9回に実施するテストを50%、VTR視聴の感想文を20%、課題レポートを30%として総合的に評価し、合計60点以上で単位を認定する予定である。（変更する場合は講義内で周知する。）感想文、課題レポートの詳細は講義内で説明する。
達成度の伝達	希望者には総合評価の内訳を開示する。
資格情報	

メッセージ・オフィスアワー	1) シラバスの内容は一部変更の可能性もあります。詳細は講義時に説明します。 2) 高等学校の授業と大学の講義は異なります。授業に出席さえしていれば単位が取得できると思わないでください。 3) やむを得ない理由による遅刻欠席の場合を除き、原則としてチェックテストの追・再試験は実施しません。 4) 大学生としての常識をもって講義に臨むこと。
履修登録条件	

講義科目名称：環境と社会

英文科目名称：Environment and society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
牛山 泉				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	<p>自然環境の変遷を古代、中世、そして現代、さらには長期的展望を踏まえて学ぶ。 自然環境と社会の相互作用、環境問題が人にもたらす健康への影響について理解を進める。 まず、人類の環境史を明らかにし、人間の健康に被害を及ぼしてきた種々の環境問題について編年的に明らかにする。 次に、18世紀後半から始まった産業革命以降に顕在化した石炭による公害問題、わが国の明治期における地元の足尾鉍毒問題と田中正造の史実を知ると共に、わが国の高度成長期の公害問題を知り、その解決のための対策について学ぶ。こうした国内外の公害問題や環境問題と社会との関わり、特に環境問題と健康被害の関係について明らかにする。 最後に、21世紀の最大の課題のひとつである地球環境問題と社会との関わりについて、特に解決困難とされている温暖化問題から始めて、地球環境問題の現状とエネルギー利用の因果関係を明らかにし、持続可能な発展のために出来ることを考える。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンスならびに「環境史と文明」について 復習：配布資料について学んで知識を明確にしておく。</p> <p>第2回 環境史；中世のペスト大流行と産業革命の功罪 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第3回 環境史；明治期の足尾鉍毒問題と田中正造の取り組み 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第4回 日本の高度成長期の公害問題と健康被害 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第5回 国内外の公害問題と環境問題 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第6回 エネルギーと環境問題の因果関係 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第7回 現代の環境課題と健康被害の問題 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第8回 持続可能な社会を目指して 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p>
授業の目的・到達目標	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	毎回の配布資料により学ぶ。
参考書	講義のたびに紹介する。
評価基準及び成績評価方法	8回の講義終了後、別途にレポート課題あるいは試験により評価する。
達成度の伝達	毎回の資料について翌週初めに説明し正しい知識を身につけさせる。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	環境問題による健康被害について学ぶことにより、正しい知識と使命感・倫理観を持って看護に当たることが出来るように指導したい。
履修登録条件	

講義科目名称：数学

英文科目名称：Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
橋本 哲				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	医療の現場では、さまざまな計算を必要とされる場面が多くある。また、医療の現状把握や研究の場面において統計の活用を必要とされることから、看護職としてこれらの基礎的知識の修得を目指す。まず、割引率の計算や金利の計算等、日常生活で使われる数学について実例を挙げて分かりやすく解説する。次に医療現場で役立つ溶液計算や、点滴計算に移る。後半は代表値、分散、標準偏差、正規分布など、統計の基礎について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 数の扱い。大きい数や小さい数の表し方、読み方。数の基本的な計算。 予習：式の展開公式、指数計算等を復習しておく。問Aを解いておく。 復習：基本的な暗算の練習をする。</p> <p>第2回 買い物での割引率の計算。 予習：比や割合について、理解しているか確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第3回 為替レートの計算 予習：主要通貨の現在の為替レートについて調べておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第4回 金利計算 予習：単利と複利の違いについて確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第5回 順列や組み合わせの計算 予習：順列や組み合わせの個数を計算するための記号、nPr、nCrについて復習しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第6回 電気回路に関連した計算 予習：電流、電圧、抵抗の関係を理解しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第7回 希釈倍率の計算 予習：希釈倍率の定義を確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第8回 点滴の計算 予習：与えられた量を1時間に滴下するためには1秒間に何滴滴下すればよいかを比例計算を用いて計算できるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第9回 圧力と酸素ポンプ 予習：圧力の定義と単位の意味を確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第10回 代表値としての平均値、中央値、最頻値 予習：平均値、中央値、最頻値の定義を確かめておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第11回 分散と標準偏差 予習：分散、標準偏差の計算方法、意味を確かめておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第12回 度数分布表、ヒストグラム 予習：度数分布表からヒストグラムを作ることができるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第13回 正規分布 予習：正規分布の作り方を理解しておく。</p> <p>第14回 集計と表計算 与えられたデータから度数分布表を作り、それを用いて平均、分散等の概略の値が計算できるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。</p> <p>第15回 まとめ 今までの項目の例題、問題をもう一度解いてみる。</p>
授業の目的・到達目標	これまで、小学校・中学校・高等学校等で学んできた算数・数学の復習をする。特に、医療現場で使用される「溶液濃度の計算」、「点滴に関する計算」、「酸素ポンプについての計算」を重点的に学習する。さらに、統計学の基礎的概念を復習する。これは上級学年の科目に必要な知識であるので、十分に学習してもらいたい。 この科目の到達目標は、看護師として必要な計算が出来るようになることである。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	適宜プリントを配付する。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	定期試験：70%、日々の演習：30%

達成度の伝達	日々の演習は毎回採点して次回に返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	研究室が大前キャンパスにありますので、何か質問がある場合は、お越してください。
履修登録条件	

講義科目名称：化学

英文科目名称：Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
加藤 隆幸				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	化学は全生物の生命現象や、その置かれた環境により形質等が変化する事を理解する上で重要で、特に人体の代謝や遺伝などについて学習するための必須な基礎科目である。さらに医療を実施するうえで必要となる薬量などを理解するために、物質に基づいた化学物質と化学反応について理解を深め、疾病や代謝異常（生成物）やその治療方法などを化学的側面からとらえ、ひと本来の健康な体を維持するための化学的知識を習得する。そのためにまず、体細胞を構成する分子やDNAなどの構造を学習し、これを基礎として人体の恒常性の根幹である呼吸や酸塩基反応などの無機化学を、また細胞内外の異化や同化などの生化学や生理学を理解するために必要な有機化学を学び、広い視野に立った基礎科目として学習する。
授業計画	<p>第1回 原子の構造・人体を構成する元素群 陽子・中性子・電子・放射能などについて理解する 体細胞について学習</p> <p>第2回 周期表と元素及び化学結合と分子 典型的な原子(元素)の電子配置と化学結合の関係を周期表上で理解する</p> <p>第3回 物質の量と状態：原子量・分子量・モル・濃度 アボガドロ定数に基づいた物質量を理解する</p> <p>第4回 溶液の化学（血液など水溶液の化学） 浸透圧、等張液・低張液・高張液下の細胞の状態を確認する</p> <p>第5回 酸・塩基 体液中のイオン種 緩衝液としての血液の役割を理解する、あわせてホメオスタシスの概念を理解する</p> <p>第6回 有機化合物と物性・官能基の化学 アルコールやアルデヒド、カルボン酸の性質等を理解する</p> <p>第7回 人体を構成する有機化合物の構造と反応（糖・脂質・タンパク質） 糖質・脂質・タンパク質の構造と性質を理解する（右回りの化合物、左回りの化合物）</p> <p>第8回 入門有機化合物の立体化学（構造異性体・光学異性体・DNA）、終講試験 異性体とその独特な性質について理解する、薬の構造と異性体（右回りの化合物、左回りの化合物） 終講試験</p>
授業の目的・到達目標	化学全般の広いジャンルから特に医療と看護に必要な部分を抜き出して、人体の体液組成とpH、細胞内外の反応を酸化と還元の世界から、さらにこれらと呼吸や浸透圧と体温などの関連性を化学的かつ定量的に学ぶことを目的とし、ホメオスタシスを基本とした健康体を化学的側面から理解することを目標とする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」ことを目的として配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。
教科書	コ・メディカル「化学」 医療・看護系のための基礎化学（裳華房）
参考書	高校時代の理科の教科書と市販の参考書多種、など
評価基準及び成績評価方法	講義中の小テスト、レポートなどを20%、終講試験を80%とし両者の合計が60点以上であることをもって合格とする。
達成度の伝達	講義毎の質問に対する受け答えと、小テスト、レポート及び試験の答案解説などにより行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：生物学

英文科目名称：Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
堺 淳				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	看護学の基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎となる生物学として、発生、遺伝、免疫、体の構造、生体の反応などを取り上げて生命現象について学ぶ。生命体の特性を理解するために体の構造やそれぞれの器官の発生について理解し、また、生体維持のためのエネルギー転換や生体の反応として体液や内分泌、神経系による内部環境の恒常性を理解すると同時に、病気の成り立ちとも深く関与する遺伝や免疫についての基礎を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第2章 個体の成り立ち—分化（1. 組織、2. 器官と器官系） 体の基本的な構造について、それぞれの組織の構造と働き、および器官系とその働きについて理解する。テキストとパワーポイントを使って解説する。</p> <p>第2回 第4章 生体内の物質の流れと働き（1. 物質代謝とエネルギー代謝、2. 同化、3. 異化） 生命の維持に関わる生体における物質とエネルギーの流れについて理解し、3大栄養素を中心としたエネルギーの蓄積、及びそのエネルギーの放出について理解する。複雑な部分もあるため、図やグラフなどを多く使い理解しやすいように解説する。</p> <p>第3回 第4章 生体内の物質の流れと働き（4. エネルギーの利用、5. 異化生成物の排出） 蓄積したエネルギーをどのような形で生活活動に利用しているかを理解する。また、分解された生成物が排泄される仕組みを理解する。テキストに沿って進めると同時に、理解しやすいように図や写真を多く使って解説する。</p> <p>第4回 第5章 からだの恒常性の維持（1. 内部環境としての体液、2. 神経系とその働き） 生体において非常に重要な内部環境の恒常性の維持、ホメオスタシスについて、血液を中心とした体液、及び免疫系について、人の生活と密接に関連した事象を例に、図や写真などを使い解説する。神経系についても理解しやすいように図を使って、中枢神経系と末梢神経系の働きについて解説する。</p> <p>第5回 第5章 からだの恒常性の維持（3. 内分泌系とその働き） 内分泌系はホルモンの合成と分泌により、体内の生理作用や成長など調節を行っている重要な器官であり、いくつもの内分泌腺が多くのホルモンを分泌し、組織や器官に働いて、その生理機能に大きく影響している。また、分泌されたホルモンの不足や過剰により、いろいろな機能障害も引き起こすという面もあり、病気との関わりも大きい。このことから、内分泌系について、それぞれの内分泌腺から分泌されるホルモンとその作用について理解する。</p> <p>第6回 第6章 外的刺激の受容（1. 刺激と反応、2. 外的刺激の受容） 生物は、光や音などの物理的的刺激や物質による化学的的刺激を受け取っている。これらの刺激をそれぞれの感覚器官で受容しており、生活活動において非常に重要な部分を占めている。それぞれの感覚器の構造と働きについてしっかり理解できるように、図や写真を使って解説する。</p> <p>第7回 第8章 発生（2. ヒトの発生） 特に人の発生について、受精、着床から胎児の発育の過程を理解する。図や写真を使って、理解しやすいように努める。</p> <p>第8回 第9章 遺伝（4. たんぱく質と形質の発現、7. ヒトの遺伝） 遺伝的形質は、酵素によって進められる細胞内での化学反応がもとになっている。DNAの遺伝情報に基づいたたんぱく質の合成が、特定の形質を発現する仕組みになっている。またこれが遺伝的疾患としても重要な関わりを持っている。人の遺伝的疾患を理解する上でも重要であり、いくつかの遺伝的疾患を例に挙げ、遺伝について理解する。人の遺伝については、血液型の遺伝や色盲の遺伝を例に、遺伝の法則について理解する。</p>
授業の目的・到達目標	看護学を学ぶために必要な人体の基本的な構造と機能について理解し、その知識を整理しておくことを目的とする。また、専門分野を学ぶに当たって専門的知識の理解が十分できるように生物学の基礎知識を身につけておくことを目標とする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	新体系 看護学全書 基礎科目 生物学 編著 齊藤省吾（メジカルフレンド社）
参考書	
評価基準及び成績評価方法	第4回までの授業の小テストと全体的な試験により評価する。各々60点を基準とし、満たない場合はレポートの提出を求め、総合的に評価する。
達成度の伝達	答案用紙及びレポートの返却による。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	これから先、看護学に関係した医学関連の講義を受け、理解する上で、生物学はその基礎となり、また重要であるため、しっかり学んでほしい。
履修登録条件	

講義科目名称：物理学

英文科目名称：Physics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
高橋 大輔				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	看護学を修得するために必要な物理原理や現象を体系的に学ぶ。身体運動機能の理解を深めるための力学および熱学、最新医療機器の使用に際して必要な電気・磁気学、波動学、放射線物理学、低温物理学について理解し、看護学の専門基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎とする。			
授業計画	第1回	<p>数量の扱いと基礎物理数学</p> <p>●予習：高校で学習した三角関数およびベクトルを復習しておくこと。●復習：各種単位、三角関数、ベクトルについて復習すること。</p>		
	第2回	<p>質点系および剛体のつりあい（1）「鉗子やピンセットに見る物理」</p> <p>●予習：教科書2章：教科書1章「質点の力学（力の加減）」および、第2章「剛体の力学」を読んでおくこと。●復習：ベクトルの分解、合成を復習すること。</p>		
	第3回	<p>質点系および剛体のつりあい（2）「肩こりに見る物理」</p> <p>●予習：教科第2章「剛体の力学」を読んでおくこと。●復習：力のモーメントと重心についての理解を深めておくこと。</p>		
	第4回	<p>圧力とその利用：「血圧計や点滴に見る物理」</p> <p>●予習：教科書4章「圧力」を読んでおくこと。●復習：差圧について十分な理解をすること。</p>		
	第5回	<p>電気と磁気（1）：電界・磁界の概念と電気回路の基礎</p> <p>●予習：教科第5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。●復習：電流はどのような条件で流れるかを理解すること。</p>		
	第6回	<p>電気と磁気（2）：直流回路について学ぶ「感電の物理」</p> <p>●予習：教科第5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。●復習：オームの法則およびキルヒホッフの法則について理解すること。</p>		
	第7回	<p>電気と磁気（1）：交流回路について学ぶ「医療機器とノイズ対策」</p> <p>●予習：教科第5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。●復習：コイル、コンデンサーの役割について理解すること。</p>		
	第8回	<p>近代物理学の応用例「放射能・放射線とは何か」</p> <p>●予習：教科書9章「放射線の防護と応用」を読んでおくこと。●復習：放射線量単位を復習する。放射線の生物学的効果について理解すること。</p>		
授業の目的・到達目標	物理学を学び応用することで、患者の身体的負担を軽減するのみでなく、看護師の効率良い看護につなげる。本講義では具体的な応用例を用い、より実践的な物理知識を幅広く学ぶことを目的とする。到達目標は以下のとおりである。①物理学の基礎的知識を理解し、医学および看護学における物理学の応用実例を認識、理解する。②安全な高度医療を提供するために必要な生体現象と物理現象の関連について理解する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	平田雅子 著：新体系 看護学全書 基礎科目 物理学（メヂカルフレンド社）			
参考書	前田昌信 著：看護にいかす物理学 第三版（医学書院）			
評価基準及び成績評価方法	到達度を測るため、第4回、第7回の授業終了後にレポートを課す。また、第8回の授業終了後、日を改めて筆記試験を行う。レポート評価点を30点（各10点）、筆記試験の評価点を70点とし、合計60点以上を合格とする。再試験は評価点50点以上を対象とする。			
達成度の伝達	レポート・定期試験の返却による。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	効率の良い看護実践のために物理学が貢献していることを楽しみながら学んでほしい。本講義は高校までに学習した三各種関数および基礎的代数の知識があれば、数学的には充分理解できる内容である。高校数学の教科書は予習、復習時に活用するので用意しておくことが望ましい。			
履修登録条件				

講義科目名称：情報科学 I

英文科目名称：Information science I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
佐藤 友哉				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	コンピュータを利用することは医療現場においても必要な能力となっている。その能力を養うために必要な基本知識について学習する。広く浅く情報関連の内容について修得する。
授業計画	<p>第1回 インターネットの活用 予習：テキストの12ページから37ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：同ページ内で強調された単語の意味をまとめ、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第2回 情報倫理とセキュリティ 予習：テキストの38ページから59ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第3回 私たちが生きる情報社会 予習：テキストの60ページから81ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第4回 情報やメディアに関する技術 予習：テキストの82ページから105ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第5回 ネットワークやインターネットに関する技術 予習：テキストの106ページから127ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第6回 ハードウェアに関する技術 予習：テキストの128ページから151ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第7回 ソフトウェアに関する技術 予習：テキストの152ページから169ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第8回 コンピュータの歴史と現代のIT業界 予習：テキストの170ページから177ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>試験 予習：授業内容と小テストの内容を復習し、試験に備えて勉強しておく。理解できない点や不明な点を質問するなどして解決しておくこと。 復習：試験で特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。</p>
授業の目的・到達目標	<p>情報化した現代社会を上手に生きる基礎を養成することを目的とする。 情報化社会についての以下の項目を理解することを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット上のサービスについて 2. 情報倫理とセキュリティについて 3. わたし達が生きる情報社会について 4. 情報やメディアに関する技術について 5. インターネットに関わる技術について 6. ハードウェアに関わる技術について 7. ソフトウェアに関わる技術について 8. コンピュータの歴史と現代のIT業界について
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2018」 監修：久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 出版社：日経BP社 ISBN：978-4-8222-9226-3
参考書	
評価基準及び成績評価方法	レポート提出と試験で評価し、60点以上を合格とする。
達成度の伝達	小テストによる理解度の確認及び、解答による復習。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：情報科学Ⅱ

英文科目名称：Information science2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
佐藤 友哉				
人間の理解と科学的思考科目群			自然科学	養護教諭一種免許状

授業概要	科学的な根拠に基づいた看護を提供するためには、コンピュータ及びインターネットを活用が不可欠である。文献検索を含めた様々な情報をまとめるツールとしてコンピュータを活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションソフトウェアの利用方法について修得する。			
授業計画	第1回	コンピュータとインターネットの利用と仕組み 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第2回	ワードプロセッサ：文書 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第3回	ワードプロセッサ：表 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第4回	ワードプロセッサ：図 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第5回	ワードプロセッサ：文章作成（課題1） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第6回	インターネットを利用した情報収集：論文検索、情報収集 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第7回	インターネットを利用した情報収集：レポート作成（課題2） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第8回	表計算：数値と文字入力 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第9回	表計算：四則演算、関数の利用 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第10回	表計算：グラフ 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第11回	表計算：データ分析とレポート作成（課題3） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第12回	プレゼンテーション：利用方法の説明 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第13回	プレゼンテーション：資料作成 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第14回	プレゼンテーション：発表（課題4） 予習：発表のための練習を行っておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第15回	まとめと課題の確認 予習：すべての課題を確認し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：課題の中で、特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。		
授業の目的・到達目標	コンピュータとインターネットの利用と仕組みについて理解する。そして、コンピュータをツールとして活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションの利用方法について修得する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	「Microsoft Office 2016を使った情報リテラシーの基礎」 著者：切田節子、新聖子、山岡英孝、乙名健、長山恵子 出版社：近代科学社 ISBN：978-4-7649-0520-7			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	3回の課題提出と1回の発表によって評価する。評価点が60点以上で合格とする。ただし、すべての課題提出が合格することが必要条件である。			

達成度の伝達	課題提出によって確認する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：基礎英語

英文科目名称：Basic English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
清水 尚				
人間の理解と科学的思考科目群			外国語	養護教諭一種免許状

授業概要	<p>いわゆる4技能（聞く、読む、話す、書く）の演習をバランス良く配した下記の教科書を用いて、英語基礎レベルの総ざらいを行う演習形式の授業である。同教科書には看護系の学生が興味を持ち易い話題を採り上げた英文講読演習とそれを支える文法、語法の理解度チェック、簡単な会話と作文演習に加え、将来の職に直結した医療分野の基礎語彙を増強するコーナーもある。これらを活用することにより、受講生が次に取り組むより実践的な各英語科目の履修へ向けての基礎固めができるよう指導する。より効果的な知識・技能の定着のため、適宜小テストを織り交ぜるなどする。</p>			
授業計画	第1回	導入：Unit 1 What Worries Barbara? バーバラの悩み（1）Listening Practice, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第2回	Unit 1 What Worries Barbara? バーバラの悩み（2）Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第3回	Unit 1 What Worries Barbara? バーバラの悩み（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第4回	Unit 3 Menstrual Problems 女性のトラブル（1）Listening Practice, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第5回	Unit 3 Menstrual Problems 女性のトラブル（2）Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第6回	Unit 3 Menstrual Problems 女性のトラブル（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第7回	Unit 5 How to Give First Aid 応急手当はどうするの？（1）Listening Practice, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第8回	Unit 5 How to Give First Aid 応急手当はどうするの？（2）Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第9回	Unit 5 How to Give First Aid 応急手当はどうするの？（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第10回	Unit 7 Are You Being Abused? 虐待ってどういうこと？（1）Listening Practice, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第11回	Unit 7 Are You Being Abused? 虐待ってどういうこと？（2）Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第12回	Unit 7 Are You Being Abused? 虐待ってどういうこと？（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第13回	Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（1）Listening Practice, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	第14回	Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（2）Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第15回	Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。前期学習範囲を総復習し、試験に備えて準備する。	第16回	期末試験と解説
授業の目的・到達目標	<p>高等学校卒業程度の英語の基礎力をいま一度総点検して、後に履修する応用的・専門的な英語諸科目を学ぶための確固たる礎を築く。具体的には、語彙の増強、文法事項の理解の増進を基軸に、ややまとまった分量の文章の読解演習、簡潔な文章の作文演習などを、易しい例を参考にしつつ、体験的に学習する。 ①客観的な文章を的確に読むことができる。</p>			

	②自分の意見を簡潔な英文で表現できる。 ③英語学習を通じて異文化を相対的に観察する力を養うことを目標とする。
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。
教科書	笹島茂・山崎朝子 著 『医療と看護の総合英語（三訂版）』 三修社
参考書	授業中に別途指示する。
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テスト等を含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達	レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	辞書や電子辞書を各自常備し、不明な点はよく調べ、なお不明なら授業担当者に積極的に質問するよう心がけましょう。また、家庭においても毎日欠かさず、たとえ短時間であっても、様々な教材を活用して継続的に学習することを望みます。
履修登録条件	

講義科目名称：医療英語 I

英文科目名称：Medical English1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
篠原 勇次				
人間の理解と科学的思考科目群			外国語	養護教諭一種免許状

授業概要	症状や検査と疾患、そして治療と処置といった医療現場に即した場面を想定しながら、医療従事者に必要とされる表現力を演習形式で学習する。具体的には、シャドーイングやリプロダクションといった手法を用いながら、音声面での訓練を重視しながら授業を進めていく。			
授業計画	第1回	ガイダンス Introduction 教科書についての概観 各自教科書および辞書を用意しておく。		
	第2回	Unit 1 Body Parts 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Unit 1 Body Parts 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Unit 2 Musculoskeletal System 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Unit 2 Musculoskeletal System 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Unit 3 Circulatory System 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Unit 3 Circulatory System 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	復習 1 Unit 1～ Unit 3 までの学習内容を総復習する。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	Unit 4 Respiratory System 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	Unit 4 Respiratory System 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	Unit 5 Digestive System 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	Unit 5 Digestive System 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System 1 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第14回	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System 2 前回の復習、3. Listening Focus, 4 Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第15回	復習 2 Unit 4～Unit 6 までの学習内容を総復習する。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		

	第16回 総復習 Unit 1~Unit 3までの学習内容を総復習する。
授業の目的・到達目標	医療専門用語を中心に学習し、実際に医療現場で活用できる能力の涵養をめざす。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	English for Healthcare Professionals Because We Care (CENGAGE Learning)
参考書	英辞郎 ALC
評価基準及び成績評価方法	授業への参加度(30%)、不定期に実施する小テストの結果(70%)などを総合的に評価し、双方の結果が60%以上の者を合格とし、単位を認定する。
達成度の伝達	試験等は、採点后答案を返却し、各学生に到達度を伝える。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	基本的に火曜日の5コマ目であるが、質問のある場合には、学生と担当者の双方が十分な時間がとれる日時を設定できるように、授業の終了後その旨を伝えることが望ましい。
履修登録条件	

講義科目名称：医療英語Ⅱ

英文科目名称：Medical English2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
篠原 勇次				
人間の理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	医療に関する新聞・雑誌などの記事やエッセイなどの教材の精読をとおして、医療英語に用いられる語彙や表現を学びつつ、一定の長さの英文のなかから必要な情報を的確に見つけ出し、その内容を要約し、発表してもらう。英文で書かれた医療関連の知識や情報に自由にアクセスできる英語力を養成することを目標に置く。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション –医療英語Ⅱで扱うトピックの外観 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく</p> <p>第2回 Urinary System 1 泌尿器系 Warm-up, 症状Conversation A, Exercise 1 検査と疾患 Conversation B, Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第3回 Urinary System 2 泌尿器系 治療と処置 Conversation C, Exercise, Listening Focus, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第4回 Reproductive System 1 生殖器系 Warm-up, 症状Conversation A, Exercise 1 検査と疾患 Conversation B, Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第5回 Reproductive System 2 生殖器系 治療と処置 Conversation C, Exercise, Listening Focus, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第6回 Endocrine System 1 内分泌系 Warm-up, 症状Conversation A, Exercise 1 検査と疾患 Conversation B, Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第7回 Endocrine System 治療と処置 Conversation C, Exercise, Listening Focus, Reading 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。</p> <p>第8回 復習テスト</p>
授業の目的・到達目標	実際の医療現場で頻繁に使われる語彙を中心にreading, listening, grammarなどをバランスよく学びながら医療のプロフェッショナルとして求められる英語力の涵養を目指す。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	Because We Care – English for Healthcare Professionals CENGAGE Learning
参考書	英辞郎
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達	試験の採点后に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。
履修登録条件	

講義科目名称：英会話コミュニケーション

英文科目名称：English Conversation Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
篠原 勇次				
人間理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	多くの医療シーンでのダイアログに触れながら医療に関する語彙や表現学び、リスニングとスピーキングの実践練習をする。			
授業計画	第1回	イントロダクション ー英会話コミュニケーションで扱うトピックの外観 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく		
	第2回	Meeting Patients 1 初診時の登録方法や患者の生活習慣についての質問の仕方を学ぶ。今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Meeting Patients 2 pair workや練習問題を通して、前回の授業の知識の定着をはかる。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Taking Medical History 1 患者やその家族の病歴についての応答を学ぶ。特に、患者の健康状態への理解を深めるため、アレルギーや既往症などに関する聞き取り方を学ぶ。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Taking Medical History 2 pair workや練習問題を通して、前回の授業の知識の定着をはかる。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Assessing Patient's Symptoms 1 患者が訴える主訴 (Chief Complaint) やその他の症状、その経過についてのアセスメントを学ぶ。 pair workや練習問題を通して、前回の授業の知識の定着をはかる。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Assessing Patient's Symptoms 2 pair workや練習問題を通して、前回の授業の知識の定着をはかる。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	復習 これまでの学習項目を復習することによってさらなる知識の定着および英語運用力の涵養をはかる。		
授業の目的・到達目標	実際の医療現場で頻りに使われる語彙を中心にreading, listening, grammarなどをバランスよく学びながら医療のプロフェッショナルとして求められる英語力の涵養を目指す。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	Caring for People			
参考書	英辞郎			
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。			
達成度の伝達	試験の採点后に返却し、到達度を伝達する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。			
履修登録条件				

講義科目名称：ドイツ語入門

英文科目名称：Introduction to German

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
前川 泰久				
人間の理解と科学的科思考科目群		外国語		

授業概要	全く初めての方々を対象に、色々な場面を例にドイツ語の基礎をわかりやすく説明。文化や歴史も紹介。特に発音の習得を主にすすめる。また英語との比較なども説明しドイツ語の成り立ちについても理解を深める。最終的にドイツ語の初級レベルを習得できる様にする。途中でミニテストを実施して発音のレベルを確認。			
授業計画	第1回	ガイダンス（ドイツはどんな国か、ドイツ語とはどんな言語か、英語との関係は）：写真など含め紹介。更に、ABCの発音ベースを説明。 予習・復習 英語のABC発音との違いをマスター		
	第2回	ドイツ語の発音について：日本語になっているドイツ語から学べること。ドイツの歴史などドイツの文化紹介。 予習・復習 発音の復習		
	第3回	発音の練習（曜日、月、四季、1-10までの数字など）。英語との違いも説明。 予習・復習 発音の復習		
	第4回	簡単な挨拶のしかた（簡単な日常会話）。動詞の使い方。疑問詞。助動詞について、英語との比較。 予習・復習 発音の復習		
	第5回	名詞の性。人称代名詞。ドイツの教育制度について 予習・復習 発音の復習		
	第6回	単語の勉強。体の部位や職業など。定冠詞と不定冠詞 予習・復習 発音の復習		
	第7回	ドイツの文化（食事について：タビトモの料理を紹介）。文法その他、教科書での説明。 予習・復習 発音の復習		
	第8回	その他、文法についての総まとめ。 予習・復習 発音の復習		
授業の目的・到達目標	ABCから始めて、ドイツ語を読めるようにする事。また文法として初歩レベルを習得する事を目指す。ドイツと言う国の文化・生活に関する知識も習得する。また、ドイツ語と英語の相関を概略知ること、言語文化の理解をしてもらう。ドイツ語は医療関係に多く使われて居るので、それについても理解を深める。			
教育目標に対する科目の位置付け	ABCから始めて、ドイツ語を読めるようにする事。また文法として初歩レベルを習得する。ドイツという国の文化・生活に関する知識も習得する。			
教科書	ゼロから始めるドイツ語BOOK、成美堂出版 山路朝彦著 1000円CD付 タビトモ会話 ドイツ JTBパブリッシング 1200円			
参考書	辞書：アクセス独和辞典 第3版 [単行本] 在間進（著、編集）、三修社など ドイツ語電子辞書：XD-D7100 CASIOドイツ語モデルか、SEIKO SR-V5010ドイツ語モデル			
評価基準及び成績評価方法	ノートレベルで30点、期末テストで70点：ドイツ語の発音がある程度できることと、英語との違い、基本文法の構造を理解しているかを評価。			
達成度の伝達	レポートについては評価と感想を付けて返却。レポートについては評価と感想を付けて返却。ノート、テストはチェック後返却。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	授業の中でドイツ語やドイツに対する興味を持って頂き、基礎ドイツ語習得を期待。			
履修登録条件				

講義科目名称：健康スポーツ I

英文科目名称：Health Sports I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
吉田 弘法				
人間の理解と科学的思考科目群			健康・スポーツ	養護教諭一種免許状

授業概要	<p>本講では、健康の維持・増進のために知っておくべき知識について解説します。主な内容としては、生活習慣病と運動の効果、筋力トレーニング、持久力トレーニング（ウォーキング等）、加齢や性別を考慮したトレーニング、栄養と運動、休養と運動など、現代を生きる学生が健康で充実した人生を送るために必要な知識を解説します。</p> <p>本講では、毎授業の最後に講義内容の理解度を確認するために小テストを実施します。また、講義内容全般の理解度については、筆記試験とレポートで確認します。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 講義内容に関する説明 授業ガイダンス 健康を維持するための生活スタイル ヘルスプロモーション</p> <p>第2回 運動習慣と生活習慣病 運動不足と生活習慣病 生活習慣病予防のための運動指針</p> <p>第3回 運動不足と肥満 からだの組成（体脂肪の役割） 肥満になるの要因と評価方法 安静時エネルギー代謝 運動と肥満の関係 食事と運動と肥満の関係 メタボリックシンドロームの予防</p> <p>第4回 筋力トレーニングの方法と効果 骨格筋の構造と特性 無酸素性エネルギー供給 目的別筋力トレーニング 食事や休養がもたらすトレーニング効果</p> <p>第5回 スタミナ（全身持久性）向上トレーニング 有酸素性エネルギー供給 エネルギー代謝からみた持久力 持久力を向上させるトレーニングとは？</p> <p>第6回 性別や加齢に伴う身体機能の変化 加齢と体力 性別と体力 デイトレーニング 筋量と骨量の関係 サルコペニアを防げるか</p> <p>第7回 環境とスポーツ活動 暑熱環境と運動 熱中症予防 寒冷環境と運動 その他</p> <p>第8回 ウォーミングアップとクーリングダウン ウォーミングアップの目的と効果 ウォーミングアップの運動強度と内容 クーリングダウンの目的と効果 クーリングダウンの運動強度と内容 疲労回復法 筆記試験</p>
授業の目的・到達目標	<p>本講義の目的は、スポーツ・運動を通じて予備力としての体力を養い、生活の質(QOL)の向上を図り、健康な生活を送るための基礎知識を理解させることです。</p> <p>授業では、健康の維持・増進のために行う運動やスポーツの価値観やその意義について考えていただきます。運動やスポーツは、若者やスポーツ選手だけのものではありません。今日では、子どもからお年寄りまで、すべての年齢層に亘り多くの人々が運動やスポーツを親しんでいます。運動やスポーツを行うことは、体力向上や健康な生活を送るために必要不可欠なものであるだけでなく、人と人との交流を生み出すことにも役立っており、生涯にわたり豊かで活力のある生活を営むための礎として理解を深めていただくことを学習目標としています。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	講義内容に合わせて適宜プリントを配布します。
参考書	講義の進捗状況に応じて、適宜紹介します。
評価基準及び成績評価方法	総合評価は、小テスト（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）の合計点で評価します。

達成度の伝達	質問等は、授業中とメール等で受け付け、回答します。授業内容の理解度に関しては、授業内に実施する小テストによって確認します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	電子メールでの質問は、翌週の授業までに回答します。 (電子メールアドレスは yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jp です) 直接相談したい方は、毎週金曜日5コマ目に本城校舎 1Fフィットネスルームにお越し下さい。 気軽にご相談下さい。
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅡ

英文科目名称：Health Sports2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
吉田 弘法				
人間の理解と科学的思考科目群			健康・スポーツ	養護教諭一種免許状

授業概要	<p>この授業は、健康の維持・増進を目的とした運動方法の知識の修得と実践を行います。授業内容は、フィットネストレーニング（ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング、筋力向上トレーニング、全身持久性向上トレーニング、バランス向上トレーニング等）とレクリエーションスポーツ（バドミントン、アルティメット等）を行います。</p> <p>個人で行うフィットネストレーニングやチームまたはペアで行うレクリエーションスポーツによって、主体性や協調性、さらには思いやりの心を養うことを期待しています。実習は、前半をフィットネスルーム、後半を体育館で行います。第1週と最終週は、講義を予定しています。</p>			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション 授業内容の解説 実習日誌の配布。授業概要と成績評価等の説明。 フィットネストレーニングの基礎知識 ※フィットネスルームで得られる効果について ※フィットネスルームの利用方法について</p>		
	第2回	<p>フィットネストレーニング基礎 ウォーミングアップとクーリングダウンを理解する。 体力テストにより自己の体力の確認 ①体組成（身長、体重、BMI、体脂肪率、骨格筋率等） ②エアロバイクによる持久力評価 ③柔軟性評価（長座体前屈等） ④筋力および筋持久力評価（握力、脚筋力、上体起こし：30秒間シットアップ等） ※その他パフォーマンステストにより基礎体力の確認を行う。</p>		
	第3回	<p>フィットネストレーニング基礎 グループエクササイズ 全体でストレッチング ※①～④をローテーションで実施。 ①フィットネストランポリン ②マシントレーニング ③エアロビクス（エアロバイク、トレッドミル等） ④チューブトレーニング</p>		
	第4回	<p>フィットネストレーニング基礎 グループエクササイズ 全体でストレッチング ※①～④をローテーションで実施。 ①フィットネストランポリン ②マシントレーニング ③エアロビクス（エアロバイク、トレッドミル等） ④チューブトレーニング</p>		
	第5回	<p>フィットネストレーニング基礎 グループエクササイズ 全体でストレッチング ※①～④をローテーションで実施 ①フィットネストランポリン ②マシントレーニング ③エアロビクス（エアロバイク、トレッドミル等） ④チューブトレーニング</p>		
	第6回	<p>バドミントン 前半20分間はWarm-upとコアビリティトレーニング バドミントンの基本技術の習得 後半10分間のクーリングダウン</p>		
	第7回	<p>バドミントン 前半20分間はWarm-upとコアビリティトレーニング バドミントン（ダブルス）でのゲームの理解と体験 後半10分間のクーリングダウン</p>		
	第8回	<p>バドミントン 前半20分間はWarm-upと肩こり予防のための基本的なトレーニングを体験 バドミントン（ダブルス）でのゲーム展開を体験 後半10分間のクーリングダウン</p>		
	第9回	<p>バドミントン 前半20分間はWarm-upと腰痛予防のための基本的なトレーニングを体験 バドミントン（ダブルス）でのゲーム展開を体験 後半10分間のクーリングダウン</p>		
	第10回	<p>ソフトバレーボール 前半20分間はWarm-upと敏捷性を高めるアジリティートレーニング 基本技術習得後、9人制簡易ルールによりゲームを楽しむ</p>		
	第11回	<p>ソフトバレーボール 前半20分間はWarm-upと敏捷性を高めるアジリティートレーニング グループによる基礎練習とゲームの実践を行う</p>		
	第12回	<p>ソフトバレーボール</p>		

	<p>前半20分間はWarm-upとコアビリティトレーニング グループによる基礎練習とゲームの実践を行う</p> <p>第13回 アルティメット</p> <p>前半20分間はWarm-upとコアビリティトレーニング フライングディスクの基本的な投げ方と受け方 ゲームを楽しむ</p> <p>第14回 アルティメット</p> <p>前半20分間はWarm-upとコアビリティトレーニング フライングディスクの基本的な投げ方と受け方 ゲームを楽しむ</p> <p>第15回 総説</p> <p>自己の体力要素の理解と必要な運動について理解し、運動をプログラムする。</p>
授業の目的・到達目標	運動やスポーツを通じて予備力としての体力を養い健康な生活を送るための基礎知識について実践を通して学習します。また、礼儀を重んじて人間力を高めることを目標としています。個々の体力を向上させるためにどのように運動やスポーツを取り入れることが望ましいかを実践を通して学習します。実習では、体力測定とその評価を行い、個々の体力的な要素を確認して、健康生活のための質的向上を図るための指標として役立てます。集団での運動やスポーツの実施は、協調性や主体性、さらに他者を思いやる心を養います。また、スポーツのルールやマナーを遵守し、コミュニケーション能力の向上を図り、身体を動かす楽しさを体感して快適な日常生活を築く礎を養います。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標は、「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」を目指します。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布します。
参考書	必要に応じて適宜資料を配布します。
評価基準及び成績評価方法	成績評価は、前半と後半をそれぞれ100点満点として、その平均点を総合評価とします。評価の割合は、実習（積極性、協調性、マナー等を含む）を60%、実習日誌とレポートを各20%として、60点以上を合格とします。
達成度の伝達	授業内容の理解度に関しては、実習毎に実習日誌（レポート）の記録を義務付け、最終授業の際に提出していただきます。尚、実習日誌は、第1回の授業（ガイダンス）時に配布予定です。質問等は、授業中およびメール等で受け付け、回答します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	電子メールでの質問は、翌週の授業までに回答します。 メールアドレス yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jp をお願いします。 直接相談をされる方は、毎週金曜日5時限目に本城校舎1Fフィットネスルームでお待ちしています。 気軽にご相談下さい。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎ゼミナール I

英文科目名称：Basic seminar I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	必修	演習
担当教員				
川島美佐子、杉原喜代美、青山みどり、栗田佳江、櫻井清美、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、杉本厚子、中村史江、荻原弘幸、尾島喜代美、齋藤恵子、富山美佳子、石井千晴、川久保和子、斉藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、横山文子、横山詞果				
人間の理解と科学的思考科目群		基礎ゼミナール		

授業概要	初年次の導入教育として、大学の環境に慣れ、ゼミナールの仲間、教員とのコミュニケーションをとりながら、スタディ・スキルを身につけていく。また、入学時から卒業後の職業を意識して、大学で学ぶということ、職業とは何か、働くことの意味、職業とキャリア形成について段階的に理解していく。さらに、専門職としての倫理観を養うために、看護・医療を取り巻く倫理的課題について探求的に学ぶ。少人数制ゼミナール形式を基本とする。			
授業計画	第 1 回	科目ガイダンス 科目ガイダンス： ・入学時に配布された基礎ゼミ担当教員の研究室を訪問する。 ・自己紹介 ・リフレクションレポートについて ・学生便覧、Student の活用 ・履修相談		
	第 2 回	大学で学ぶということ（1） ・大学の授業・ノートのとり方 ・大学で学ぶ力（調べる・ノートをとる・読む・要約する・意見をきく・主張する・書く） ・大学生活に慣れる。 ・ゼミナールの仲間と協力して学習を進める。 ・主体的に学ぶ。		
	第 3 回	進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 大学で学ぶということ（2） ・大学の授業・ノートのとり方 ・大学で学ぶ力（調べる・ノートをとる・読む・要約する・意見をきく・主張する・書く） ・大学生活に慣れる。 ・ゼミナールの仲間と協力して学習を進める。 ・主体的に学ぶ。		
	第 4 回	進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 大学で学ぶということ（3） ・大学の授業・ノートのとり方 ・大学で学ぶ力（調べる・ノートをとる・読む・要約する・意見をきく・主張する・書く） ・大学生活に慣れる。 ・ゼミナールの仲間と協力して学習を進める。 ・主体的に学ぶ。		
	第 5 回	進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（1） ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと		
	第 6 回	進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（2） 文献検索の方法を学ぶ（図書館・情報科学センター）		
	第 7 回	倫理的課題に関する学習（3） 文献検索の方法を学ぶ（図書館・情報科学センター）		
	第 8 回	倫理的課題に関する学習（4） ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと		
	第 9 回	進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。担当教員の指示による。 倫理的課題に関する学習（5） ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと		

	<p>第10回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと <p>第11回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと <p>第12回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと <p>第13回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと <p>第14回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 倫理的課題に関する学習（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療を取り巻く倫理的課題とは ・人権とは ・道徳とは、価値観とは ・倫理観とは ・職業倫理とは ・興味をもち、探求したいこと <p>第15回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 半期を振り返り、後期の課題を明確にする。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p>
授業の目的・到達目標	<p>充実した大学生活を送るために、スタディ・スキル、ソーシャル・スキルを身につけ、キャリア形成のための基本的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での知的活動のためのスタディ・スキルを実践できる。 ②友人や教員との円滑なコミュニケーションのためにソーシャル・スキルを実践できる。 ③看護職に必要な職業倫理を説明できる。 ④キャリア形成のための基盤となる自らの考えを説明できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探求心をもって、継続的に学習できる。」から配置された人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材」「事故の成長を目指し、意欲をもって積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材」につながる。さらには、看護学士課程教育の質保証のための基盤となることを期待する。</p>
教科書	<p>知のツールボックス フレッシュマンおたすけ集、専修大学出版企画委員会編 スチューデントハンドブック2015</p>
参考書	<p>授業中に提示する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>リフレクション30%、グループ課題への取り組み70%</p>
達成度の伝達	<p>学習達成度を評価表をもとに個人にコメントする。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>基礎ゼミナールⅠは、大学に通い始めて生じてくる戸惑いへの対処や、これまでの生活との違いにスムーズに適応していただくための支援的な関わりをします。ゼミナールとは、大学で行われる授業の方法のひとつで、学生の皆さんが主体的に学ぶことが期待されます。その方法はゼミ担当の教員により異なりますが、目標は同じで専門職としてのキャリア形成の礎を作ることを目指します。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：基礎ゼミナールⅡ

英文科目名称：Basic seminar2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
川島美佐子、杉原喜代美、青山みどり、栗田佳江、櫻井清美、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、杉本厚子、中村史江、荻原弘幸、尾島喜代美、齋藤恵子、富山美佳子、石井千晴、川久保和子、斉藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、横山文子、横山詞果				
人間の理解と科学的思考科目群		基礎ゼミナール		

授業概要	初年次の導入教育として、大学の環境に慣れ、ゼミナールの仲間、教員とのコミュニケーションをとりながら、スタディ・スキルを身につけていく。また、入学時から卒業後の職業を意識して、大学で学ぶということ、職業とは何か、働くことの意味、職業とキャリア形成について段階的に理解していく。さらに、専門職としての倫理観を養うために、看護・医療を取り巻く倫理的課題について探求的に学ぶ。少人数制ゼミナール形式を基本とする。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス ・基礎ゼミⅡの説明を受ける。 ・担当教員とゼミの仲間と円滑なコミュニケーションをとる。 ・自分の個性や適性、ゼミの仲間の個性や適性を知る。</p> <p>第2回 プレゼンテーション準備 効果的なプレゼンテーション手法を身につけ、自分の意見を論理的に相手に伝え、ディスカッションに参加する。 ・基礎ゼミⅠの学習を振り返り、何を伝えたいのか、伝えるべきなのかを考える。 ・プレゼンテーションとは、効果的な方法とは ・ディスカッションのマナーと意義を十分理解する。 ・プレゼンテーションの準備と役割分担を計画し、実行する。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第3回 プレゼンテーション準備 効果的なプレゼンテーション手法を身につけ、自分の意見を論理的に相手に伝え、ディスカッションに参加する。 ・基礎ゼミⅠの学習を振り返り、何を伝えたいのか、伝えるべきなのかを考える。 ・プレゼンテーションとは、効果的な方法とは ・ディスカッションのマナーと意義を十分理解する。 ・プレゼンテーションの準備と役割分担を計画し、実行する。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第4回 プレゼンテーション準備 効果的なプレゼンテーション手法を身につけ、自分の意見を論理的に相手に伝え、ディスカッションに参加する。 ・基礎ゼミⅠの学習を振り返り、何を伝えたいのか、伝えるべきなのかを考える。 ・プレゼンテーションとは、効果的な方法とは ・ディスカッションのマナーと意義を十分理解する。 ・プレゼンテーションの準備と役割分担を計画し、実行する。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第5回 プレゼンテーション 発表会は、学生が主体的に運営する。プレゼンテーションを聞き、発表者と聴衆がディスカッションをする。ゼミごとに、考え方の広がりや深まりを確認する。</p> <p>第6回 プレゼンテーション 発表会は、学生が主体的に運営する。プレゼンテーションを聞き、発表者と聴衆がディスカッションをする。ゼミごとに、考え方の広がりや深まりを確認する。</p> <p>第7回 プレゼンテーション 発表会は、学生が主体的に運営する。プレゼンテーションを聞き、発表者と聴衆がディスカッションをする。ゼミごとに、考え方の広がりや深まりを確認する。</p> <p>第8回 スタディ・スキル『レポートの作成』 レポートの書き方の基礎知識 引用・参考文献の書き方 自分で推敲する。 相互に推敲する。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第9回 ようこそ先輩 先輩の学生生活、単位取得、テスト対策、実習経験などを伺い、対話することで、自分が大学で学ぶべきこと、目標、キャリアデザインを描く。</p> <p>第10回 基礎ゼミの学習を振り返り、自らの考えをレポートする。 レポートの書き方の基礎知識 引用・参考文献の書き方 自分で推敲する。 相互に推敲する。</p> <p>第11回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 基礎ゼミの学習を振り返り、自らの考えをレポートする。 レポートの書き方の基礎知識 引用・参考文献の書き方 自分で推敲する。 相互に推敲する。</p> <p>第12回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 基礎ゼミの学習を振り返り、自らの考えをレポートする。 レポートの書き方の基礎知識 引用・参考文献の書き方</p>

	<p>自分で推敲する。 相互に推敲する。</p> <p>第13回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 基礎ゼミの学習を振り返り、自らの考えをレポートする。 レポートの書き方の基礎知識 引用・参考文献の書き方 自分で推敲する。 相互に推敲する。</p> <p>第14回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 1年次の振り返り</p> <p>第15回 2年次への課題と目標について (AITキャリアプラン：キャリア講座)</p>
授業の目的・到達目標	<p>充実した大学生活を送るために、スタディ・スキル、ソーシャル・スキルを身につけ、キャリア形成のための基本的能力を養う。</p> <p>①大学での知的活動のためのスタディ・スキルを実践できる。 ②友人や教員との円滑なコミュニケーションのためにソーシャル・スキルを実践できる。 ③看護職に必要な職業倫理を説明できる。 ④キャリア形成のための基盤となる自らの考えを説明できる。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探求心をもって、継続的に学習できる。」から配置された人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材」「事故の成長を目指し、意欲をもって積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材」につながる。さらには、看護学士課程教育の質保証のための基盤となることを期待する。</p>
教科書	<p>知のツールボックス フレッシュマンおたすけ集、専修大学出版企画委員会編</p>
参考書	<p>授業中に提示する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>リフレクション30%、プレゼンテーション30%、課題レポート40%</p>
達成度の伝達	<p>レポートの返却とともに学習達成度を評価表をもとに個人にコメントする。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>基礎ゼミナールⅠの学びをプレゼンテーションし、自分達の学びを多くの人に「伝える・共有する・深める」ことが求められます。1年間の学びを活かし、自己のキャリアデザインを描きながら、現在の自分の考えを明確にします。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：医療概論

英文科目名称：Introduction to Medical Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
山門 實				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医の原点および医療の概念から医療人の心構えを学ぶ。さらに本授業では、医療をめぐる今日的課題である脳死、臓器移植やインフォームドコンセントなどについて。理解を深め視野を広げるとともに、それらの課題に関わる内容について討議し、対策と課題解決に向けた能力を養う。
授業計画	<p>第1回 医療概論入門 ●予習：1. 大学で何をどのように学習するか。2. 医療概論で何を学ぶか。3. 医療と医学について。3. サイエンスとアート。4. 医道。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第2回 人間の生命について ●予習：1. 生命とは。2. 医の倫理、生命の倫理。3. 健康と病気。4. QOL。5. 医療者と患者関係。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第3回 医学・医療の歴史 ●予習：1. 医療の起源。2. 古代、中世、近代の医学。3. 20世紀の医学。4. 先端医療。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第4回 病気の原因 ●予習：1. 病理学。2. 病気の原因。1) 内因、2) 外因、3) 原因不明の病気。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第5回 病気による身体変化 ●予習：1. 病理学的変化。2. 病気と生体反応（ホメオスターシス）。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第6回 病気の診断、治療 ●予習：1. 診断の方法。2. 診察。3. 臨床検査。4. 治療法。5. インフォームドコンセント。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第7回 病気の発症予防、重症化予防 ●予習：1. わが国の医療法。2. 医療システム。3. わが国の医療の問題点（専門医制度）。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。</p> <p>第8回 まとめ（グループワーク） ●予習：これまでの講義について復習する（模擬試験）。</p>
授業の目的・到達目標	授業の目的は、医療としての看護について、ことに科学的根拠に基づいた看護実践能力、すなわち、目の患者がどのような看護を必要としているかを自ら把握し、実践する能力を身につけるための基本となる医学について、その基礎的概論を学習する。到達目標は、医学の本質を十分に理解した上で、医療において重要な役割を果たす看護の意義について、その目的、方法を学習する態度について、プロフェッショナルオートノミー（専門職の自律性）から身につける。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職として高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。
教科書	医学書院 「系統看護学講座」別巻 「医学概論」 2016年 第8版第16刷
参考書	医学書院 「系統看護学講座」基礎分野 「人間関係論」 2016年 第2版第17刷
評価基準及び成績評価方法	学習取得状況については、定期試験で評価し、合格基準は60点以上とする。なお、60点未満の学生については、授業に復習として提出されたレポートを評価をし、その総合評価の結果を、最大20点として、定期試験の結果に加算する。
達成度の伝達	授業に復習として提出されたレポート（4回の予定）については、次回の授業において採点結果（5点満点）を通達する。また、達成度の評価である定期試験の結果については、定められた方法で通達する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	本授業では、まず、大学での学習法を身につけることが大切です。ことに医療概論については看護の基礎となることから、その知識の習得とともに、プロフェッショナルオートノミー（専門職の自律性）から、生涯教育の態度を身につけることも大切です。
履修登録条件	

講義科目名称： 人体の構造と機能 I

英文科目名称： Structure and function of human body I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	必修	演習
担当教員				
山門 實、長 雄一郎				
専門基礎科目群	健康と疾病の理解			養護教諭一種免許状

授業概要	<p>人体の構造と機能として解剖学と生理学を極力融合させ、人体各部分の形態と構造、そしてその働き(機能)を統合した学問として、看護専門職に必要な十分な、臨床に必要な基礎知識の修得と思考力を養う。病気によるからだの変化も、病気の治療や予防も、すべて、正常なからだの構造、形態や機能についての知識が基礎になる。人体の構造と機能Iでは、人体の構造と機能総論、消化器系、呼吸器系、血液系、循環器系、体液の調節と尿の生成に関する人体の構造と機能について学習する。</p>			
授業計画	第 1 回	<p>科目ガイダンス (長 雄一郎) 人体の構造と機能を学ぶために 1. 人体の構造と機能についてなにを学ぶか 2. 看護専門職として人体の構造と機能を学ぶ意義、解剖学と生理学の歴史と現在</p>		
	第 2 回	<p>人体の構造と機能総論 1 (長 雄一郎) 第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1. 人体とはどのようなものか 2. 人体の素材としての細胞・組織</p>		
	第 3 回	<p>人体の構造と機能総論 2 (長 雄一郎) 第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識 3. 構造と機能からみた人体</p>		
	第 4 回	<p>消化器系 1 (長 雄一郎) 第2章 栄養の消化と吸収 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能</p>		
	第 5 回	<p>消化器系 2 (長 雄一郎) 第2章 栄養の消化と吸収 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4. 腹膜</p>		
	第 6 回	<p>呼吸器系 1 (長 雄一郎) 第3章 呼吸と血液のはたらき 1. 呼吸器の構造</p>		
	第 7 回	<p>呼吸器系 2 (長 雄一郎) 第3章 呼吸と血液のはたらき 2. 呼吸 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸気量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節 7) 呼吸器系の病態生理</p>		
	第 8 回	<p>血液系 1 (長 雄一郎) 第3章 呼吸と血液のはたらき 3. 血液 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板</p>		
	第 9 回	<p>血液系 2 (山門 實) 第3章 呼吸と血液のはたらき 3. 血液 5) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 6) 血液の凝固と線維素溶解 7) 血液型</p>		
	第 10 回	<p>循環器系 1 (山門 實) 第4章 血液の循環とその調節 1. 循環器系の構成 2. 心臓の構造</p>		
	第 11 回	<p>循環器系 2 (山門 實) 第4章 血液の循環とその調節 3. 心臓の拍出機能 4. 末梢循環系の構造</p>		
	第 12 回	<p>循環器系 3 (山門 實) 第4章 血液の循環とその調節 5. 血液の循環の調節 6. リンパとリンパ管</p>		
	第 13 回	<p>体液の調節と尿の生成 1 (長 雄一郎) 第5章 体液の調節と尿の生成 1. 腎臓</p>		
	第 14 回	<p>体液の調節と尿の生成 2 (長 雄一郎)</p>		

	<p>第5章 体液の調節と尿の生成 2. 排泄路 3. 体液の調節</p> <p>第15回 まとめ(長 雄一郎) 人体の構造と機能Ⅰのまとめ: 模擬試験</p>
授業の目的・到達目標	<p>医学・看護学の基礎として人体の構造と機能を学び、看護専門職に必用な基礎知識の修得と思考力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能総論を学ぶことによって、人体の正常構造やその機能を理解し説明できるようになる。 ・消化器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・呼吸器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・血液系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・循環器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・体液の調節と尿の生成に関する人体の構造と機能について理解し説明できるようになる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した専門基礎科目群の科目である。ディプロマポリシーの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験、課題レポート</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートは評価のうえ返却して概説する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>予習と復習を各自必ず行うこと。</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 人体の構造と機能Ⅱ

英文科目名称： Structure and function of human body 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
依藤 宏				
専門基礎科目群	健康と疾病の理解			養護教諭一種免許状

授業概要	<p>人体の構造と機能を扱う解剖学と生理学を極力融合させ、人体各部分の形態と構造、そしてその働き(機能)を統合した学問として、看護専門職に必要十分、かつ臨床に必要な基礎知識の修得と思考力の養成を目指す。病気によるからだの変化も、病気の治療や予防も、すべて、正常なからだの構造、形態や機能についての知識が基礎になる。人体の構造と機能IIでは、内臓機能の調節、からだの支持と運動、情報の受容と処理、外部環境からの防衛、生殖・発生と老化の仕組み、体表から見た人体の構造と機能について学習する。</p>			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 内臓機能の調節1 自律神経による調節、内分泌系による調節 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第2回	<p>第6章 内臓機能の調節 1. 自律神経による調節 2. 内分泌系による調節 内臓機能の調節2 全身の内分泌と内分泌細胞 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第3回	<p>第6章 内臓機能の調節 3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 内臓機能の調節3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第4回	<p>第6章 内臓機能の調節 4. ホルモン分泌の調節 5. ホルモンによる調節の実際 からだの支持と運動1 骨格とはどのようなものか、骨の連結、骨格筋、体幹の骨格と筋 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第5回	<p>第7章 身体の支持と運動 1. 骨格筋とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 骨格筋 4. 体感の骨格と筋 からだの支持と運動2 上肢・下肢の骨格と筋 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第6回	<p>第7章 身体の支持と運動 5. 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋 からだの支持と運動3 頭頸部の骨格と筋、筋の収縮 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第7回	<p>第7章 身体の支持と運動 7. 頭頸部の骨格と筋 8. 筋の収縮 情報の受容と処理1 神経系の構造と機能、脊髄と脳 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第8回	<p>第8章 情報の受容と処理 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳 情報の受容と処理2 脊髄神経と脳神経、脳の高次機能 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		
	第9回	<p>第8章 情報の受容と処理 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能 情報の受容と処理3 運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路、眼の構造と視覚 ●予習:講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習:講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p>		

	<p>第8章 情報の受容と処理 5. 運動機能と下行伝導路 6. 感覚機能と上行伝導路 7. 眼の構造と視覚</p> <p>第10回 情報の受容と処理4 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、疼痛（痛み） ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p> <p>第8章 情報の受容と処理 8. 耳の構造と聴覚・平衡覚 9. 味覚と嗅覚 10. 疼痛（痛み）</p> <p>第11回 外部環境からの防御1 皮膚の構造と機能、生体防御機構 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p> <p>第9章 外部環境からの防御 1. 皮膚の構造と機能 2. 静態の防御機構 3. 体温調節</p> <p>第12回 外部環境からの防御2 生体防御機構 体温とその調節 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p> <p>第10章 生殖・発生と老化のしくみ 1. 男性生殖器 2. 女性生殖器</p> <p>第13回 生殖・発生と老化の仕組み1 男性生殖器、女性生殖器 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p> <p>第10章 生殖・発生と老化のしくみ 3. 受精と胎児の発生</p> <p>第14回 生殖・発生と老化の仕組み2 受精と胎児の発生、成長と老化 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。</p> <p>第10章 生殖・発生と老化のしくみ 4. 成長と老化</p> <p>第15回 体表から見た人体の構造 全体のまとめ ●予習：講義内容について該当部分を読んでおきまた講義全体の内容について必要な部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習しまた講義全体の内容について大事な部分や用語などを学習すること。</p> <p>第11章 体表から見た人体の構造と人体の機能</p> <p>模擬試験</p>
授業の目的・到達目標	<p>医学・看護学の基礎として人体の構造と機能を学び、看護専門職に必要な基礎知識の修得と思考力の養成を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能を学ぶことによって、統合体としての人体の正常機能を理解する。 ・内臓機能の調節に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・からだの支持と運動に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・情報の受容と処理に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・外部環境からの防衛に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・生殖・発生と老化の仕組みに関与する諸器官の構造と機能を説明できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能Ⅰ 坂井建雄他著 医学書院</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>講義ごとの小テスト20%、筆記試験80% 定期試験での筆記試験を評価の基本とするが、講義ごとの小テストの結果も加算する。</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の答案を返却するとともに模範解答を概説する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>予習と復習を各自必ず行うこと。 ことに復習では、各章の末尾にある「ゼミナール」で復習する。</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 栄養学

英文科目名称： Nutrition science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
川田 容子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	食物と各栄養素の意義、食生態学、食行動、食物の摂取と消化吸収、エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準、栄養の現状などについて学ぶ。健康を維持増進させるための適切な食事や栄養摂取について学習する。さらに、各疾患と栄養の関係、特に生活習慣病と栄養の関係、食事療法についてより深く学習する。また、食品学の基礎として、食品の成分的成り立ちや特性、機能を中心に栄養的・思想的・生理学的・生化学的側面の多面的理解を深める。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 臨床栄養学の基礎知識（臨床栄養学の意義と看護、栄養とは） （予習） テキスト 1 臨床栄養学の意義と看護 p. 10-11, 2 栄養とは p. 12に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第2回 栄養素の働き（たんぱく質・脂質・糖質） （予習） テキスト 2 栄養素の分類 p. 13-25 （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第3回 栄養素の働き（ビタミン・ミネラル・水分） （予習） テキスト 2 栄養素の分類 p. 25-43 （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第4回 栄養素の消化・吸収と栄養素の代謝 （予習） 配布資料およびテキスト 2 運動と栄養 p. 104-111 （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第5回 食品成分と食事摂取基準、食事バランスガイド （予習） テキスト 1 食品成分とエネルギー p. 52-65, 2 食事摂取基準 p. 66-98, 食事バランスガイド p. 118に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第6回 栄養アセスメント、国の健康政策・国民栄養の現状・食生活の変遷・食生活指針 （予習） テキスト 3 栄養アセスメント p. 44-50, 1 食文化 p. 100-103, 食生活指針 p. 197に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第7回 人生各期における健康生活と栄養①-乳幼児期・学童期 （予習） テキスト 3 人生各期における健康生活と栄養 1 乳幼児期、2 学童期 p. 112-119に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第8回 人生各期における健康生活と栄養②-青年期・成人期・妊娠・授乳期・高齢期 （予習） テキスト 3 人生各期における健康生活と栄養 3 青年期、成人期、妊娠・授乳期、高齢期 p. 119-134に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第9回 疾患別の食事療法①-栄養成分別コントロール食とは、消化器系疾患 （予習） テキスト 3 栄養成分別コントロール食 p. 149-152, 1 消化器系疾患の食事療法 p. 164-181に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第10回 疾患別の食事療法②-内分泌・代謝疾患 （予習） テキスト 2 内分泌・代謝疾患の食事療法 p. 182-185に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第11回 疾患別の食事療法③-2 内分泌・代謝疾患の実際 糖尿病の食事療法と糖尿病の交換表について （予習） テキスト 糖尿病の交換表に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第12回 疾患別の食事療法④-循環器系疾患・腎疾患 （予習） テキスト 3 循環器系疾患の食事療法 p. 186-188, 4 腎疾患の食事療法 p. 189-194に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第13回 療養生活と栄養①-検査食、術前・術後食 （予習） テキスト 1 検査のための食事 p. 138-139, 2 治療による回復を促すための食事 p. 140-148に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第14回 療養生活と栄養②-嚥下障害者のための食事、経管栄養法、中心静脈栄養法 （予習） テキスト 4 嚥下障害のある人の食事 p. 153-156, 5 経口摂取できない患者のための栄養管理 p. 157-161に目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第15回 まとめ （予習） テキストに目を通す （復習） 講義の資料・ノートを見直す</p>
授業の目的・到達目標	<p>身体の健全な発育や健康を維持するために、必要な栄養・食品に関する基礎的な知識を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食生活の現状を把握し、健康の維持・増進、生活活動に必要な栄養素について説明できる。 ・自分の食事について適量摂取とバランスがどのような状態か、わかるようになる。 ・それぞれのライフステージにある対象に適した食生活について説明できる。 ・食事療法を必要とする患者に対する食事指導の実際がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。

教科書	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 関戸啓子編集 メディカ出版 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著 文光堂
参考書	初回講義の時に紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	科目試験80%、課題レポート20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	栄養学で学んだことを自分の食生活にも反映させて、より健全でより豊かな食生活になるように実践していきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：微生物学

英文科目名称：Microbiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
細谷 京子				
専門基礎科目群	健康と疾病の理解			養護教諭一種免許状

授業概要	看護専門職として感染症に対する理解と対応が医療のレベルを決定する大きな因子の一つとなっている現状から、感染症の原因となっている微生物に関する正しい知識の修得と、その対応について理解を深める。微生物学の成り立ち、微生物の特徴、構造、生物学的特徴（病原性を含む）、滅菌と消毒の方法、化学療法、薬剤耐性、免疫、正常細菌叢などについて学習する。消毒滅菌法の基礎とスタンダードプリコーションなど感染予防学の知識と技術の修得を目指す。また、免疫の仕組みの基礎について学習し、各種の抗体検査やアレルゲンの検査法の基礎についても学習する。			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 微生物学の基礎 1 微生物の種類と特徴、微生物学の歩み 予習：テキストp4～12を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第2回	<p>微生物学の基礎 2 細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質 予習：テキストp14～66に書かれている細菌・真菌・原虫・ウイルスの特徴に目をとおして授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第3回	<p>感染とその防御 1 微生物感染の機構 予習：テキストp70～96を精読し、感染のメカニズムの概要を理解して授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第4回	<p>感染とその防御 2 滅菌と消毒 予習：テキストp114～154を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第5回	<p>感染とその防御 3 免疫の種類とそのしくみ 予習：テキストp98～127を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第6回	<p>感染とその防御 4 感染症の現状と対策 予習：テキストp198～211を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第7回	<p>主要な病原微生物 1 病原細菌と細菌感染症：グラム陽性球菌 予習：テキストp216～222を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第8回	<p>主要な病原微生物 2 病原細菌と細菌感染症：グラム陰性球菌 予習：テキストp222～224を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第9回	<p>主要な病原微生物 3 病原細菌と細菌感染症：グラム陽性桿菌 予習：テキストp247～261を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第10回	<p>主要な病原微生物 4 病原細菌と細菌感染症：グラム陰性桿菌 予習：テキストp224～247を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第11回	<p>主要な病原微生物 5 病原ウイルスとウイルス感染症：DNAウイルス 予習：テキストp308～321を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第12回	<p>主要な病原微生物 6 病原ウイルスとウイルス感染症：RNAウイルス 予習：テキストp321～360を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第13回	<p>主要な病原微生物 7 病原真菌と真菌感染症 予習：テキストp286～294を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第14回	<p>主要な病原微生物 8 病原原虫と原虫感染症 予習：テキストp296～305を精読し授業に臨む。 復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。</p>		
	第15回	<p>スタンダードプリコーション 予習：テキストp206～208を精読し授業に臨む。</p>		

	復習：SBOに沿って講義内容の理解状況を確認する。理解不足の部分はテキストおよび配布資料を読み直して理解を深める。
授業の目的・到達目標	感染症の原因となる各種病原微生物の特徴、感染のメカニズム、感染に伴う宿主の免疫応答を理解するとともに、各臓器に特徴的な感染症、人畜共通感染症などについて学ぶ。また、日和見感染、院内感染予防対策の具体について学ぶ。 ・臨床において看護師は、院内感染対策上の重要な役割を担うことを自覚できる。 ・修得した基礎知識に基づく安全かつ効果的な感染予防行動がとれる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門基礎 微生物学 南嶋洋一他著 医学書院
参考書	ビジュアル微生物学 小田紘著 NOUVELLE HIROKAWA
評価基準及び成績評価方法	試験およびレポート、出席状況などを加味して総合的に評価する。（試験：80%、レポート等：20%）
達成度の伝達	講義ごとの授業内容の質問票への回答、コメント
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	難解な専門用語が数多く出てきます。それらの言葉の意味を一つ一つ正しく理解しないと、“基礎知識に基づく安全かつ効果的な感染予防行動がとれる”という目標を達成することはできません。環境や生体内に存在する様々な微生物に関心を寄せ、楽しみながら学習をしていきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：病理学

英文科目名称：Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
根岸 好男				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>病気の成り立ちや仕組みを考究する学問である。病因論、病理発生論の観点からみて医学の中でも重要な位置を占め、疾病の正確な診断に欠くことのできない科学である。病理学の概論と病理学の基礎を講じ、様々な病態によって起こる人体の組織学的な変化、仕組み等について総論的に学習する。病気の原因、細胞・組織の障害、細胞の成長異常、腫瘍、循環障害、炎症、感染症、免疫性疾患、代謝異常、奇形などの種々の病気による組織の変化、形態学的特徴などについて修得する。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学の領域、細胞・組織の障害と修復 予習：病理学とはどのような学問か概略について、細胞・組織障害の原因と機序と修復過程 復習：看護と病理学、病気の原因、疾病の分類、損傷後の細胞変性と死及び組織の修復過程</p> <p>第2回 循環障害 予習：循環器系の基本的知識、局所と全身及びリンパの循環障害 復習：循環系の解剖生理学的なことの再認識と疾患、ショックの成り立ち</p> <p>第3回 炎症と免疫、移植と再生医療 予習：免疫の仕組みと働き、アレルギーの成り立ち。再生医療 復習：炎症および免疫機構とアレルギーの5つの型、膠原病や再生医療とiPS細胞について理解する。</p> <p>第4回 感染症 予習：感染症の成立、主な感染症と病原体及び症状の特徴 復習：主な病原体と感染症、感染症からの防御機構、感染症の治療と予防。</p> <p>第5回 代謝障害 予習：細胞の代謝はどのようにおこなわれているのか、代謝障害にはどのような疾患があるのか。 復習：細胞の損傷と適応。脂質、タンパク質、糖質の代謝異常と疾患。局所性及び全身性の代謝障害。</p> <p>第6回 老化と死 予習：病理学から見た老化について。どういう現象を死というのか。 復習：加齢に伴う老化現象と死について、脳死やQOLや尊厳死。</p> <p>第7回 先天異常と遺伝子異常 予習：先天異常や遺伝子疾患、胎児障害とはどのような疾病か、遺伝子エラーはどのようにして起こるのか学習する。 復習：遺伝子異常、染色体異常と疾患及びDNA診断法、遺伝カウンセリング</p> <p>第8回 腫瘍 予習：腫瘍の定義と分類、どうして腫瘍が発生するのか。悪性腫瘍の診断と治療および腫瘍統計。 復習：良性腫瘍と悪性腫瘍、悪性腫瘍の転移と進行度、腫瘍の診断方法、どのような腫瘍が多いのか腫瘍の統計。</p> <p>第9回 中間試験 予習：いままでの総論で学んだことを復習する。 復習：理解できたところとできなかったところを確認し、看護に必要な知識を身につける。</p> <p>第10回 循環器系の疾患 予習：循環器系の疾患名と成り立ち。心疾患と血管の疾患について。 復習：循環器系にはどのような疾病があるか、成り立ちと回復の促進についての概略。</p> <p>第11回 血液・造血器系、感覚器系と病理検査 予習：造血器系及び感覚器系の疾患名と成り立ちと回復の促進について概略を学ぶ。病理検査についてどのような方法があるか。 復習：骨髄と血液の疾患、リンパ系および脾臓の疾患。目・耳・皮膚の疾患、病理検査の概要。</p> <p>第12回 呼吸器系の疾患 予習：呼吸器系にはどのような疾患があるか。 復習：鼻腔・口頭・咽頭の疾患、気管 気管支、肺、胸膜の疾患と成り立ちおよび回復の促進についての概略。</p> <p>第13回 消化器系の疾患 予習：消化器系にはどのような疾患があるか。 復習：口腔・食道から胃・腸や肝・胆・膵臓などの疾患についておよび回復の促進の概略。</p> <p>第14回 腎・尿路・生殖器・乳腺および内分泌系 予習：腎・尿路・生殖器・乳腺および内分泌系の疾患にはどのようなものがあるか。その成り立ちと回復の促進についての概略。 復習：腎・尿路の疾患、生殖器・乳腺の疾患、およびホメオスタシスとしての内分泌系とその疾患。</p> <p>第15回 脳・神経・筋肉および骨・関節系 予習：脳・神経・運動器系の疾患名と成り立ちおよび回復の促進の概略。 復習：脳や神経の疾患および筋肉・骨関節系にはどのような疾患があるか。</p>
授業の目的・到達目標	<p>病理学は病気の原因を解明し、診断をしていくことを目的としています。医学の中でも臨床医学と近いところにありますが基礎医学の領域にも深いかわりを持っています。人間が自然の一部として進化してきた過程における病気とのかかわりについても取り上げながら医学の基本病因である、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍について学び、各器官系の疾病についても概ね理解できることを目的とします。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎Ⅳ 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 医学書院</p>

参考書	好きになる病理学(講談社)、ルービン 病理学臨床医学への基盤(西村書店)、進化から見た病気(講談社)
評価基準及び成績 評価方法	原則として試験の平均点が60点以上を合格点とする。(中間試験と期末試験の平均点)
達成度の伝達	病気の原因がどこにあるのか明らかにし、症状および回復の促進についてどんな現象が起こるのか理解できること。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	病理学は基礎医学と臨床医学を結びつける学問です。臨床に携わる看護業務としての礎となり、未経験のことにも弾力的に対処できるようになります。医学は進歩の速度を増しています。新発見も取り入れながらの授業となります。病理学の知識を自分のものとして身につけて下さい。
履修登録条件	

講義科目名称：精神保健

英文科目名称：Mental health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	選択	講義
担当教員				
富山 美佳子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		養護教諭一種免許状

授業概要	精神保健は、あらゆる年齢や場所での精神的健康の保持・増進をはかるための諸活動を含んでいる。精神保健の基本的視点や基礎知識、精神保健法、地域精神保健対策や精神保健行政等について学習する。また、学童期・思春期に生じやすい心の問題、養護教諭として保健室で出会うことが予想される諸問題について、成り立ちのメカニズムを理解し、基本的な対応ができる実践的能力を養う。			
授業計画	第1回	科目のガイダンス 精神保健の概要 予習：初回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第2回	心の健康と危機 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第3回	ライフサイクルからみた精神保健① 胎児期および乳幼児期の精神保健 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第4回	ライフサイクルからみた精神保健② 学童期の精神保健 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第5回	ライフサイクルからみた精神保健③④ 思春期・青年期の精神保健 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第6回	ライフサイクルからみた精神保健⑤ 成人期の精神保健 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第7回	ライフサイクルからみた精神保健⑥ 老年期の精神保健 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第8回	ライフサイクルにおける心の問題の特徴と対応① 乳幼児期の心の問題の特徴と対応 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第9回	ライフサイクルにおける心の問題の特徴と対応② 学童期の心の問題の特徴と対応 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第10回	ライフサイクルにおける心の問題の特徴と対応③ 思春期・青年期の心の問題の特徴と対応 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第11回	ライフサイクルにおける心の問題の特徴と対応④ 成人期・老年期の心の問題の特徴と対応 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第12回	医療現場における危機状況と予防・対応 予習：次回の授業内容の学習 復習：今回の授業内容の学習		
	第13回	我が国の精神保健福祉活動 復習：今回の授業内容の学習		
	第14回	精神保健福祉活動の実際		
	第15回	まとめ 復習：授業全体の学習		
授業の目的・到達目標	人間の成長発達にともなう精神機能の変化、精神発達や精神の健康に影響する要因などを理解し、精神の健康の維持増進に関する基礎知識を体系的に修得する。 ・精神の健康を心理・社会的発達と、環境との相互作用から説明できる。 ・我が国における精神保健上の問題を現代社会の様相と関連させて説明できる。 ・精神保健における個別の課題の特徴と現状を理解し、考察できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	講義にて提示			
参考書	講義にて提示			
評価基準及び成績評価方法	定期試験成績。定期試験は60点以上を合格とする。			
達成度の伝達	定期試験の返却			

資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：臨床心理学

英文科目名称：Clinical psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
泉野 淳子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことにより、対人援助の基本的視点の一助を得る。精神分析的アプローチ、行動療法的アプローチ、人間性心理学的アプローチの基礎理論、さまざまな心理療法などを概観する。また、適宜グループワークやロールプレイを取り入れながら人と人との関わりや援助の在り方について体験的に学んでいく。			
授業計画	第1回	臨床心理学とはどんな学問か。古代からのさまざまな「こころ」の癒し 原始宗教、祈祷、民間療法、芸術療法ほか 予習：臨床心理学に対してどんなイメージを持っているか、また、何を学びたいと期待しているか考えてくる。 復習：今まで臨床心理学に抱いていたイメージと講義を受けてからでは違いはあったか、どこが違っていたかまとめる。		
	第2回	カウンセリングと心理療法（1） さまざまな理論と学派。「精神分析的療法 フロイトの心のモデル」 予習：教科書の第8章「心理療法1、精神析的心理療法」（pp. 89-99）に目を通してくる。 復習：無意識とはどんなものとフロイトは見なしたか。無意識を想定すると都合の良いこと/悪いことは何か考える。		
	第3回	カウンセリングと心理療法（2） さまざまな理論と学派。「ユング派心理療法 個性化と元型、箱庭療法」 予習：教科書の第9章「心理療法2、ユング派心理療法」（pp. 100-110）に目を通してくる。 復習：ユングの元型の考え方は星占いに似ていると見なせる。どこが似ているか考えてみる。		
	第4回	カウンセリングと心理療法（3） さまざまな理論と学派。「クライエント中心療法?ロジャーズの受容・共感・ジェニユイネス?」 予習：教科書の第10章「心理療法3、クライエント中心療法」（pp. 111-123）に目を通してくる。 復習：ロジャーズのカウンセリング論はどの学派にも共通する基礎であると言われる。そこをしっかりと押さえる。		
	第5回	カウンセリングと心理療法（4） さまざまな理論と学派。「認知行動療法 学習理論と認知的アプローチ」 予習：教科書の第11章「心理療法4、認知行動療法」（pp. 124-139）に目を通してくる。 復習：現在、最も注目度の高いのが認知行動療法と言われる。基本の理論と技法を覚える。		
	第6回	カウンセリングと心理療法（5） さまざまな理論と学派。「日本の心理療法 森田療法と内観療法」 予習：教科書には載っていないので教員がプリントを用意し授業中に配布する。 復習：日本で生まれた日本独自の心理療法のあることを覚える。		
	第7回	カウンセリングと心理療法（6） 遊戯療法。「子どもを対象としたセラピー 子どもにとっての遊び」 予習：教科書の第12章「心理療法5、遊戯療法」（pp. 140-153）に目を通してくる。 復習：「遊びはそれ自体がセラピーである」（D.W. ウィニコット）の言葉の意味をかみしめる。		
	第8回	総論 さまざまな理論と学派に共通するもの 人が人を援助するとはどういうことか 予習：これまでに学んだノートを見直す。定期試験に向けて質問を受けつけるので、理解不足の箇所をあげてくる 復習：試験の傾向と対策を中心に全体の復習をする。		
授業の目的・到達目標	小中高校を通して学校で臨床心理学を学ぶ機会はなく、ともすればイメージが先行し易い学問である。そこで本講義では、実証科学の一分野としての臨床心理学はどのような学問であるか、その基本的な理解をすることを目的とする。多種多様な対人援助の方法と技術がある中で、特に人の「こころ」に関わっていくカウンセリングや心理療法の代表的な理論と実践を概観し、初めて学ぶ者への導入とする。グループディスカッションや描画ワークなどの体験学習も取り入れ、傾聴や共感の力を育むことも目標とする。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	面白いほどよくわかる臨床心理学、下山晴彦、西東社			
参考書	心理臨床の基礎、小野けい子、放送大学教育振興会			
評価基準及び成績評価方法	成績は試験（約60%）、授業中に書く4回の小レポート（約20%）、授業中に行う4回のグループワーク（約20%）とする。小レポート及びグループワークは各々1回の得点を5点から1点までの間で採点し、試験の得点に加算する。合計60点以上を合格とする。			
達成度の伝達	小レポート及びグループワークについては、その都度コメントを添えてフィードバックする。定期試験は模範解答を公開する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	色も形も重さもなく、誰1人として見たことも触ったこともない「こころ」。脳の中にあるのか、心臓の辺りにあるのか？所在場所も不明です。なのに、誰もが皆「こころ」が傷ついたり、癒されたり、ブルーになったり、重くなったり、開いたり、閉じたりするのを経験的に知っています。本当に不思議ですね。臨床心理学は、そんな捉えどころのない対象を実証的に探究していく学問です。			
履修登録条件				

講義科目名称：看護人間工学

英文科目名称：Nursing ergonomics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
杉本 厚子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	看護人間工学は医療看護の現場における作業の効率と安全性ならびに快適性に関する科学的理論とその実践方法について学ぶ科目である。作業の効率や安全性に関する人間工学の基礎理論として作業を人間・機械系の中で捉え、人間工学的視点から研究された結果から看護ケアを考えていく。これによって、看護従事者の疲労や看護ミスを軽減し、質の高い看護を実現する。
授業計画	<p>第1回 看護人間工学とは 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第2回 人間の特性①感覚、知覚、認知 人間の感覚、知覚、認知科学の入門、感覚から知覚、認知に至る人間の情報処理機能の体系を学習する。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第3回 人間の特性②環境 患者を生活者と捉え、取り巻く環境について学習する。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第4回 人間の特性③心理：身体 心理評価と心理尺度の構成：ボディメカニクスについて学習する。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第5回 人間の特性④睡眠と疲労 睡眠、疲労測定について学習する。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第6回 臨床での人間工学的アプローチ（GW） グループワークする。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第7回 臨床での人間工学的アプローチ（GW） グループワークしパワーポイントにまとめる。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第8回 グループワーク発表会、まとめ 臨床での人間工学的アプローチについてグループワークしたことをプレゼンテーションする。臨床での環境が人間工学的にどう工夫されているか学習する。 予習：グループワーク発表の準備し講義に望む。講義最終なのでわからないことは発表まとめで質問するよう準備する。 復習：プレゼンテーションを行うことで、人間工学とはどのようなことが理解できるよう復習する。</p>
授業の目的・到達目標	マンマシンシステムの視点で人間をとらえ、人間工学の基本的な概念、理論をベースに、看護ケアを考察していく。 ①人間の精神・生理機能の測定と評価がわかる。 ②動作・作業の測定と評価がわかる。 ③環境と人間の整合性がわかる。 ④看護ケアに発展して考察できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	看護の人間工学 医歯薬出版
参考書	随時紹介する。
評価基準及び成績評価方法	課題レポート（40%）、グループワーク：プレゼンテーション（60%）
達成度の伝達	コメントを入れてレポートを返却する。グループワークの発表について講評する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	本講義は看護技術、看護管理、医療安全の科目と深く関連があります。看護ケアのエビデンスのなるよう学習してってください。
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学 I

英文科目名称：Clinical medicine 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	必修	演習
担当教員				
平野 景太				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Iにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、血液・造血器、呼吸器、循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝、消化器、歯・口腔、免疫の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。			
授業計画	第1回	呼吸器疾患1 呼吸機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第2回	呼吸器疾患2 呼吸機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第3回	呼吸器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第4回	呼吸器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第5回	呼吸器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第6回	循環器疾患1 循環機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第7回	循環器疾患2 循環機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第8回	循環器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第9回	循環器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第10回	循環器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第11回	消化器疾患1 消化・吸収機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第12回	消化器疾患2 消化・吸収機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第13回	消化器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第14回	消化器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第15回	消化器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第16回	消化器外科疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第17回	麻酔科学1 麻酔の目的、種類、方法、麻酔の周術期および術後管理 他 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第18回	麻酔科学2 麻酔の目的、種類、方法、麻酔の周術期および術後管理 他 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第19回	腎・泌尿器疾患1 腎・泌尿器疾患の主要な症状と検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第20回	腎・泌尿器疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）		

第21回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 腎・泌尿器外科疾患1（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第22回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 腎・泌尿器外科疾患2（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第23回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患1 内分泌・代謝疾患の主要な症状
第24回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患2 内分泌・代謝疾患の主要な検査
第25回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第26回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 免疫疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第27回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 血液・造血器疾患1 血液・造血器疾患の主要な症状と検査
第28回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 血液・造血器疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第29回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 歯・口腔疾患 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）
第30回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 まとめ
授業の目的・到達目標	看護を通して社会に貢献するためにはどのような実践能力を身に付けるべきかを理解し習得する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	医学書院 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器、成人看護学3 循環器、成人看護学4 血液・造血器、成人看護学5 消化器 成人看護学6 内分泌・代謝、成人看護学8 腎・泌尿器、成人看護学15 歯科・口腔
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験。60点以上を合格とする。なお、授業中に向学の熱意が感じられない場合には不合格とすることがある。
達成度の伝達	各個人に通知する。不合格者にはその旨通知し、再試験を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	臨床のことを理解すると、即、社会貢献に役立ちます。意義を感じて向学に励んでください。
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅱ

英文科目名称：Clinical medicineⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
五十棲 一男				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅱにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、骨格・筋、脳神経、アレルギー・膠原病、感染症の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。			
授業計画	第1回	感染症 第1回（解剖・生理・症候・感染症法） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第2回	感染症 第2回（治療・検査） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第3回	感染症 第3回（各論、HIV） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第4回	感染症 第4回（各論、0-157、MRSA、帯状疱疹） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第5回	アレルギー・膠原病 第1回（基礎） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第6回	アレルギー・膠原病 第2回（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第7回	アレルギー・膠原病 第3回（各論、強皮症、ベーチェット病） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第8回	アレルギー・膠原病 第4回（アナフィラキシーショック） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第9回	脳・神経 第1回（脳・神経の構造と機能、中枢神経・末梢神経） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第10回	脳・神経 第2回（意識レベル、症候、頭蓋内圧亢進） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第11回	脳・神経 第3回（脳神経、失語、その他） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第12回	脳・神経 第4回（検査、脳卒中、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、慢性硬膜下血腫、頭部外傷） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第13回	脳・神経 第5回（変性疾患、認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症）疾患の理解② （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第14回	脳・神経 第6回（てんかん、脳腫瘍、髄膜炎、その他） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
	第15回	脳・神経 第7回（総合） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。		
授業の目的・到達目標	早い時期から看護師国家試験問題で実際に問われるポイントを理解し、臨床医学に曝露する。看護師になってからも役立つ実践的臨床知識を習得する。基礎的臨床知識を口頭・筆頭で答えることができる。臨床医学は知識ベースであるので、議論する前に記憶することが重要である。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	看護のための臨床病態学 改定3版 南山堂			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	多肢選択問題および筆記試験。60点以上を合格とする。なお、授業中にほぼ毎回小テストを行う。小テスト50%、定期試験50%の点数配分とする。			

達成度の伝達	試験の結果を各個人に通知する。不合格者にはその旨通知し、再試験を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業中に行う小テスト（筆記ワーク）は学習のためにやっているの、覚えながら作業してください。
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅲ

英文科目名称：Clinical medicine 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
浦部 忠久				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		
授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅲにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、運動器、感覚器の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。また、高齢社会の急速な進展を背景に高まる老年看護の重要性と役割を理解するために、加齢に伴う人体構造と機能の変化、老年者に特有の症候と問題、老年者のフィジカルアセスメントのこつ、老年者疾患の特徴について学びながら、看護する際の留意点について理解を深める。			
授業計画	<p>第1回 運動器の疾患1 運動器疾患の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第2回 運動器の疾患2 運動器疾患の主要な検査 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第3回 運動器の疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第4回 感覚器の疾患 眼科疾患 眼科疾患で生じる主な症状、代表的な眼科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第5回 感覚器の疾患 耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科疾患で生じる主な症状、代表的な耳鼻咽喉科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第6回 感覚器の疾患 皮膚科疾患 皮膚科疾患で生じる主な症状、代表的な皮膚科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第7回 高齢者の身体構造および機能の変化 高齢者の生理的特徴 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第8回 高齢者に特有の徴候と健康問題 意識障害、せん妄、脱水症、腰背痛、転倒、排尿障害（尿失禁）、嚥下障害 など 認知症、脳血管障害、パーキンソン病、うつ病、高齢者肺炎、など 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p>			
授業の目的・到達目標	<p>人体を構成する組織と器官の構造と機能を理解する。 加齢に伴う心身機能への影響を理解する。 その上で病態、診断、治療法に関する知識基盤を構築することを目的とする。 各分野、診療科の代表的疾患の診断治療について理解し説明ができるようになる。</p>			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。</p>			
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 10 運動器 12 皮膚 13 眼 14 耳鼻咽喉 老年看護学</p>			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験による成績評価を行う。60点以上を合格とする。</p>			
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説し、試験結果を通知する。</p>			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<p>臨床症例を中心に授業を行う予定です。</p>			
履修登録条件				

講義科目名称：臨床医学Ⅳ

英文科目名称：Clinical medicineⅣ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
蓬田 博 青木 公義				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>精神科でよく出会う疾患について、症状、疾患の原因、治療法を学びます。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の第4章「精神科で出会う人々」、第6章「精神科での治療」がそれに当たりますので、授業が開始されるまでに通読しておいてください。教科書で足りないところはプリントで補います。</p> <p>医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要があります。臨床医学Ⅳにおいては、看護専門職として心が人間として生きていく上でいかに大きな働きを持つかを正しく理解し、精神に障害を持った患者、家族を援助していくために必要な臨床医学の基礎知識を学ぶ。精神現象、代表的な精神疾患（器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害、統合失調症、気分障害、神経症性障害、生理的障害、パーソナリティ障害等）、さらに精神科治療（薬物療法、電気けいれん療法、精神療法等）の基本を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 精神症状の理解、精神科での検査、精神科治療の概要 不安、意識障害など精神科でよくみられる症状の理解を深めます。診断に役立つ検査を解説します。第2回目以降の講義で各疾患に応じた治療法を述べますが、その前段階で身体科とは違った精神科特有の治療法について解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の146～164ページ、236～278ページを読んでおいてください。</p> <p>第2回 神経症性障害、症状精神病、心身症 神経症性障害、症状精神病、心身症について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の193～203ページ、217～219ページ、232ページを読んでおいてください。</p> <p>第3回 器質性精神障害（認知症、せん妄を含む） 器質性精神障害（認知症、せん妄を含む）について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の209～217ページを読んでおいてください。</p> <p>第4回 統合失調症 統合失調症について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の165～183ページを読んでおいてください。</p> <p>第5回 気分障害 うつ病を中心とした気分障害について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の183～192ページを読んでおいてください。</p> <p>第6回 アルコール関連精神障害と依存 飲酒がもたらす精神病理とアルコール摂取を含めた依存（例えばギャンブル依存、買い物依存など）について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の220～225ページを読んでおいてください。</p> <p>第7回 てんかん、摂食障害、知的障害、心理発達の障害、精神科救急 てんかん、摂食障害、知的障害、心理発達の障害について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。精神疾患にも身体疾患と同様に病初期の急激な変化とそれに対応した救急治療があります。自分がどの科で働いていようと必要とされる精神科救急の知識について解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の203～204、225～231ページを読んでおいてください。</p> <p>第8回 睡眠障害、パーソナリティ障害、まとめと問題演習 睡眠障害、パーソナリティ障害について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の204～209ページを読んでおいてください。 最後にこれまでの講義を振り返り、問題演習を通じて知識の定着を図ります。</p>
授業の目的・到達目標	精神疾患の大まかな分類と症状がイメージできるようになることが目標です。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	教科書として「精神看護の基礎（精神看護学①）」（医学書院）を使用します。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	講義が終了して2～3週間後に筆記による試験を行います。教科書で触れたところとプリントの中から出題します。60点以上で合格です。
達成度の伝達	試験結果を公表します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅴ

英文科目名称：Clinical medicine 5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
—				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		
授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅴにおいては、看護専門職として周産期にある女性の生理的経過を理解し、ハイリスクや異常な状態（流産、早産、子宮外妊娠、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、産道・娩出力・胎位の異常等）、疾患（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、感染症等）、さらに、産科処置と産科手術について学ぶ。また、女性生殖器に起こる疾患についても理解する。			
授業計画	<p>第1回 性周期、妊娠の生理 間脳・下垂体系と卵巣ホルモンの関係、さらに妊娠の成立の機序を理解する。</p> <p>第2回 胎児の発育及び母体の生理的変化 胎芽の発生、発育過程および母体の正常な妊娠過程を学習する。</p> <p>第3回 異常妊娠① ハイリスク妊娠、感染症、異常な状態（流産、早産、子宮外妊娠、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）を学習する。</p> <p>第4回 異常妊娠② 疾患（妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群他）、偶発合併症（心疾患、糖尿病他）について学習する。</p> <p>第5回 分娩の要素と経過 分娩の要素および分娩経過について学習する。</p> <p>第6回 異常分娩 産道・娩出力・胎位の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷と出血、産科処置と手術について学習する。</p> <p>第7回 異常産褥 産褥熱、子宮復古不全等の異常について学習する。</p> <p>第8回 女性生殖器の疾患 悪性腫瘍、良性腫瘍他について学習する。</p>			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における生理的経過と健康問題について理解できる。 2. 分娩期における生理的経過経過と健康問題について理解できる。 3. 産褥期における生理的経過経過と健康問題について理解できる。 4. 女性生殖器における健康問題を理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	母性看護学2 医学書院 成人看護学9 女性生殖器 医学書院			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	筆記試験			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：臨床医学VI

英文科目名称：Clinical medicineVI

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
小林 靖明				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		
授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学VIにおいては、看護専門職として健康障害を持つ子どもと家族の生活・療養援助に必要な臨床医学の基礎知識を学び、病因を踏まえた疾病の理解と診断に必要な検査、原則的な治療方法について理解する。小児に特有な疾患（新生時期の疾患、循環器、消化器、血液、腎、内分泌・代謝疾患、感染症等）や事故と虐待、小児救急と蘇生についても理解を深める。			
授業計画	第1回 小児の特徴、成人との違い。成長、発達のみかた 第2回 新生児疾患／遺伝性疾患・染色体異常 第3回 代謝・内分泌疾患／免疫・アレルギー・膠原病 第4回 感染症／呼吸器疾患 第5回 消化器疾患／外科疾患 第6回 血液・腫瘍疾患／神経・筋・精神疾患 第7回 循環器疾患 第8回 腎・泌尿器疾患			
授業の目的・到達目標				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 メディカ出版			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	期末試験（ただし60点に満たない者は再試験を行う）			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：臨床薬理学

英文科目名称：Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
近藤 達郎				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		養護教諭一種免許状

授業概要	病気の予防、治療、診断に必要な薬物の特徴と薬物の生態に対する影響について体系的に学ぶことで、看護専門職として必要な薬理学的知識を身につけることを目的とする。薬物療法における進歩が目覚ましい中、情報化社会において薬に関するさまざまな情報が氾濫している。疾患に対してより高い治療効果をあげるためには、医療に直接携わる者が正しい医薬品の知識を身につけることが重要である。臨床的に用いられる基本薬物の薬理作用の作用機序とその副作用について学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 薬物療法の目的、薬物の作用点</p> <p>第2回 薬物動態 吸収、分布、代謝、排泄、生物学的半減期、薬物の血中濃度</p> <p>第3回 薬物の効果に影響をおよぼす要因 年齢、遺伝的形質、アレルギー、耐性・依存、薬物相互作用</p> <p>第4回 薬物の有害作用と管理 過量の起こる背景、薬物の使用の有益性と有害性、薬の管理と新薬の開発</p> <p>第5回 末梢神経作用薬 神経による情報伝達、自律神経系との薬の作用、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔</p> <p>第6回 中枢神経作用薬 中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬</p> <p>第7回 心臓血管系作用薬 抗高血圧薬、狭心症治療薬、うっ血性心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物</p> <p>第8回 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去たん薬・呼吸促進薬</p> <p>第9回 消化器系作用薬 消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬と消化管運動促進薬、制吐薬、下痢と止痢薬、潰瘍性大腸炎治療薬、駆虫薬</p> <p>第10回 抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗ヒスタミン薬とアレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・抗尿酸血症治療薬</p> <p>第11回 感染症治療薬 感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬各論（ペニシリン系抗生物質、セファム系およびその類縁抗生物質他）、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬</p> <p>第12回 抗がん薬、免疫治療薬 抗がん作用のしくみ、薬剤耐性、アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質他、免疫抑制剤、免疫増強剤、予防接種薬、</p> <p>第13回 ホルモン薬、ビタミン系薬物</p> <p>第14回 漢方薬、消毒薬 漢方薬とは、副作用について 消毒薬とは、消毒薬の種類と応用</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の目的・到達目標	薬の用法、代謝・吸収・分布・排泄、薬物相互作用などの基本的な薬の知識および個々の薬物と疾患との関連を学ぶ。 ・医薬品の作用および副作用を薬理学的・薬物動態学的観点から説明できる。 ・個々の疾患に対応する薬物の種類や効果を理解し、安全・安楽な与薬の援助ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 大鹿英世他著 医学書院
参考書	
評価基準及び成績評価方法	科目試験80%、課題レポート20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 医用工学の基礎

英文科目名称： Basic medical engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	選択	演習
担当教員				
川端下 好宏				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>医用工学の基礎的知識として、生体の電気、力、温熱、音響、光、放射線などに関する物理的特性、あるいは生体計測に関する物理量の単位や定数について講義し、さらに計測の基礎となる精度やノイズや弁別比などについて述べる。また、医用工学に関する基本的な理工学的知識として、生体用増幅器の基本となる電気回路に関する事項について講義する。講義の途中では多くの演習問題に取り組み、理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 医用工学とは 医療機器安全・病院設備 指定教科書 配布書類</p> <p>第2回 患者モニタリング：心電図モニタ 指定教科書 配布書類</p> <p>第3回 患者モニタリング：血圧計 指定教科書 配布書類</p> <p>第4回 患者モニタリング：生体モニタ 指定教科書 配布書類</p> <p>第5回 循環補助：除細動器 指定教科書 配布書類</p> <p>第6回 循環補助：輸液・シリンジポンプ 指定教科書 配布書類</p> <p>第7回 循環補助：心臓治療 指定教科書 配布書類</p> <p>第8回 呼吸補助：人工呼吸器 指定教科書 配布書類</p> <p>第9回 呼吸補助：保育器 指定教科書 配布書類</p> <p>第10回 代謝補助：腎補助 指定教科書 配布書類</p> <p>第11回 代謝補助：肝臓・他 指定教科書 配布書類</p> <p>第12回 手術用機器；エネルギーデバイス 指定教科書 配布書類</p> <p>第13回 手術用機器：麻酔器・内視鏡・他 指定教科書 配布書類</p> <p>第14回 医療安全：情報管理 ウェブ上で得られる医療情報や、臨床で用いられる医療情報技術等の確認。 実際の情報収集。</p> <p>第15回 今後の医工学 各自、臨床にいるであろう40年後の医療技術の発達を予想しておく。 40年後にも必要とされる看護師像を作り上げる。</p>
授業の目的・到達目標	<p>この講義を通じて、医療機器の基本的原理、有効な使用方法を学び、それらを生体に使用した際に起きる現象や、そこから得られる情報を看護に展開できることを目標とする。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>ナースのためのME機器マニュアル 医学書院 2011年4月発行 小野哲章 渡辺 敏 監修、加納 隆 廣瀬 稔 編集 ISBN 978-4-260-01192-1</p>
参考書	<p>必要時紹介</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>毎講義での理解度チェックによる確認と、前講義終了後にレポート形式の試験実施</p>

達成度の伝達	レポートの評価、返却にて伝達。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 医用工学演習

英文科目名称： Medical engineering practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	演習
担当教員				
渡邊 史宏				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	現在の医療の現場では、病院のみならず在宅医療においてもME機器が多く用いられている。看護専門職として、生体情報を測定する装置と、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、透析器などのME機器についての使用目的・仕組み・管理方法を身に付ける必要がある。授業では実際にME機器を用いて演習を行い、操作技術及び管理方法について修得を目指す。			
授業計画	第1回	薬剤投与法 予習：薬剤投与量・循環作動薬等		
	第2回	輸液管理 予習：点滴法		
	第3回	輸液ポンプ 予習：輸液管理法・腸管栄養		
	第4回	シリンジポンプ 予習：微量点滴		
	第5回	手術室の医用機器Ⅰ 予習：手術室での機器管理・電源		
	第6回	手術室の医用機器Ⅱ 予習：除細動器		
	第7回	電気メス 予習：切開・凝固		
	第8回	低圧持続吸引器 予習：腹腔・胸腔		
	第9回	血液ガス測定法 予習：血液ガス分析 正常値		
	第10回	その他のガス測定法・心拍出量 予習：正常値		
	第11回	心電図モニター 心電計 予習：各種測定値・12誘導		
	第12回	不整脈 予習：各種不整脈		
	第13回	呼吸計測機器Ⅰ 予習：人工呼吸器		
	第14回	呼吸計測機器Ⅱ 予習：ETCO2測定法		
	第15回	まとめ		
授業の目的・到達目標	ME機器についての使用目的・仕組み・管理方法を身に付ける			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	各種教科書			
参考書	治療機器・計測機器			
評価基準及び成績評価方法	レポート・試験			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生学

英文科目名称：Public health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
山門 實				
専門基礎科目群	社会と医療			養護教諭一種免許状

授業概要	人の集団を対象として疾病の発生要因を明らかにし、行政や地域住民などの協力のもとに、その対策を講ずることにより疾病から人々を守る科学である公衆衛生学の概念ならびにその基礎を論ずる。公衆衛生学の理念、公衆衛生的アプローチ、集団の健康指標、環境保健、対人保健、公衆衛生活動の実践について学ぶ。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動		
	第2回	健康の概念、健康管理の概念、健康教育、健康相談、健康診断		
	第3回	疾病予防と健康管理		
	第4回	生活習慣病の現状と動向、生活習慣病の管理		
	第5回	保健対策① 母子保健：ライフサイクルと母子保健、母と子のかかわり、母子保健の指標、母子保健行政、母子保健対策他		
	第6回	保健対策② 成人・高齢者保健：成人・高齢者の健康、有訴者率、受療率、生活習慣病、高齢者の生活と高齢者保健・福祉対策		
	第7回	保健対策③ 精神保健：精神保健の歴史、精神疾病、精神保健活動		
	第8回	保健対策④ 学校保健：学校保健とは、学校保健の基本、学校保健対策、保健教育と保健管理、学校保健の組織と運営、学校保健管理、学校環境管理、保健教育		
	第9回	保健対策⑤ 環境保健：環境とは、人間—環境系、環境問題、物理的・化学的・生物学的環境要因		
	第10回	保健対策⑥ 産業保健：産業保健とは、労働者の健康問題、法令、行政、衛生管理体制、課題		
	第11回	感染症予防と健康管理：感染症とは、感染症の予防対策、予防接種		
	第12回	衛生行政：衛生行政の考え方、わが国の衛生行政機構(組織)の概要		
	第13回	保健医療行政：医療施設、保健医療従事者、医療保険、公費医療、国民医療費、保健・医療・福祉関係の法規		
	第14回	地域保健と国際保健：地域とその特徴、地域社会のとらえ方、地域保健とは、地域保健活動、保健に関する国際協力と世界保健機関		
	第15回	医療の倫理と安全の確保：医療および公衆衛生活動の問題と倫理、医療の安全確保		
授業の目的・到達目標	人の集団を対象として疾病の発生要因を明らかにし、人々の健康の維持・増進および疾病予防のための基礎知識を学ぶ。 ・健康管理の概念と方法を説明できる。 ・健康教育の目的および方法を説明できる。 ・健康指標、疫学指標の公衆衛生的意義とその活用法を説明できる。 ・地域保健医療福祉活動における看護職の役割がわかる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された専門基礎科目群の科目である。DPは「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野公衆衛生 星旦二他著 医学書院			
参考書	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度②「公衆衛生学」小野寺伸夫(編) メヂカルフレンド社 「わかりやすい公衆衛生学 第3版」清水忠彦他 NOUVELLE HIROKAWA 国民衛生の動向 厚生統計協会			
評価基準及び成績評価方法	定期期末試験を80%で評価し、さらにレポート、出席状況などから20%を加算し、総合的に判断する。			
達成度の伝達	ミニテストやレポート等で確認し、結果を解説する。			
資格情報				

メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：衛生学

英文科目名称：Hygiene

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
岸 久司				
専門基礎科目群	社会と医療			養護教諭一種免許状

授業概要	衛生学は人間・環境・健康の包括的な理解を目指す社会医学の一分野である。個人および公衆の健康維持・向上、疾病予防などを目指し、生活環境（生物的・物理的・化学的要因や社会的環境）と健康、地球環境と健康との関係について学習する。さらに、感染症の征圧や食中毒・栄養状態の改善、環境問題なども含め、疾病の予防活動につなぐことのできる基礎的知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 衛生学とは、歴史的経緯</p> <p>第2回 環境衛生①：環境問題（人口の急増、地球温暖化、熱帯雨林の消失他）</p> <p>第3回 環境衛生②：物理的条件、化学的条件</p> <p>第4回 環境衛生③：公害、空気の衛生と大気汚染</p> <p>第5回 生活環境①：上水、下水、水質汚濁</p> <p>第6回 生活環境②：太陽光線と健康</p> <p>第7回 生活環境③：騒音と健康</p> <p>第8回 生活環境④：衣服と健康（繊維加工剤の影響）、住居と健康（空気汚染、カビ、害虫、ネズミの影響）</p> <p>第9回 生活環境⑤：廃棄物処理、消費者保健活動</p> <p>第10回 食品衛生①：食品中の病原菌による健康被害、食品中の有害化学物質による健康被害</p> <p>第11回 食品衛生②：動物性自然毒、植物性自然毒による中毒</p> <p>第12回 食品衛生③：食品衛生活動、栄養改善活動</p> <p>第13回 感染症とその予防①：成り立ち</p> <p>第14回 感染症とその予防②：予防対策</p> <p>第15回 感染症とその予防③：国内における感染症</p>
授業の目的・到達目標	<p>人間の健康に影響をおよぼす要因を知り、その要因を病気の予防や改善にどのように活用するかを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生学の歴史的経緯と意義がわかる。 ・環境衛生と人の健康の関連が理解できる。 ・人が生活している環境と健康の関連が理解できる。 ・食品と人の健康の関連が理解できる。 ・感染症とその予防方法が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された専門基礎科目群の科目である。DPは「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	とくに必要としない
参考書	公衆衛生がみえる（2018－2019） 医療情報科学研究所 編 メディックメディア
評価基準及び成績評価方法	試験および授業における取り組み（小テスト）等から判定する。
達成度の伝達	小テストの解説
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：疫学

英文科目名称：Epidemiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	必修	講義
担当教員				
山門 實				
専門基礎科目群	社会と医療			

授業概要	疫学の基本的考え方とその方法、分析疫学と予防医学の基礎知識について学習する。そのうえで、人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、これらに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探り、地域疾病予防活動に応用するための基礎的能力を養う。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 疫学の概念：疫学とは、歴史に学ぶ疫学の原理 第1章 疫学の概念 1. 疫学の紹介		
	第2回	集団の健康状態の把握：有病率と罹患率、死亡率とその比較、その他の指標 第2章 集団の健康状態の把握 1. 疾病の頻度の指標 2. 曝露効果の指標		
	第3回	疫学の方法1 第3章 疫学的研究方法 1. 疫学研究における倫理 2. 対象集団の選定 3. 曝露と疾病発生		
	第4回	疫学の方法2 第3章 疫学的研究方法 4. 研究方法（研究デザイン）		
	第5回	疫学の方法3 第3章 疫学的研究方法 5. 誤差 6. 偏り（バイアス） 7. 交絡とその制御方法 8. 疫学に終える因果関係の立証 9. アウトブレイク時の疫学調査		
	第6回	疾病の予防とスクリーニング 第4章 疾病の予防とスクリーニング 1. スクリーニングの目的・要件・評価		
	第7回	疾病登録1 第5章 疾病登録 1. 疾病登録の意義と目的 2. がん登録		
	第8回	疾病登録2 第5章 疾病登録 3. 循環器疾患の登録		
	第9回	主な疾患の疫学1 第6章 主な疾患の疫学 1. 母子保健の疫学 2. がん 3. 心血管疾患 4. 脳血管疾患 5. 糖尿病 6. 難病		
	第10回	主な疾患の疫学2 第6章 主な疾患の疫学 7. 精神疾患 8. 感染症 9. 事故 10. 学校・産業保健 11. 環境の疫学		
	第11回	疫学と公衆衛生看護 第7章 疫学と公衆衛生看護 1. 社会疫学 2. 政策疫学 3. 臨床疫学		
	第12回	保健統計学の基礎 第8章 保健統計学の基礎 1. データの種類と分布 2. 関連の指標 3. 統計分析 4. 統計調査の表現・解釈のあたって気をつけること		
	第13回	人口統計の基礎 第9章 人口統計の基礎 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計		

	<p>第14回 3. 生命表 保険統計調査 第10章 保健統計調査 1. 基幹統計 2. その他の統計調査 3. 医療経済統計 4. 疾病・障害の定義と分類</p> <p>第15回 保健医療情報の管理・活用と関連する法令・指針 第11章 保健医療情報の管理・活用と関連する法令・指針 1. 情報処理の基礎 2. 保健医療情報の収集 3. 保健医療情報に関する法令・指針・原則</p>
授業の目的・到達目標	<p>疫学について学び、看護職として保健医療福祉活動を実践・研究するために役立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疫学について理解する。 ・データ収集と記述的解析・統計的推論について理解する。 ・疫学を看護活動の実践・研究に活用できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学 牧本清子他著 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20%で評価する。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：保健医療統計学

英文科目名称：Medical care statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
川島 俊雄				
専門基礎科目群	社会と医療			養護教諭一種免許状

授業概要	<p>保健医療の学問の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験データの整理、事実を表現するデータから、現実を把握し、判断能力を養うためのデータ解析の基礎的部分の学習をおこなう。 ・不確定な現象を表現する確率分布の理解と不確定な現象から収集されたデータの解析を通して、集団の規則性の探究をしていく。 ・確率変数、様々な確率分布、期待値、統計量、標本分布、推定と検定、相関と回帰などの学習を通して統計的データ解析の基礎を身に付ける。 			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 保健医療統計学を学ぶ意義 保健医療統計学をなぜ学ぶか。 ナイチンゲールがなぜ統計学を重視したか？</p> <p>工業統計・社会統計・経済統計・心理統計とどう違うか。 授業の進め方についての説明。</p>		
	第2回	<p>データの整理Ⅰ（中心を表す統計量） データから計算されるもので分布の中心を表すものを紹介します。 第2回目から第4回目まではデータの整理、データの見方について話を進めます。</p>		
	第3回	<p>データの整理Ⅱ（散布度等を表す統計量） データから計算されるもので分布におけるデータの広がり具合、とがり具合、偏り具合を表すものを紹介します。</p>		
	第4回	<p>ヒストグラム、クロス集計表（2つの変数を扱う） 分布の形状、多変数（2つの変数の関係を扱う）のデータの関係を表示する方法を紹介します。</p>		
	第5回	<p>確率について 第5回目から第8回目までは確率と確率分布について話をします。 統計の基礎となる部分です。 確率の定義、確率の計算について紹介</p>		
	第6回	<p>確率分布（離散系の分布） 超幾何分布 二項分布 ポアソン分布等について</p>		
	第7回	<p>確率分布（連続系の分布） 正規分布とその重要性について 標準化・中心極限定理</p>		
	第8回	<p>標本分布 データから計算される統計量が従う分布について紹介する。 χ^2乗分布 t-分布 F-分布</p>		
	第9回	<p>演習Ⅰ 第二回目から第八回目までの内容（統計量・確率と確率分布）についての演習 データの表現するもの、確率と確率分布の内容に関する演習。 各自理解度と、達成度を演習を通して確認しておくこと。</p>		
	第10回	<p>統計的推論 統計量について これから4回の授業が統計としての本論になります。 データから計算される統計量（推定量）について説明し 統計的推論を行うために統計量の持っている性質の解説</p>		
	第11回	<p>統計的推定 統計的推定 推定量の区間推定 平均・分散の区間推定</p>		
	第12回	<p>統計的検定 仮説検定 平均について 分散・母比率について</p>		
	第13回	<p>χ^2乗検定 独立性の検定 適合度検定</p>		
	第14回	<p>演習Ⅱ 第十回目から第十三回目までの内容についての演習 統計的推論についての演習 各自理解度と、達成度を演習を等して確認しておくこと。</p>		
	第15回	<p>総合的なまとめ この授業の全体の流れを復習する。</p>		
授業の目的・到達目標	<p>“広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、保健医療の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得させる。 統計学はどの学問分野の学生が用いても変わるものではない。ただし、専門分野への深い理解に伴い統計学は生かされてくる。”</p>			

	”
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された専門基礎科目群の科目である。「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	やさしい保健統計学 縣 俊彦著 南江堂
参考書	・医系の統計入門 根岸 龍雄(監修) 階堂 武郎(著) 森北出版 ・保健統計・疫学 福富和夫・橋本修二著 南山堂
評価基準及び成績評価方法	・試験 70% ・毎回の演習等提出物 30% ・出席重視
達成度の伝達	・毎回の演習の結果は採点して返却する。 ・試験の答案用紙は返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	統計学はどの学問分野の学生が用いても変わるものではない。 ただし、専門分野への深い理解に伴い統計学は生かされてくる。 専門分野の勉強をしっかりと、統計学の適切な適用をできるようになってほしい。 演習等を度々行うので電卓等の計算器具を持ってこること。ただし、手計算と概算の能力を重視する。 試験では電卓、スマホ等の使用は認めない。
履修登録条件	

講義科目名称：保健医療福祉行政論

英文科目名称：Health and medical welfare administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
杉浦 裕二、瀧口慎太郎				
専門基礎科目群		社会と医療		

授業概要	公衆衛生看護における保健活動を深く理解するために、保健活動に関わる多面的な法的基盤や財政の現状を学ぶ。あわせて、地域保健活動の今後の課題を考える機会とする。衛生行政の基本的考え方、地域保健の在り方を概説してから、健康増進と疾病予防、医療、薬事、生活衛生、環境について学ぶ。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 保健医療福祉行政とは：保健医療福祉行政の根拠、公衆衛生の定義、Health for Allの実現 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション		
	第2回	保健医療福祉制度の変遷① 公衆衛生の基盤形成		
	第3回	保健医療福祉制度の変遷② 新たな課題と政策の発展		
	第4回	保健医療福祉行政および財政の仕組み① 国・都道府県・市区町村の行政のしくみと役割、地方公共団体の行政単位としくみ		
	第5回	保健医療福祉行政および財政の仕組み② 保健医療福祉の財政、公衆衛生に関する国際的な活動		
	第6回	社会保障制度① 日本における社会保障、医療提供体制		
	第7回	社会保障制度② 介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度		
	第8回	社会保障制度③ 社会保障・社会福祉の制度		
	第9回	地域保健行政と保健師活動① 地域保健の体系		
	第10回	地域保健行政と保健師活動② 健康危機管理と医療安全対策、保健師活動における情報管理		
	第11回	保健医療福祉の計画と評価① 地方公共団体の保健医療福祉計画		
	第12回	保健医療福祉の計画と評価② 保健計画の策定プロセス		
	第13回	保健医療福祉の計画と評価③ 保健計画の推進と評価		
	第14回	保健医療福祉の計画と評価④ 保健事業立案のプロセス		
	第15回	まとめ		
授業の目的・到達目標	国民の健康の維持向上に関連した関係法規について、その制定の趣旨や内容に関して、医療関係職種としての基礎的な知識を得る。 ・保健医療福祉に関する行政の仕組みを総合的に理解する。 ・社会保障制度について理解する。 ・地域保健行政と保健師活動について理解する。 ・保健医療福祉の計画と評価について理解する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書				
参考書				
評価基準及び成績評価方法	毎回レポート45% 本試55%			
達成度の伝達	授業中に適宜説明			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：看護学概論

英文科目名称：Introduction to Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
川島 美佐子				
看護専門科目群		看護専門分野 I	基礎看護学	

授業概要	看護の基本概念を理解し、看護の役割について学ぶ。本学の建学の精神である「以和為貴」を基盤に、人間を総合的にとらえ、人と人、人と生活の調和を大切にし、健康に資する看護実践の基礎を学習する。看護及び看護教育の歴史の変遷を踏まえた上で、現在の看護における法と倫理について理解するとともに、生命・人格と尊厳を守り、倫理的な態度をもって看護をする重要性について学ぶ。また、看護に関連する諸理論を発展させて行われる看護実践について学習し、保健医療福祉サービスにおける看護専門職の役割とその責任について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 看護とは① 看護の本質：看護学を学ぶことの意義、看護の変遷、</p> <p>第2回 看護とは② 看護の本質：看護の定義、看護の現代の動向と今後の展望</p> <p>第3回 看護とは③ 看護の本質：看護の役割と機能</p> <p>第4回 看護とは④ 看護の本質：、医療・福祉・教育の専門職との連携とチームアプローチ、看護の継続性と情報共有</p> <p>第5回 看護の対象の理解①：人間のこころとからだ、生涯発達し続ける存在</p> <p>第6回 看護の対象の理解②：人間の生活の理解</p> <p>第7回 健康のとらえ方と国民の健康状態① 生活者の健康とは、健康に関連する要因</p> <p>第8回 健康のとらえ方と国民の健康状態② 社会の変遷と健康観の変化、人々の生活と健康に関する統計、ライフコースと日本人の平均像</p> <p>第9回 看護の提供者① 職業としての看護、看護職の養成制度と就業状況</p> <p>第10回 看護の提供者② 看護職者の教育とキャリア開発、看護職者の養成制度の課題</p> <p>第11回 看護における倫理① 現代社会と倫理</p> <p>第12回 看護における倫理② 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、看護実践における倫理問題への取り組み</p> <p>第13回 看護提供の仕組み① サービスとしての看護、看護サービス提供の場、看護をめぐる制度と政策</p> <p>第14回 看護提供の仕組み② 看護サービスの管理、医療安全と医療の質の保証、</p> <p>第15回 広がる看護の活動領域① 国際化と看護、災害時における看護</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護の基本概念・看護の役割について学び、人間を総合的にとらえ健康に資する看護実践の基礎を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の基本概念、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性を理解できる。 ・看護の対象である人間を看護の視点から総合的に理解し、健康課題の解決に向けた看護がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野 I 看護学概論、医学書院（2013）。ヘンダーソン、V. (1960):看護の基本となるもの、湯楨ます・小玉香津子訳、日本看護協会出版会(2006)</p> <p>日本看護協会：看護者の基本的責務、日本看護協会出版会（2017）</p>
参考書	
評価基準及び成績評価方法	課題レポート40%、筆記試験60%
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	看護学概論は看護の導入の科目です。皆さんと一緒に看護とは何かを追求していきたいと思います。看護の変遷を学ぶと同時に、社会が求めている看護職への期待と責任について関心を寄せることが求められます。

講義科目名称：ヘルスアセスメント

英文科目名称：Health assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
斉藤利恵子、川島美佐子、石井千晴、横山詞果				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	看護の対象となる人の健康上の課題をアセスメントするための基礎的知識と技術を学ぶ。対象者を観察し、看護をするために必須となるコミュニケーションの意義・目的を理解し、人間関係を形成するための基礎的技術を習得する。そして、対象者の様々な側面の情報を統合してヘルスアセスメントを行い、その結果を活かした支援技術について学ぶことにより、臨床において活かすことのできる基礎的な判断力を養う。また、ヘルスアセスメントの思考過程を深めるためのフィジカルアセスメントについて学ぶ。包括的な問診によるデータ収集とフィジカルアセスメントにより身体を系統別にアセスメントするとともに、それらを統合して診断するための知識、基礎的技術を習得する。異常・正常の判断のみならず、危険性の予測及び、治療・治癒に伴う症状の変化についても学習し、看護職者の役割と責任について学ぶ。			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス ヘルスアセスメントの考え方、心理社会状態のアセスメント ヘルスアセスメントの意義と目的、必要な技術を教授する。 ●予習:教科書(医学書院)58頁～70頁を読む。 ●復習:問診・視診・触診・打診・聴診する際の注意点を整理する。 心理的側面・社会的側面のアセスメントについて教授する。 ●予習:教科書(医学書院)169頁～177頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第2回	<p>健康歴の聴取と測定(1)：面接技術、健康歴の内容、記録 全体を外観すること、健康歴聴取の目的・内容・アセスメントの枠組みを教授する。 ●予習:教科書(医学書院)70頁～80頁を読む。 ●復習:インタビューの過程を整理する。</p>		
	第3回	<p>健康歴の聴取と測定(2)：インタビュー、身長・体重測定の実際 男女別のグループに分かれてインタビュー、身長・体重測定を実施する。 ●予習:教科書(医学書院)100頁～114頁を読む。 ●復習:健康歴聴取後、得られた情報についてアセスメントする。</p>		
	第4回	<p>【生きているしるし：呼吸】のアセスメント(1)：構造と機能 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的、構造と機能を教授する。 ●予習:教科書(医学書院)126頁～127頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する</p>		
	第5回	<p>【生きているしるし：呼吸】のアセスメント(2)：方法 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際を教授する。 ●予習:教科書(医学書院)127頁～134頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第6回	<p>【生きているしるし：呼吸】のアセスメント(3)：インタビュー、視診、聴診、打診、触診の実際 男女別のグループに分かれて呼吸器系に関するインタビュー、視診、聴診、打診、触診を実施する。 ●予習:教科書(メヂカルフレンド社)69頁～85頁を読む。 ●復習:患者へのインタビュー、胸郭の動き、呼吸測定、呼吸音を聴取した結果をアセスメントする。</p>		
	第7回	<p>【生きているしるし：心臓・循環】のアセスメント(1)：構造と機能 心臓・循環系に関するアセスメントの目的、構造と機能、フィジカルアセスメントの実際を教授する。 ●予習:教科書(医学書院)134頁～141頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第8回	<p>【生きているしるし：心臓・循環】のアセスメント(2)：インタビュー、視診、聴診の実際 男女別のグループに分かれて心臓・循環系に関するインタビュー、脈拍測定、心音の聴診を実施する。 ●予習:教科書(メヂカルフレンド社)87頁～108頁を読む。 ●復習:患者へのインタビュー、脈拍測定、心音を聴診した結果をアセスメントする。</p>		
	第9回	<p>【生きているしるし：意識・血圧・体温】のアセスメント バイタルサインの観察とアセスメントを教授する。 ●予習:教科書(医学書院)80頁～100頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第10回	<p>【食べる】【排泄する】のアセスメント(1)：腹部・消化器系の構造と機能 腹部のフィジカルアセスメントの目的、構造と機能、実際について教授する。 ●予習:教科書(医学書院)146頁～154頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第11回	<p>【食べる】【排泄する】のアセスメント(2)：インタビュー、視診、聴診、打診、触診の実際 男女別のグループに分かれて腹部・消化器系に関するインタビュー、聴診、打診、触診を実施する。 ●予習:教科書(メヂカルフレンド社)109頁～125頁を読む。 ●復習:患者へのインタビュー、聴診、打診、触診を行った結果をアセスメントする。</p>		
	第12回	<p>【活動する】のアセスメント(1)：筋・骨格系、神経系の構造と機能 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの目的、構造と機能、実際を教授する。 ●予習:教科書(医学書院)154頁～169頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。</p>		
	第13回	<p>【活動する】のアセスメント(2)：筋・骨格系、神経系のインタビュー、視診、触診の実際 男女別のグループに分かれて筋・骨格系、神経系のインタビュー、関節可動域、徒手筋力測定、反射、小脳検査、平衡感覚の検査を実施する。 ●予習:教科書(メヂカルフレンド社)127頁～166頁を読む。 ●復習:患者へのインタビュー、関節可動域、徒手筋力測定、反射、小脳検査、平衡感覚の検査結果をアセスメントする。</p>		
	第14回	<p>【見る、聞く、嗅ぐ、触れる、味わう】のアセスメント(1)：感覚器の構造と機能</p>		

第15回	<p>感覚器のフィジカルアセスメントの目的、構造と機能、実際を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習:教科書(医学書院)114頁～126頁を読む。 ●復習:授業で学習したことを整理する。 <p>【見る、聞く、嗅ぐ、触れる、味わう】のアセスメント(2) : 視力・視野・眼球運動、聴力、リンネ試験、ウエーバー試験の実際、まとめ</p> <p>男女別のグループに分かれて感覚器に関するインタビュー、視力・視野検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習:教科書(メヂカルフレンド社)47頁～68頁を読む。 ●復習:患者へのインタビュー、視力・視野検査をした結果をアセスメントする。
授業の目的・到達目標	<p>看護の対象であるクライアントのニード・欲求に応じた必要な看護援助を提供するために、対象の健康に関するヘルスアセスメント能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるヘルスアセスメントの目的、意義および概要を説明できる。 ・ヘルスアセスメントで収集する情報の種類と収集の方法を説明できる。 ・フィジカルアセスメントの基本技術が実施できる。 ・収集した情報をアセスメント、評価できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>横山美樹著 : はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社(2009) 茂野香おる : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院(2011)</p>
参考書	<p>横山美樹他編集 : 成人看護学ヘルスアセスメント、NOUVELLE HIROKAWA(2010)。松尾ミヨ子他編 : ナーシング・グラフィカ 基礎看護学2ヘルスアセスメント、メディカ出版(2014)。参考書 : 日野原重明監修 : 看護学生必修シリーズ バイタルサインの見方・読み方、照林社(2005)。山内豊明著 : フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院(2011)</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>定期試験60%、実技試験20%、事前事後学習課題・小テスト20%により総合的に評価する。</p>
達成度の伝達	<p>実技試験については評価表を用いて伝達する。事前事後学習課題・小テストについては途中達成状況を伝え、定期試験終了後に総合達成状況を明らかにする。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>ヘルスアセスメントは人体構造学・人体機能学の知識を土台としているため、日々の予習は授業を理解するうえで大切です。また、皆さんの身体を教材とするためお互いの協力が欠かせません。演習終了後の復習も積極的に演習室を使って取り組んでください。基礎看護学教員の研究室は演習室前にありますので、積極的に声をかけて、学びを深めてください。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：人間関係論

英文科目名称：Human relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山 美佳子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	良好な人間関係を成立させるために不可欠な基本的コミュニケーション技法を学ぶ。さらに、看護専門職としてコミュニケーション成立に関する方法と、その過程を学習する。これらを通して、援助的な人間関係の在り方について考える機会とする。
授業計画	<p>第1回 【オリエンテーション】 講義の概要と講義計画。評価の説明。人間関係論を学ぶ意義について。 ●予習：シラバスの内容を通読し、わからないところを明確にして臨む。●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第2回 【自己理解】 自己概念とは。自己のとらえ方を理解し、自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。エクササイズ「私は誰？」 ●予習：テキストPP2-17を読む。●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第3回 【価値観】 個々の価値観の違いを理解する。エクササイズ「クルーザー」 ●予習：テキストPP18-31を読む。</p> <p>第4回 【価値観】 個々の価値観の違いを理解する。グループワークと発表 ●復習：気づきの明確化シート・リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第5回 【相互理解】 非言語的相互理解の体験学習。エクササイズ「ブラインド作詞」 ●予習：テキストPP40-42を読む。●復習：エクササイズを振り返り、ワークシート・リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第6回 【コミュニケーション（1）】 基本概念 タッチングゲーム ●予習：・系統看護学講座基礎看護技術 I (医学書院)PP18-39：コミュニケーションを通読し、わからないところを抽出してくる。●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第7回 【コミュニケーション（2）】 話す アサーショントレーニング ●予習：テキストpp57-71を読む。</p> <p>第8回 【コミュニケーション（3）】 きく ロールプレイ ●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第9回 【コミュニケーション（4）】 みる エクササイズ「効果的な沈黙」 ●予習：テキストpp72-80を読む。・系統看護学講座基礎看護技術 I (医学書院)PP39-58を通読し、わからないところを抽出してくる●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第10回 【共感的理解（1）】 感じる・わかる「基礎実習 I-1を振り返る」 ●予習：テキストpp81-99を読む。●復習：エクササイズを振り返り、ワークシート・リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第11回 【共感的理解（2）】 基本概念 ●予習：テキストpp100-102を読む。事前に配布する資料を読んで、わからないところを抽出してくる。</p> <p>第12回 【共感的理解（3）】 効果的なコミュニケーションの基本方法（観察・傾聴・確認・共感） ●復習：フレクションカードに取り組む。</p> <p>第13回 【共感的コミュニケーション】 演習 ●予習：共感的理解の講義内容をまとめ、演習できる準備を整えてくる。</p> <p>第14回 【共感的コミュニケーション】 演習 ●復習：リフレクションカードに取り組む。</p> <p>第15回 セルフカウンセリング</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な人間関係のあり方について理解する。 2. 自分自身の人間関係の持ち方について理解する。 3. 様々な組織における人間関係の特徴を理解する。 4. 自己と他者を相互尊重する人間関係の築き方について理解する。 5. 人間関係で予測されるトラブルを理解し、解決法を身につける。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、看護専門科目群から配置した科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	星野欣生著 人間関係づくりトレーニング 金子書房 2010
参考書	系統看護学講座基礎看護技術 I (医学書院)
評価基準及び成績評価方法	<p>授業毎のリフレクションカードを40%・グループワーク20%・課題レポート40%として評価する。 レポートは以下の点を重視し評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題が自身の体験に基き（照合され）考えられているか。 ②安易に結論付けることなく多方向からの検討がなされているか。 ③考えの根拠に文献が用いられ明示されているか。
達成度の伝達	リフレクション（シャトル）カードは次回講義時に返却することを原則とする。

資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	人と関わる仕事をを目指す皆さんにとって、「人間関係論」の学びは欠くことができません。知識として理解することにとどまることなく、たくさんのエクササイズやグループワークでの体験を通して学びを深め活用できる知識と技術を体得していただきたいと考えております。楽しく学びましょう。 人との関わりについて、一緒に考えたいと思うことがあったら研究室を訪ねてください。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論 I

英文科目名称：Basic nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
斉藤利恵子、川島美佐子、石井千晴、横山詞果				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	看護の対象者と、その人の生活の調和への援助について学ぶ。看護の対象となる人の健康を維持・増進することを目的とした調和した生活への支援方法について、基礎的な知識と技術を習得する。安全・安楽に調和した生活を送るための環境調整を始めとする様々な日常生活援助技術（食と排泄への援助、感染予防及び清潔および衣生活への援助、活動と休息への援助等）を、対象者の生活や健康状態に応じて科学的根拠に基づき判断・選択し、実施できる基礎的能力を養う。技術習得のための演習を充分に行う。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 看護技術を学ぶために：1 技術とは何か、看護技術の特徴、看護技術の範囲 ●予習：テキスト 看護技術を学ぶにあたっての章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第2回	看護技術を学ぶために：2 看護技術を適切に実践するための要素、学生の責務、看護技術の発展と習得のために ●予習：日常の手洗いについて調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第3回	コミュニケーション：1 コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素と成立過程関係構築のためのコミュニケーションの基本 ●予習：テキスト コミュニケーションの章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第4回	コミュニケーション：2 効果的なコミュニケーションの実際、コミュニケーション障害への対応 ●予習：傾聴について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第5回	環境調整技術：1 援助の基礎知識：療養生活の環境、病室環境のアセスメントと調整 ●予習：テキスト 環境調整技術の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第6回	環境調整技術：2 援助の実際：スタンダードプリコーション概要、感染予防技術（手洗い）、ベッド周囲の環境整備 ●予習：CDCガイドライン 標準予防策について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第7回	環境調整技術：3 援助の実際：ボディメカニクス、ベットメイキング ●予習：テキスト 看護技術の基本原則の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第8回	環境調整技術：4 援助の実際：ボディメカニクス、ベットメイキング ●予習：ボディメカニクスについて調べる。または、メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第9回	環境調整技術：5 援助の実際：ボディメカニクス、リネン交換 ●予習：ベッドメイキングの技術について調べる。または、メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。		
	第10回	環境調整技術：6 援助の実際：ボディメカニクス、リネン交換 ●予習：リネン交換の技術について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。		
	第11回	活動・休息の援助技術：1 基本的活動の援助（基礎知識：よい姿勢、日常生活動作、ボディメカニクス）、 ●予習：テキスト 活動・休息援助の基本的活動の基礎知識の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第12回	活動・休息の援助技術：2 体位：基本体位、特殊体位 ●予習：良肢位について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第13回	活動・休息の援助技術：3 体位変換 ●予習：体位変換の技術について調べる。または、メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。		
	第14回	活動・休息の援助技術：4 移動、移乗、移送 ●予習：テキスト 活動と休息 移動と移乗の章を読む。または、メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。		
	第15回	活動・休息の援助技術：5 睡眠と休息の援助：睡眠・休息援助の基礎知識、援助の実際 ●予習：テキスト 活動と休息 睡眠と覚醒の援助の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第16回	清潔・衣生活援助技術：1 清潔の援助：清潔援助の基礎知識、清潔援助の実際（入浴、シャワー浴） ●予習：テキスト 清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の基礎知識の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第17回	清潔・衣生活援助技術：2 全身清拭 ●予習：全身清拭について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。		
	第18回	清潔・衣生活援助技術：3 全身清拭 ●予習：全身清拭のメディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。		
	第19回	清潔・衣生活援助技術：4 おむつ交換、陰部洗浄 ●予習：おむつ交換について調べる。●復習：おむつ交換のメディア学習をする。		
	第20回	清潔・衣生活援助技術：5 おむつ交換、陰部洗浄 ●予習：陰部洗浄について調べる。●復習：陰部洗浄のメディア学習をする。		
	第21回	清潔・衣生活援助技術：6 洗髪		

	<p>●予習:洗髪の技術について調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。</p> <p>第22回 清潔・衣生活援助技術:7 洗髪 ●予習:洗髪の技術のメディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。</p> <p>第23回 清潔・衣生活援助技術:8 手浴・足浴とフットケア ●予習:テキスト 清潔と衣生活 手浴の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。</p> <p>第24回 清潔・衣生活援助技術:9 手浴・足浴とフットケア ●予習:足浴とフットケアのメディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。</p> <p>第25回 清潔・衣生活援助技術:10 洗面、口腔ケア、眼・耳・鼻の清潔、整容 ●予習:洗面、口腔ケア、眼・耳・鼻の清潔、整容のメディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。</p> <p>第26回 栄養と食事の援助技術:1 食事援助の基礎知識:栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメント、医療施設で提供される食事 ●予習:テキスト 食事援助技術 食事援助の基礎知識の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。</p> <p>第27回 栄養と食事の援助技術:2 食事介助、摂食・嚥下訓練 ●予習:テキスト 食事援助技術 食事介助の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。</p> <p>第28回 栄養と食事の援助技術:3 非経口的栄養摂取の援助:経管栄養法、中心静脈栄養法 ●予習:食事介助と経管栄養法のメディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。</p> <p>第29回 排泄援助技術:1 自然排尿・自然排便の介助 ●予習:テキスト 排泄援助技術 排泄の基礎知識の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。</p> <p>第30回 排泄援助技術:2 排便を促す援助、ストーマケア ●予習:自然排尿と自然排便の介助のメディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。技術練習を行う。</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護の対象の看護援助に必要な看護技術の原理・原則を理解し、科学的根拠に基づいた日常生活援助技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の原理・原則について学び、科学的根拠の重要性について理解できる。 ・日常生活技術の基本が理解できる。 ・対象の状況に合わせた日常生活援助の方法を、科学的根拠に基づいて考えることができる。 ・看護職としての倫理的態度がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学医講座 専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ-、-基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ-、茂野香おる他著 医学書院。 基礎・臨床 看護技術 任 和子他著 医学書院</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>課題レポート10%、筆記試験70%、技術テスト(2回)20%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。技術テストは個人に結果を説明する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>この科目は、講義室での座学と実習室での看護技術演習から成り立っています。 看護技術は、みて!まねて!やってみる!の繰り返しを行うことで身に付きます。 実習室をフル活用しながら、主体的に学ぶことが求められます。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Basic nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
石井千晴、川島美佐子、斉藤利恵子、横山詞果				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	看護の対象となる人が、診療、検査や治療を安全・安楽に受けることができるようになるための基礎的な知識と技術について学ぶ。診療や検査の内容と看護者の役割について理解し、対象者に応じた援助が実施できる基礎的能力を養う。また、呼吸・循環を整える援助、創傷管理、与薬、補完代替療法に際してのアセスメント及び基礎的技術を習得する。技術習得のための演習を充分に行う。ターミナルケアの現状と死を迎える人の看取りについて学び、ターミナルケアにおける看護の課題について考察する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 感染防止の技術：1 感染防止の基礎知識、標準予防策（スタンダードプリコーション）、感染経路別予防策 ●予習：テキスト 感染防止の技術 感染防止の基礎知識の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。	第2回	感染防止の技術：2 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 ●予習：テキスト 感染防止の技術 無菌操作の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
	第3回	感染防止の技術：3 感染性廃棄物の取り扱い、カテーテル関連血流感染対策、針刺し事故防止 ●予習：フルプルーフについて調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。	第4回	症状・生体機能管理技術：1 症状・生体管理技術の基礎知識、バイタルサイン測定法概説 ●予習：テキスト 症状・生体機能管理技術の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。
	第5回	症状・生体機能管理技術：2 バイタルサイン測定法：体温、脈拍、呼吸 ●予習：呼吸器系の構造と機能について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。	第6回	症状・生体機能管理技術：3 バイタルサイン測定法：血圧 ●予習：循環器系の構造と機能について調べる。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
	第7回	症状・生体機能管理技術：4 バイタルサイン測定法：体温、脈拍、呼吸、血圧、全身状態の観察 ●予習：メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第8回	症状・生体機能管理技術：5 生体情報のモニタリング：心電図検査、心電図モニター、Spo2モニター、血管留置カテーテルモニター ●予習：テキスト 症状・生体機能の管理技術 生体情報のモニタリングの章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。
	第9回	症状・生体機能管理技術：6 検体検査：血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査 ●予習：テキスト 症状・生体機能の管理技術 検体検査の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第10回	呼吸・循環を整える技術：1 吸引、吸入、酸素吸入療法 ●予習：テキスト 呼吸・循環を整える技術 酸素療法の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
	第11回	呼吸・循環を整える技術：2 吸引、吸入、酸素吸入療法 ●予習：テキスト 呼吸・循環を整える技術 吸引・吸入の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第12回	呼吸・循環を整える技術：3 排痰のケア：排痰ケアの基礎知識、体位ドレナージ、スクイーピング、咳嗽、咳嗽介助法、ハフティング ●予習：テキスト 呼吸・循環を整える技術 排痰ケアの章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
	第13回	呼吸・循環を整える技術：4 人工呼吸療法、体温管理技術、末梢循環促進ケア ●予習：テキスト 呼吸・循環を整える技術 人工呼吸療法と抹消循環促進ケアの章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第14回	与薬の技術：1 与薬の基礎知識 ●予習：テキスト 与薬の技術 与薬の基礎知識の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。
	第15回	与薬の技術：2 経口与薬 ●予習：テキスト 与薬の技術 経口与薬の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。	第16回	与薬の技術：3 点眼、点鼻、経皮与薬、直腸内与薬 ●予習：テキスト 与薬の技術 吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸与薬の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。
	第17回	与薬の技術：4 注射：注射の基礎知識 ●予習：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第18回	与薬の技術：5 注射：皮下注射、皮内注射 ●予習：メディア学習をする。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
	第19回	与薬の技術：6 注射：筋肉内注射 ●予習：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。●復習：授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。	第20回	与薬の技術：7 注射：静脈内注射

第21回	●予習:テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 与薬の技術:8 注射:静脈内注射
第22回	●予習:テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 与薬の技術:9 注射:静脈内注射
第23回	●予習:テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 苦痛の緩和・安楽確保の技術:1 身体ケアを通じてもたらされる安楽:タッチング、マッサージ、リラクゼーション法など
第24回	●予習:ケアリングについて調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 創傷管理技術 創傷管理:1 技術の基礎知識、創傷処置、褥瘡予防
第25回	●予習:テキスト 創傷管理技術 皮膚の構造と機能の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 診察・検査・処置の介助技術:1 診察の介助、生体検査洗浄の介助、胃洗浄、膀胱洗浄など
第26回	●予習:テキスト 侵襲的処置の介助技術の章を読む。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 診察・検査・処置の介助技術:2 導尿
第27回	●予習:腎・生殖器系の構造と機能について調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。 診察・検査・処置の介助技術:3 導尿
第28回	●予習:無菌操作について調べ、メディア学習をする。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 診察・検査・処置の介助技術:4 浣腸
第29回	●予習:消化器系の構造と機能について調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 診察・検査・処置の介助技術:5 浣腸
第30回	●予習:グリセリン浣腸液の効能について調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。 死の看取りの援助:死にゆく人と周囲の人々のケア、死亡後のケア、グリーフケア ●予習:人の死について調べる。●復習:授業資料の学習内容と授業リフレクションを記述する。メディア学習をする。
授業の目的・到達目標	健康障害のある対象の看護に必要なとなる、診療に伴う看護援助技術、ターミナルケアに関する看護援助技術を修得する。 ・看護技術の原理・原則について学び、科学的根拠の重要性について理解できる。 ・診療に伴う援助技術の基本がわかる。 ・ターミナルケアに関する援助技術の基本がわかる。 ・対象の状態に合わせた援助技術を考えることができる。 ・看護職者としての倫理的態度について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ-、-基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ-、茂野香おる他著 医学書院。基礎・臨床看護技術 任 和子他著 医学書院。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	課題レポート10%、筆記試験80%、技術テスト10%
達成度の伝達	レポートはチェックを入れて返却する。技術テストは個人に結果を説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	この科目は、講義室での座学と実習室での看護技術演習から成り立っています。看護技術は、みて!まねて!やってみる!の繰り返しを行うことで身に付きます。実習室をフル活用しながら、主体的に学ぶことが求められます。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅲ

英文科目名称：Basic nursing methodology 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
川島 美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	看護の対象となる人の健康上の課題を解決するための思考過程について、その理論と方法を段階的に学ぶ。対象者に起こる現象を観察し、アセスメントすることによって導き出される健康上の課題を診断し（看護診断）、対象者のアウトカムに達成しうる計画を立案・実施・評価する過程について学習する。また、評価を常にフィードバックして、より良い看護を目指すことを理解し、その過程が科学的根拠に基づいたものであるのかをクリティカルに思考する態度を養う。
授業計画	<p>第1回 看護理論とは何か</p> <p>第2回 看護理論を実践に活かすプロセス</p> <p>第3回 一般モデルの概観：ニード・システム・危機・悲嘆・発達理論</p> <p>第4回 看護理論を看護実践に活用する方法：ヘンダーソン</p> <p>第5回 看護理論を看護実践に活用する方法：オレム看護理論</p> <p>第6回 看護理論を看護実践に活用する方法：ロイ看護理論</p> <p>第7回 ゴードンの機能的健康パターン</p> <p>第8回 ゴードンの機能的健康パターン</p>
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的 看護の対象となる人の健康上の課題を解決するための過程について、その理論と方法を段階的に学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の特徴を理解する。 2. 看護理論を実践に活かすプロセスを確認する。 3. 看護理論を看護実践に活用する方法を検討する。 4. 看護過程の各段階と機能を理解する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・小田正枝：事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本、照林社、2014年 ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院、2013年（1年次購入済み）
参考書	
評価基準及び成績評価方法	課題レポート40%、筆記試験60%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	看護の対象理解の方法や看護実践は複雑で正解のないものです。それらの理解を容易にするために看護理論や看護過程があるので。看護理論を難解なものにとらえず、身近な体験や事例紹介を通しながら学びましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅳ

英文科目名称：Basic nursing methodology 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
川島美佐子、斉藤利恵子、石井千晴、横山詞果				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	健康上の課題をもつ看護の対象者について、紙面上で事例展開を行う。提示された情報をもとに、フレームワークを行い、アセスメントを進める。この際、不足しているが必要な情報についても明確にすることにより、アセスメント力の向上を図る。看護診断の確定については、その根拠を明確にし、アウトカムが現実的であるか考察する。提示された実施結果をもとに経過記録と評価・修正を行い、看護過程のプロセスについてシミュレーションを行う。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 事例1に基づいた看護過程の展開について		
	第2回	事例1に基づいた看護過程の展開GW②：情報収集、情報の分類、アセスメント（健康知覚-健康管理）		
	第3回	事例1に基づいた看護過程の展開GW③：情報収集、情報の分類、アセスメント（活動-運動、睡眠-休息、栄養-代謝、		
	第4回	事例1に基づいた看護過程の展開GW④：情報収集、情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性、役割-関係、		
	第5回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑤：情報の分類及びアセスメント、関連図		
	第6回	事例1に基づいた看護過程の展開⑥：データベースアセスメントと関連図 中間発表		
	第7回	事例1に基づいた看護過程の展開⑦：データベースアセスメントと関連図 中間発表		
	第8回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑧：看護問題の抽出と明確化		
	第9回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑨：目標設定		
	第10回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑩：看護計画の立案		
	第11回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑪：看護計画の立案		
	第12回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑫：看護過程の展開 最終発表		
	第13回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑬：看護過程の展開 最終発表		
	第14回	事例1に基づいた看護過程の展開GW⑭：看護過程の展開：看護実践と評価		
	第15回	看護過程の展開の意味と実践に生かす方略（臨地実習への適応）		
授業の目的・到達目標	基礎看護方法論Ⅲで学習した知識を基に、実際に看護過程を展開する方法を修得する。 ・情報収集・分類・アセスメント・看護診断・看護問題の抽出ができる。 ・看護問題に対する優先順位が考えられ、それぞれの看護目標・看護計画の立案ができる。 ・立案した看護計画に基づいて、一日の行動計画が立案できる。 ・看護の対象の反応などから、看護の評価・修正がわかる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	・茂野茂おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院、2017（1年次購入済み）。 ・江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断、NOUVELLE HIROKAWA、2015。 ・実習記録の書き方のポイント サイオ出版、2017。			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	看護過程展開レポート及びグループワーク参加状況 100%			
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	本科目は、提示された事例に基づいて、看護過程を段階的に学びます。看護過程はクリティカルシンキングの能力が必要です。グループワークを中心とした形態で、自己学習や学生間の討議で学びを深めます。学生の主体的な学習活動が主ですが、教員がみなさ			

	んをファシリテートしながらすすめます。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護学実習 I

英文科目名称：Basic nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年次	1単位	必修	実習
担当教員				
斉藤利恵子、川島美佐子、石井千晴、横山詞果				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		
授業概要	看護の対象となる人の生活や健康上の課題について学び、看護が行われる場について知る。健康上の課題をもつ人が多く利用する病院の役割・機能について理解し、対象者が安全、安楽に利用できる環境について学ぶ。また、対象者が滞在する病室の環境測定を実施し、調和した生活を送るための療養環境と、看護職者の環境調整における役割について考察する。◆実習方法・内容◆ 1. 実習グループは、1グループ5から6名の学生で編成する。2. 事故の課題を明確にして、目標をもって実習に臨む。3. 実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習における留意点などを確認する。4. 学生1名につき患者1名を受け持つ。5. 看護を展開するにあたり、十分事前学習の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者からの助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。6. カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス・ケースカンファレンス・テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者からの助言を受ける。			
授業計画	第1回			
授業の目的・到達目標	目的：看護の対象と看護活動の場への理解を深め、看護者としての基本的な姿勢・態度を習得する。 到達目標： 1. 対象の生活の場としての環境を整えることができる。 2. 入院が対象や家族に及ぼす身体的、精神的、社会的影響を理解できる。 3. 原理・原則に基づいて基本的な援助技術が実施できる。 4. 対象とのコミュニケーションができ、患者—看護師関係について考察することができる。 5. 看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的 根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	統看護学医講座 専門分野 I -看護学概論 基礎看護学 I-、-基礎看護技術 I 基礎看護学 II-、-基礎看護技術 II 基礎看護学 III-以上、茂野香おる他著 医学書院			
参考書	DVD 看護学生のための初めての实習ガイド 阿曾洋子他 医学映像教育センター			
評価基準及び成績評価方法	評価表による。基礎看護学実習 I-1とI-2との合算			
達成度の伝達	中間評価 個別面接、最終評価 掲示あるいは個別面接			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：基礎看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Basic Nursing Practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	実習
担当教員				
川島美佐子、斉藤利恵子、石井千晴、横山詞果				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅰ	基礎看護学	
授業概要	対象者が健康上の課題をもつことによって影響が及ぼされる日常生活や、家庭・社会等における役割の変化、対象者の精神的・社会的背景について理解する。 対象者の健康上の課題に応じた看護過程を実践し、看護の実際について学習し、基本的な姿勢・態度について学ぶ。また、看護が行われる場の機能及び看護専門職者の役割と責任について理解する。			
授業計画				
授業の目的・到達目標	対象を理解し、個に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。 1. コミュニケーションにより患者-看護者関係を築くことができる。 2. 対象の健康問題・健康課題について看護過程の展開を通して、看護を実践できる。 3. 対象に必要な援助を倫理的配慮をもって安全・安楽に実施できる。 4. 看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	特になし			
参考書	その都度、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	行動目標を評価基準とし、病棟実習・学内実習および看護学実習カンファレンスにおける言動、記録物・レポートの記載内容、出席状況に基づき評価する。			
達成度の伝達	中間評価として、教員の個別面接により達成度を明らかにする。最終評価 評価基準の達成度とコメントを書く。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	基礎看護学実習Ⅱでは、患者様を1名受け持ち、看護過程を展開する授業です。これまで学内で学んだ知識や技術を、患者に適した方法で活用し、実践し振り返り学びにつなげていく科目です。患者に適した看護を考えていくためには、患者を全人的にアセスメントする必要があります。アセスメントするための基本的な方法を実践的に学びます。			
履修登録条件				

講義科目名称：成人看護学概論

英文科目名称：Introduction to adult nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
青山 みどり				
看護専門科目群	看護専門分野II		成人看護学	

授業概要	成人期にある対象の発達段階の特徴と生活について理解し、生活環境・習慣、職業等が成人期にある対象の健康へどのような影響を及ぼすのか、過程について学ぶ。 また、成人期にある対象への看護を実践するうえで必要な諸理論、看護モデルについて学習し、対象の健康レベルに応じた看護を実践するための基礎を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 成人の生活と健康 (1) 成人看護の対象：ライフサイクルからみた成人期、成人に対する看護の視点 予習：教科書のp1から30を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 成人の生活と健康 (2) 成人を取り巻く現代の状況 予習：教科書のp31から58を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 成人期にある対象の健康 (1) 健康とは、成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策と今日の課題 予習：教科書のp59から84を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 成人期にある対象の健康 (2) 成人期にある対象に起こりうる健康障害の特徴：生活習慣病、職業疾患 予習：教科書のp85から103を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 成人期にある対象の健康 (3) 成人期にある対象に起こりうる健康障害の特徴：生活ストレス、更年期 予習：教科書のp104から122を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 成人への看護のアプローチの基本 (1) 人間関係を促進する援助 予習：教科書のp123から137を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 成人への看護のアプローチの基本 (2) 危機から適応を促進する援助 予習：教科書のp138から159を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 成人への看護のアプローチの基本 (3) セルフケア、発達を促進する援助 予習：教科書のp160から171を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 成人への看護のアプローチの基本 (4) 家族・文化とは、統合を促進する援助 予習：教科書のp172から197を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 健康レベルに応じた看護 (1) ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション 予習：教科書のp198から215を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 健康レベルに応じた看護 (2) 急性の状態にある対象への看護、機能障害を有する対象への看護 予習：教科書のp216から235を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 健康レベルに応じた看護 (3) 慢性的な経過をたどる対象への看護、終末期にある対象への看護 予習：教科書のp236から257を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 成人看護を充実させる実践的環境 (1) 成人における人権擁護、専門職間の連携と協働 予習：教科書のp258から274を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 成人看護を充実させる実践的環境 (2) 質の高い看護実践のための人材育成、医療の質保証とリスクマネジメント 予習：教科書のp275から284を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>
授業の目的・到達目標	成人期にある対象の特徴を多面的に理解し、対象の特性に応じた看護を展開する基礎的な援助について修得する。 ・成人看護の対象を、成長発達段階、生活環境・生活習慣、職業、健康状態などの側面から特徴を理解できる。 ・成人の多様な健康観や価値観を踏まえ、看護を実践するために様々な諸理論、看護モデルを理解できる。 ・成人看護における看護職の役割と機能を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	成人看護学 成人看護学概論第2版 林直子他編集 南江堂
参考書	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学1 成人看護学総論 小松浩子他著 医学書院
評価基準及び成績評価方法	課題レポート20%、筆記試験80%

達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	成人看護学概論は、これから成人看護学を学習していくうえでの基盤となる科目です。成人期の対象を看護するうえで大切なこととはなにか、対象への看護実践にはどのような知識、技術が必要なのか授業の中で一緒に考えていきましょう。まずは日頃から、周囲にいる大人を観察したり、自分自身の健康に関心を持ちましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論 I

英文科目名称：Adult nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
青山みどり、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野 II	成人看護学		

授業概要	生命が危機的な状態にある人、疾病が重篤で健康状態が急激に変化している人、外傷や手術療法によって身体的侵襲を受けた人をアセスメントするための基礎を学び、異常の早期発見・対処、合併症の予防、生命維持への援助等について学習する。また、回復過程にある人へのリハビリテーションやセルフケアの再構築への援助について理解し、対象の健康生活を促進する看護について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 急性期看護概論① 予習：教科書のp13から43を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 急性期看護概論② 周手術期：術前看護 予習：教科書のp45から56を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 急性期看護概論③ 周手術期：術中看護 予習：教科書のp57から74を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 急性期看護概論④ 周手術期：術後看護 予習：教科書のp75から94を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 周手術期看護の実際① 呼吸器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp111から122を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 周手術期看護の実際② 循環器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp123から150を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 周手術期看護の実際③ 消化器・代謝器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp151から178を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 周手術期看護の実際④ 脳神経器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp191から201を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 周手術期看護の実際⑤ 運動器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp213から220を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 周手術期看護の実際⑥ 排泄器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp179から190を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 周手術期看護の実際⑦ 性・生殖器（前立腺、子宮、卵巣、乳房等）に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp233から246を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 生命の危機状態にある対象の看護① 救急看護学概論 予習：救急看護、救急患者とその家族の特徴、患者の観察とアセスメント項目を調べる。 復習：配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 生命の危機状態にある対象の看護② 救急蘇生方法 予習：救急処置と看護、人工心肺蘇生法を調べる。 復習：配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 回復期の看護① 回復を促進するための援助 予習：教科書のp96から109を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 回復期の看護② 回復を促進するための援助 予習：教科書のp255から264を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>
授業の目的・到達目標	<p>成人期にある対象で、急性期、周手術期、回復期にある対象と家族の基本的看護を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性期および生命が危機的な状態にある対象の特徴を学び、基本的な援助方法を理解できる。 生命危機的な状態にある対象の救急蘇生方法など基本的な援助方法を理解できる。 周手術期にある対象の特徴を理解し、基本的な援助方法を理解できる。 回復期にある対象の特徴を理解し、基本的な援助方法を理解できる。 障害の受容および社会復帰など回復過程における看護について考察できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	成人看護学4 周手術期看護第2版 中島恵美子他著 ナーシンググラフィカ メディカ出版 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J カルベニート著 医学書院
参考書	周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版 周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版

評価基準及び成績 評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポート課題はコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	成人看護方法論Ⅰは、成人看護学概論を基盤にして、成人期にある対象の生命危機回避のための看護についてさらに深く学びます。成人看護学概論や関連の科目の復習は必須です。また、成人看護学実習に関連する科目でもあります。予習・復習をしっかりと行っていき、疑問点や興味・関心をもったことは探求していきましょう。成人看護学について一緒に学んでいきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Adult nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	成人看護学		

授業概要	<p>長期にわたり治療を受ける必要がある人の生活と特徴を理解し、生涯にわたって健康レベルやQuality of lifeの低下を可能な限り回避するための看護について学ぶ。また、慢性期にある人の看護に有用な諸理論について理解し、対象者のもつ能力を最大限に引き出しながらケアする手法についても学習する。 終末期にある人の生活と特徴的な状態を理解し、終末期における人の苦痛や困難を緩和し、家族や関連職種との連携をふまえた看護について学ぶ。看護上の倫理的課題をふまえ、より良い人生の終末を迎えることができるようにするための援助について考察する。</p>			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 慢性期にある患者と家族の理解と看護① 慢性期疾患の特徴、慢性疾患における治療の特徴、慢性疾患を有する患者の特徴 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p65～94を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第2回	<p>慢性期にある患者と家族の理解と看護② 病気および障害を受け入れるプロセス、慢性疾患を有する患者を支える家族の特徴、慢性疾患を有する患者を取り巻く療養環境の特徴や看護の役割、専門職とチーム医療 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p198～215、236～246を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第3回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護① 呼吸機能障害と看護 呼吸機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：気管支喘息、慢性呼吸不全の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第4回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護② 循環機能障害と看護 循環機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：高血圧、慢性心不全の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第5回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護③ 消化機能障害と看護 消化機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第6回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護④ 消化機能障害と看護 消化機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：肝炎、肝硬変の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第7回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑤ 内分泌・代謝機能障害と看護 内分泌・代謝機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：糖尿病の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第8回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑥ 内分泌・代謝機能障害と看護 内分泌・代謝機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p123～137、160～171を復習してくる。さらに甲状腺機能亢進症の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第9回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑦ 内部環境調整機能障害と看護 内部環境調整機能障害をもつ対象者の看護問題と具体的援助方法 予習：慢性腎臓病（CKD）の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第10回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑧ 免疫機能障害と看護 免疫機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：全身性エリテマトーデス、HIV感染症/AIDSの病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第11回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑨ 脳・神経機能障害と看護 脳・神経機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：脳梗塞、筋萎縮性側索硬化症の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第12回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑩ 悪性新生物と看護 がん医療の現状、がん患者の治療と経過、がん患者の身体的、心理・社会的特徴 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p82～94を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第13回	<p>慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑪ 悪性新生物と看護 がん患者の治療に伴う看護問題と具体的援助方法、がん患者に特徴的な症状マネジメントと具体的援助方法 予習：肺がん・肝臓がんの病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第14回	<p>緩和ケアの必要な患者と家族の理解と看護 緩和ケアとは何か、緩和ケアを取り巻く現状、緩和ケアにおける倫理的課題、緩和ケアの具体的援助方法 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p247～256を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>		
	第15回	<p>終末期にある患者と家族の理解と看護</p>		

	<p>終末期にある患者と家族の健康障害の特徴と日常生活への影響、特徴的な看護問題、具体的援助方法、まとめ 予習：講義全体を振り返り、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p>
授業の目的・到達目標	<p>成人期にある対象で、慢性期、終末期にある対象と家族の特徴と基本的看護を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象と家族の特徴を理解できる。 ・慢性期にある対象と家族に起こりやすい健康問題と基本的な援助方法を理解できる。 ・終末期にある対象と家族の特徴を理解できる。 ・終末期にある対象と家族に起こりやすい健康問題と基本的な援助方法を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>成人看護学 慢性期看護 鈴木久美他著 南江堂</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験80%、レポート課題20%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では慢性疾患やがんとともに生きる人の特徴を理解し、成人期の特性や慢性期、終末期の健康問題の性質を考慮した援助方法について学んでいきます。 ・1年生で履修した「健康と疾病の理解」に関する科目の知識が必須となりますので、復習した上で、授業に臨んでください。 ・オフィスアワー 事前にメールでご連絡下さい。E-mail: sato.eiko@90.ashitech.ac.jp
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論Ⅲ

英文科目名称：Adult nursing methodology 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
青山みどり、佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		成人看護学	

授業概要	成人期にある人の看護について、紙面上の事例を用いて看護過程を展開する。成人期にある人の発達段階や生活、社会・家庭での役割等の特徴をふまえ、既習の理論を活用しアセスメントを行う。 フレームワークでは、事例に応じた看護モデルを活用し、看護上の課題に応じたアウトカムの設定や看護計画の立案を行う。また、シミュレーションの結果から評価・修正を行いフィードバックすることについて学習する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 成人看護学における看護過程の考え方：情報収集、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画立案、援助の実施 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp1から22を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第2回	事例に基づいた看護過程の展開GW① 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（活動-運動、睡眠-休息） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp274から404を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第3回	事例に基づいた看護過程の展開GW② 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp650から743を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第4回	事例に基づいた看護過程の展開GW③ 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（健康知覚-健康管理） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp26から112を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第5回	事例に基づいた看護過程の展開GW④ 急性期にある対象の看護過程：看護計画の立案 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第6回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑤ 急性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第7回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑥ 急性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第8回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑦ 急性期にある対象の看護過程：看護計画の評価・修正 予習：前回の配布資料を読み直す。 復習：発表資料、配布資料を読み直し、レポートにまとめる。
	第9回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑧ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（活動-運動、睡眠-休息） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp274から404を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第10回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑨ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp650から743を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第11回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑩ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（健康知覚-健康管理） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp26から112を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第12回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑪ 慢性期にある対象の看護過程：看護計画の立案 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第13回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑫ 慢性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第14回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑬ 慢性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第15回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑭ 慢性期にある対象の看護過程：看護計画の評価・修正 予習：前回の配布資料を読み直す。 復習：発表資料、配布資料を読み直し、レポートにまとめる。		

授業の目的・到達目標	成人期にある対象の特徴を踏まえて、健康障害のある対象への看護について看護過程を展開できる能力を修得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・成人期にある対象の特徴を踏まえ、看護過程の展開のための視点が説明できる。 ・成人期にある対象の看護過程における情報の整理、アセスメント、関連図の作成ができ、看護問題の抽出ができる。 ・成人期にある対象の看護過程における看護目標の設定、看護計画の立案ができる。 ・立案した看護計画に基づいて看護実践のシミュレーションができる。 ・看護実践の結果に基づき、看護計画の評価・修正ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第5版 江川隆子編 ニューヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J カルベニート著 医学書院
参考書	NANDA - I 看護診断 定義と分類2018 - 2020 日本看護診断学会監訳 医学書院 授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験50%、看護過程のレポートとGW参加状況で50%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポート課題はコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	成人看護方法論Ⅲは、成人期にある対象への看護を展開する方法を学びます。授業では個人ワークやグループワークを行います。また、この科目は成人看護学実習に繋がる重要な科目です。主体的に予習・復習をしてしっかり学んでいきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：がん看護論

英文科目名称：Cancer nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
青山 みどり				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		成人看護学	

授業概要	がんを罹患した人への看護について、その人の家族を含めた援助について学ぶ。 がんがその人の健康や日常生活に及ぼす影響について理解し、安全・安楽に治療を受けることができるようにするための援助や、精神的側面からのアプローチについて学習する。また、ターミナル期におけるQuality of lifeの維持・向上、苦痛・困難の緩和、安寧の促進等について学び、対象者に応じた看護について学ぶ。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス がん看護学の対象 がん医療の現状 予習：教科書の序章、第1章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 がんの病態と臨床経過 予習：教科書の第2章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 がん患者および家族の苦痛緩和と心理的サポート 予習：教科書の第3章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 がんの治療と看護 手術療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 がんの治療と看護 薬物療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 がんの治療と看護 放射線療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 がん治療の場 外来がん看護 予習：教科書の第6章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>			
授業の目的・到達目標	<p>がん患者および家族の臨床経過を理解し、必要な看護について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを取り巻く医療の現状を関連文献を使って調べる。 ・がんの病態と臨床経過を説明する。 ・がん患者の苦痛緩和、心理的サポートの方法を理解する。 ・がんの治療方法とその看護について理解する。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」等から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座別巻 がん看護学 第2版 小松浩子ほか著 医学書院			
参考書	適時、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験50%、課題レポート50%			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	がん医療は日々進歩している。医療の進歩に対応し、対象および家族へのがん看護実践には「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」は必須です。そのため、基盤となる知識や技術について学習していきましょう。			
履修登録条件				

講義科目名称：クリティカルケア論

英文科目名称：Critical care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
青山 みどり				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	クリティカルケア論		

授業概要	救急医療や集中治療における生命が危機的状態にある人への援助について学ぶ。心身の機能の変化のモニタリング、アセスメントについて理解し、最良の状態に回復することができるよう、その援助方法について学習する。また、クリティカルケアにおけるチーム医療の特性及びマネジメントを理解し、患者・家族の意思決定等の倫理上の課題について考察する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス クリティカルケア看護の歴史の変遷 看護の対象と特性 予習：教科書の第1章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第2回	過大侵襲を受けた患者の生体反応 予習：教科書の第2章、第3章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第3回	過大侵襲を受けた患者の特徴とケア 呼吸機能障害を伴う患者の特徴とケア 予習：教科書の第3～5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第4回	過大侵襲を受けた患者の特徴とケア 循環機能障害を伴う患者の特徴とケア 予習：教科書の第3～5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第5回	危機的状態にある患者および家族へのケア 危機プロセスとニーズ 予習：教科書の第5章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第6回	クリティカルケア看護と倫理 予習：教科書の第6章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第7回	クリティカルケア看護とチーム医療 予習：教科書の第6章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第8回	まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
授業の目的・到達目標	生命危機状態にある患者および家族の臨床経過を理解し、危機回避に必要な看護について学習する。 ・生命危機を引き起こしやすい機能障害を説明する。 ・ケアを必要とする患者および家族の特徴を理解する。 ・過大侵襲を受けた患者の特徴とケアを理解する。 ・クリティカルケア看護の倫理的課題を理解する。 ・クリティカルケア看護にかかわるチーム連携の必要性を認める。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」等から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座別巻 クリティカルケア看護学 道又元裕ほか著 医学書院			
参考書	適時、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験50%、課題レポート50%			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	クリティカルケアを受ける対象およびその家族は、過大な侵襲を受け、身体的社会的精神的危機状態に陥っている場合も少なくない。このような状況の危機回避のための看護実践には「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」は必須です。そのため、基盤となる知識や技術について学習していきましょう。			
履修登録条件				

講義科目名称：リハビリテーション看護論

英文科目名称：Rehabilitation nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
金子 操				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		成人看護学

授業概要	心身に障害を持った人が回復する過程において、その人のもつ身体的機能や能力の向上・維持するための援助について学ぶ。対象者の生活やセルフケアの再構築を支援し、新たな生活に適應することができるよう、家族を含めた援助について学習し、効果的なチームアプローチのための各専門職種役割をふまえたうえでの援助について学ぶ。			
授業計画	第1回	リハビリテーション看護概論（リハビリテーションの理解、障害と看護） 予習：リハビリテーションの歴史、リハビリテーションの分野、ICIDH、ICFについて調べる 復習：ICFについて、チームアプローチのプロセスについて理解を深める		
	第2回	リハビリテーションチーム（リハビリテーションに関わる職種、評価指標、連携） 予習：リハビリテーションに関わる専門職について調べる 復習：障害に応じた評価指標について理解を深める		
	第3回	運動器の障害とリハビリテーション看護（整形外科疾患） 予習：運動器障害をきたす整形外科疾患について調べる 復習：車椅子や松葉杖の取り扱いができるようになる		
	第4回	神経系の障害とリハビリテーション看護1（脳血管障害） 予習：脳梗塞によっておきる障害について調べる 復習：半身麻痺患者の移乗動作について理解を深める		
	第5回	神経系の障害とリハビリテーション看護2（脊髄損傷、神経難病） 予習：神経難病にはどんな障害がおきるか調べる 復習：日常生活動作（ADL）支援の仕方について理解を深める		
	第6回	呼吸・循環系の障害とリハビリテーション看護1（慢性閉塞性肺疾患） 予習：呼吸障害の訓練法について調べる 復習：排痰、呼吸介助について理解を深める		
	第7回	呼吸循環系の障害とリハビリテーション看護（心筋梗塞） 予習：心臓の障害に対する運動について調べる 復習：運動負荷の方法について理解を深める		
	第8回	がんのリハビリテーション看護 予習：がんのリハビリテーション実際について調べる 復習：がんのリハビリテーションについて理解を深める		
授業の目的・到達目標	種々の障害に応じた、生活自立を支援するためのリハビリテーション看護の考え方、技術を習得する。リハビリテーションの理念、疾患や障害に応じたリハビリテーション看護の実践を理解し、看護技術に活かせることを目標とする。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	原則として試験の点数が60点以上を合格とする。			
達成度の伝達	試験結果の公表、答案の返却によって行う			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：成人看護学実習 I

英文科目名称：Adult nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	3単位	必修	実習
担当教員				
青山みどり、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野 II	成人看護学		
授業概要	対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。さらに、顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントし、顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。また、看護実践を通して看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割・機能を学ぶ。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習における留意点などを確認する。 ・学生1名につき患者1名を受け持つ。 ・看護を展開するにあたり、十分事前学習の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者から助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。 			
授業の目的・到達目標	成人看護学および関連科目の講義・演習において学習した内容を基盤として、急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境との相互行為を展開する方法を看護過程に基づいて実践する基礎的能力を養う。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して看護の意義を見いだすことができる。 ・保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して、看護の対象を継続して看護することの意義を確認できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	成人看護学4 周手術期看護第2版 中島恵美子他著 ナーシンググラフィカ ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第5版 江川隆子編 ニューヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック第10版 リンダ J カルベニート著 医学書院			
参考書	周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版 周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版			
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。			
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	成人看護学実習 I は、1、2年次の成人看護学および関連科目の学習を基盤に、急性・回復期にある成人期の対象の看護を展開します。自己の実習目標や課題を明確にし、目標到達に向け、事前準備をして臨みましょう。			
履修登録条件				

講義科目名称：成人看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Adult nursing practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	3単位	必修	実習
担当教員				
佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	成人看護学		
授業概要	成人看護学および関連科目の講義・演習において学習した内容を基盤として慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境との相互行為を展開する方法を看護過程に基づいて実践する基礎的能力を養う。対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。さらに、顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントし、顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。また、看護実践を通して看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割・機能を学ぶ。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習に関する留意点などを確認する。 ・学生1名につき患者1名を受け持つ。 ・看護を展開するにあたり、十分事前学習の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者から助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。 			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 2. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を身体、心理、社会的側面からアセスメントできる。 3. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案、実施、評価できる。 4. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して看護の意義を見出すことができる。 5. 保健、医療、福祉における看護の役割、機能を理解できる。 6. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して、看護の対象を継続して看護することの意義を確認できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	成人看護学 慢性期看護 鈴木久美他著 南江堂 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版 江川隆子編 ニューヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第10版 リンダ J カルペニート著 医学書院			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2～11 医学書院 その他、適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。			
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅱでは、1、2年次の成人看護学および関連科目の学習を基盤に、慢性疾患やがんなどの慢性期・終末期の成人期の対象への看護過程を展開します。 ・自己の目標や課題を明確にし、目標到達に向けて、準備を整えて臨んでください。 ・オフィスアワー 事前にメールでご連絡下さい。E-mail: sato.eiko@v90.ashitech.ac.jp 			
履修登録条件				

講義科目名称：老年看護学概論

英文科目名称：Introduction to geriatric nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
櫻井 清美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		老年看護学	

授業概要	<p>老年期にある人の発達課題や生活、家族、経済、医療等の動向について理解する。加齢に伴う身体・精神・社会・霊的变化について理解し、老年期におけるwell-beingとsuccessful agingについて学ぶ。 また、老年期にある人が健康を維持増進するにあたり関連する保健医療福祉制度について理解し、必要に応じたサービスの活用について学習する。 高齢化が進展する中で課題となる人権、尊厳について学び、老年看護のあり方について考察する。</p>			
授業計画	第1回	科目ガイダンス ライフコースからみた老年期1 老いを学ぶ、老いるということ、老いを生きるということ 1. 老化とは 2. 高齢者に対するイメージ 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第2回	ライフコースからみた老年期2 高齢社会と社会保障 高齢社会の社会的動向 1. 日本の人口動態について 1) 高齢化率 2) 前期高齢者、後期高齢者 3) 平均寿命と健康寿命 2. 高齢者の生活環・暮らしぶり 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第3回	ライフコースからみた老年期3 高齢社会における保健医療福祉の動向、健康維持・疾病予防のための保健活動 1. 高齢者にとっての健康維持・増進の意義 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第4回	ライフコースからみた老年期4 加齢に伴う諸機能の変化と健康：呼吸器系、循環器系 1. 呼吸器系・循環器系の解剖生理 2. 呼吸・循環機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第5回	ライフコースからみた老年期5 加齢に伴う諸機能の変化と健康：消化器系、排泄器系 1. 消化器系・排泄器系の解剖生理 2. 消化・排泄機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第6回	ライフコースからみた老年期6 加齢に伴う諸機能の変化と健康：筋・骨格・神経系、内分泌系、感覚器系 1. 筋・骨格・神経系、内分泌系、感覚器系の解剖生理 2. 骨代謝機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第7回	ライフコースからみた老年期7 加齢に伴う諸機能の変化と健康：精神機能の変化、社会機能の変化、高齢者の発達課題 1. 高齢者の精神機能の変化：心身の虚弱化・認知能力の変化 2. 社会機能の変化：収入と生活意識、退職と就業 3. 高齢者の発達課題 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第8回	ライフコースからみた老年期8 老年期におけるQOL、well-beingとsuccessful aging 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第9回	老年看護の理念1 老年看護の変遷 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第10回	老年看護の理念2 老年看護の理念・目的・目標・原則 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第11回	老年看護の理念3 老年看護における看護師の役割と機能 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第12回	高齢社会における権利擁護1 高齢者に対するスティグマと差別：自己決定尊重とエイジズム、高齢者虐待 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する
	第13回	高齢社会における権利擁護2 安全確保と身体拘束、権利擁護のための制度 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する	第14回	介護家族の課題と看護1 介護家族の生活と健康 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する

	<p>第15回 介護家族の課題と看護2 介護家族との協力による援助 全体のまとめ</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p>
授業の目的・到達目標	<p>老年期にある対象の発達段階、日常生活、社会的動向、保健医療福祉政策の特徴を踏まえ、援助するための基本的看護について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの中の老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 ・老年期にある対象の生活に関連した保健医療福祉政策・サービスについて理解できる。 ・老年期にある対象の健康維持・疾病予防のための保健活動について理解できる。 ・老年看護の理念・目的・目標・原則を理解できる。 ・老年期にある対象の権利擁護について理解できる。 ・老年期にある対象を介護する家族の課題と看護を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>1. 基礎看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子著 医学書院 2015年</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>課題レポート20%、筆記試験80%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>1. その日の学びはその日のうちに必ず復習しノートを整理すること</p> <p>2. 社会の変化に敏感になり、自分の立ち位置で物事を真剣に考え、行動するよう努力してほしい</p>
履修登録条件	

講義科目名称：老年看護方法論 I

英文科目名称：Geriatric nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
尾島喜代美、鈴木早智子				
看護専門科目群	看護専門分野II	老年看護学		

授業概要	<p>老年期にある人の生活機能の特徴とその変化について理解し、日常生活動作や手段の日常生活動作の自立を支援する方法について学ぶ。</p> <p>老年期にある人の生活と健康を支援する関連職種との役割と機能を理解し、対象者が生活機能（高次の生活機能を含む）とQuality of lifeを維持・向上しながら生活するための援助について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、高齢者の健康状態、有訴者率・受療の状況、高齢者によく見られる症状と看護①</p> <p>1 高齢者によく見られる症状と看護</p> <p>1) 発熱の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺炎 ・尿路感染症 <p>2) 痒みの成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <p>(1) 高齢者に特徴的な変調</p> <p>(2) 清潔に一度に対する充足状態のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人性皮膚掻痒症 ・乾皮症 ・白癬 ・フットケア <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第2回 高齢者によく見られる症状と看護②</p> <p>1 高齢者によく見られる症状と看護</p> <p>1) 痛み（腰痛・膝関節痛）の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変形性膝関節症 ・骨粗しょう症 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第3回 高齢者によく見られる症状と看護③</p> <p>1 高齢者によく見られる症状と看護</p> <p>1) 浮腫の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <p>2) 倦怠感の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化 ・心不全 ・高血圧 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第4回 高齢者によく見られる症状と看護④</p> <p>1 高齢者によく見られる症状と看護</p> <p>1) 脱水の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント</p> <p>2) 脱水症の治療と看護</p> <p>(1) 脱水を起こしやすい背景</p> <p>(2) 脱水の診断：検査データ、臨床症状・所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱水症 ・熱中症 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第5回 高齢者の生活機能を整える看護① 高齢者とのコミュニケーション</p> <p>1 コミュニケーションと看護</p> <p>1) 高齢者のコミュニケーションの特徴とかわり方</p> <p>2) 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害</p> <p>3) コミュニケーション障害のアセスメントと看護のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白内障 ・感音性難聴 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第6回 高齢者の生活機能を整える看護② 高齢者の基本的動作と看護</p> <p>1 日常生活を支える基本動作と看護</p> <p>1) 自立生活拡大と転倒予防</p> <p>(1) 基本動作と環境のアセスメントと看護</p> <p>(2) 転倒・転落のアセスメントと看護</p> <p>2) 廃用症候群のアセスメントと看護</p> <p>3) 褥創のアセスメントと看護</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第7回 高齢者の生活機能を整える看護③ 生活リズムと看護</p> <p>1 高齢者と生活リズム</p> <p>1) 高齢者の生活リズムのアセスメントと看護：活動性の低下</p> <p>2) 高齢者に見られる睡眠障害</p> <p>睡眠と覚醒に変化：睡眠と覚醒の仕組み、加齢に伴う睡眠の障害</p> <p>3) 生活リズムを整える看護：アクティビティ</p> <p>(1) 高齢者の残存機能や生きがいを高める看護</p> <p>(2) 高齢者に適した運動</p> <p>(3) 介護予防活動への援助</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第8回 高齢者の生活機能を整える看護④ 高齢者の食事と看護</p> <p>1 高齢者の食生活</p> <p>1) 高齢者に特徴的な変調：歯・口腔の変調、摂食・嚥下機能の変調、環境</p>

	<p>(1) 栄養ケア・マネジメント：食欲不振、低栄養、貧血</p> <p>2) 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護</p> <p>(1) 摂食・嚥下過程のアセスメント</p> <p>3) 口腔機能の維持・向上と口腔ケア</p> <p>(1) 食後のアセスメント：口腔ケア</p> <p>(2) 誤嚥を防ぐための看護と緊急時の対応：嚥下体操、トロミ食</p> <p>4) 食生活の再構築に向けた看護</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第9回 高齢者の生活機能を整える看護⑤ 高齢者の排泄と看護</p> <p>1 排泄ケアの基本姿勢</p> <p>2 排泄障害のアセスメントと看護</p> <p>1) 排尿障害のアセスメントと看護</p> <p>2) 排便障害のアセスメントと看護</p> <p>・オムツの吸収量 ・オムツの当て方</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第10回 高齢者の生活機能を整える看護⑥ 高齢者の清潔と看護</p> <p>1 高齢者に特徴的な変調</p> <p>1) 薬物療法と看護</p> <p>1) 加齢に伴う薬物動態の変化</p> <p>2) 薬物療法による有害反応</p> <p>2 薬に対する看護職の責務</p> <p>3 看護職が注意すべき高齢者と薬の関係</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第11回 治療を受ける高齢者の看護</p> <p>1 外来・入院する高齢者の看護</p> <p>1) 検査・治療を受ける高齢者の特徴</p> <p>2 検査・治療を受ける高齢者・家族への支援</p> <p>1) 高齢者の検査・治療過程における看護</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第12回 治療を受ける高齢者の看護</p> <p>1 高齢者の安全な薬物療法と看護</p> <p>1) 高齢者における薬物療法の原則</p> <p>2) 加齢による薬物動態の変化</p> <p>3) 薬物療法による有害反応</p> <p>2 薬に対する看護職の責務</p> <p>3 看護職が注意すべき高齢者と薬の関係：向精神薬、降圧薬、利尿剤など</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第13回 高齢者のフジカルアセスメント</p> <p>1 高齢者のフジカルアセスメント技術</p> <p>1) 高齢者のアセスメントにおける特徴</p> <p>2) 高齢者の検査における正常値・基準値の特徴</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第14回 高齢者のリスクマネジメント</p> <p>1 高齢者の感染症リスク要因</p> <p>1) 感染症がもたらす問題</p> <p>2) 高齢者に起こりやすい感染症</p> <p>・インフルエンザ ・ノロウイルス ・疥癬</p> <p>3) 高齢者に対する感染症看護のポイントと看護師の役割</p> <p>2 高齢者と医療安全</p> <p>1) 高齢者と医療事故</p> <p>2) 病院・施設におけるリスクマネジメント：高齢者特有のリスク要因</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>第15回 療養生活を支える保健医療福祉施設に置ける看護</p> <p>1 リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護</p> <p>1) チームアプローチとは</p> <p>2) チームアプローチと専門職の連携</p> <p>(1) 高齢者のリハビリテーション</p> <p>2 高齢者の生活の場と看護師の役割</p> <p>1) 介護特別養護老人施設、介護老人保健施設、認知症共同生活施設、小規模多機能地域包括支援センター</p> <p>2) 施設内での看護師の役割</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p>
授業の目的・到達目標	<p>1 高齢者に起こりやすい健康障害（身体症状）を理解する</p> <p>2 高齢者の生活機能を整える看護の展開を理解する</p> <p>3 高齢者の薬物療法と看護を理解する</p> <p>4 高齢者のリスクマネジメントを理解する</p> <p>5 高齢者を支える職種と活動の多様化を理解する</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>1 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他 医学書院 2017年</p>

	2 ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版 2018年
参考書	1 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 佐々木英忠他 医学書院 2018年 2 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 大淵律子他 メディカ出版 2018年 3 国民衛生の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 その他、授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	課題レポート 30%、筆記試験 70%
達成度の伝達	1 筆記試験の模範解答を概説する。 2 レポートはコメントを入れて返却する
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	1 受講前にテキストを読み、疑問点について調べてくること 2 受講後は、その日のうちに必ず復習し課題に取り組むこと 3 社会の変化に敏感になり、自分の立ち位置で物事を真剣に考え、行動するように努力してほしい。
履修登録条件	

講義科目名称： 老年看護方法論Ⅱ

英文科目名称： Geriatric nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
尾島喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	老年看護学		

授業概要	<p>老年期にある人に多くみられる健康障害に応じた看護について学ぶ。 対象者の加齢に伴う身体・精神・社会的役割・経済的背景の変化や、生活環境・生活習慣・家族・サポート体制についてアセスメントについて学習し、健康レベルに応じた援助について学ぶ。また、老年期の特徴をふまえた各疾患に応じたコミュニケーション技術の基礎的能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 治療を必要とする高齢者の看護① 意識障害・高次機能障害 1 意識障害をもたらす疾患・病態：脳血管障害・脳卒中 2 意識障害のある高齢者のアセスメントと看護 1) 意識レベルの観察と看護、評価表 3 高次機能障害のある高齢者のアセスメントと看護 1) 急性期の看護 2) 回復期の看護 3) 維持期の看護 4) 失語症・構音障害のある高齢者とのコミュニケーション 4 脳卒中地域連携パス 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第2回 治療を必要とする高齢者の看護② 神経変性疾患・呼吸器疾患 1 パーキンソン病患者のアセスメントと看護 2 肺炎患者のアセスメントと看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第3回 治療を必要とする高齢者の看護③ 認知機能障害 1 認知障害の出現する疾患・状態 2 認知症の予防・診断・疾患・看護 3 BPSD（心理・行動症状）への対応 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第4回 治療を必要とする高齢者の看護④ 認知症高齢者へのかかわりの実際 1 認知症の予防・看護・ケアの実際 2 BPSD（心理・行動症状）への対応の実際 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第5回 治療を必要とする高齢者の看護⑤ 大腿骨頸部骨折 1 手術（急激な環境変化）を受ける高齢者の看護 1) 高齢者に行われる手術の特徴 2) 高齢者の術前評価と看護 3) 高齢者の術前後に起こりやすいリスクと問題：せん妄・肺合併症 4) 早期離床と合併症 5) 退院計画と退院調整：地域連携クリニカルパス 2 大腿骨頸部骨折の手術を受ける高齢者の看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第6回 高齢者と家族 1 老年看護における家族支援のあり方 1) 家族形態の変化 2) 独居老人 3) 老夫婦二人暮らし 4) 高齢者虐待 2 家族看護における対象理解 3 介護家族への看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第7回 終末期における看護 1 高齢者の死 2 終末期医療と意思決定の現状 3 終末期の看護 4 家族へのグリーフケア 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第8回 高齢者の看護過程の展開の要点 1 高齢者の看護過程 2 高齢者への情報収集の方法・情報源、情報の解釈・分析の視点 3 関連図 4 看護診断（PES方式）と看護問題、高齢者にとって看護が必要なこと 5 問題の優先順位 6 援助計画 高齢者の看護目標の立て方と看護計画立案の考え方・視点</p>

	<p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第9回 事例を用いた看護過程の展開GW①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例紹介、グループワーク（GW）の進め方 2 罹患疾患、全体像の把握、文献検索 3 疾患関連図より相互関係を確認：病態と原因の関連 4 病態と症状・検査結果との関連 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第10回 事例を用いた看護過程の展開GW②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報の整理・アセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の正常との比較・分析 2) 症状・状態の原因・誘引の分析 3) 疾患の病態・症状・検査結果との現状把握・分析 4) 高齢者の日常生活への支障の把握・分析 5) 家族・社会との関連性の把握・分析 6) 今後の成り行き・予測できることの分析 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第11回 事例を用いた看護過程の展開GW③</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 GWにて、情報の整理・アセスメントの妥当性の検討 2 看護診断の妥当性の検討 3 看護問題の表わし方の検討：原因・誘因が適切であるかの検討 4 高齢者としての今後の成り行きの検討 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第12回 事例を用いた看護過程の展開GW④</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 GWにて、関連図の妥当性の検討 2 疾患・病態・症状・原因・誘因・治療との関連性が妥当性であるか検討 3 看護目標・計画の立案と高齢者に適しているかの検討 4 発表練習 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第13回 事例を用いた看護過程の展開GW⑤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程の発表 2 まとめ <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第14回 高齢者の生活援助技術①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 片麻痺のある高齢者への食事ケア（さまざまな食事の形態：とろみ食含む） 2 片麻痺のある高齢者への口腔ケア <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第15回 高齢者の生活援助技術②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の自立への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃用症候群予防：安全な体位、ROM訓練、筋力増強運動 2) オムツ交換 <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p>
授業の目的・到達目標	<p>老年期にある対象に特徴的なコミュニケーションや健康障害について理解し、看護を展開するための基礎的な方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期に特徴的な健康障害について理解できる。 ・老年期の特徴を踏まえたコミュニケーション能力を養うことができる。 ・さまざまな健康レベルにある老年期の対象の健康障害や症状に対する看護について理解できる。 ・老年看護に関する既存の知識を活用して、老年期にある対象に対する看護過程の展開ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院 2017年 2 ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版 2018年
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 佐々木英忠他 医学書院 2018年 2 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 大淵律子他 メディカ出版 2018年 3 国民衛生の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 <p>その他、授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>課題レポート 30%、筆記試験 70%</p>
達成度の伝達	<ol style="list-style-type: none"> 1 筆記試験の模範解答を概説する。 2 レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ol style="list-style-type: none"> 1 受講前にテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2 受講後は、その日のうちに必ず復習し課題に取り組むこと 3 社会の変化に敏感になり、自分の立ち位置で物事を真剣に考え、行動するよう努力してほしい
履修登録条件	

講義科目名称：老年看護学実習

英文科目名称：Geriatric nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	4単位	必修	実習
担当教員				
櫻井清美、鈴木早智子、尾島喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	老年看護学		

授業概要	様々な健康レベルにある高齢対象者を理解し、個性を尊重した自立支援やQOL向上を目指した看護に必要な基礎的能力を習得する。加齢に伴う変化や健康障害をもつ高齢者を多面的・総合的に理解し、倫理的配慮をもって生活機能を維持・回復するための看護実践を学ぶ。高齢者の多様な療養の場に応じた看護の役割・機能を理解し、日常生活への援助を通して、高齢者のQOLを目指した看護とは何かを具体的に考える機会とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単位数(時間数)：4単位(180時間) 2. 実習期間：4週間 平成30年5月～12月 3. 実習時間：9:00～16:30 4. 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) イムス太田中央総合病院(回復期リハビリテーション病院) (2) 佐野厚生総合病院(回復期リハビリテーション病棟・療養病棟) 2) 保健・福祉施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉法人幸梅会 介護老人保健施設グリーンヒルズ21 (2) 社会福祉法人真善会 特別養護老人ホームプロムナードひこや (3) 医療法人博済会 介護老人保健施設マーガレットヒルズ
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> I. 実習目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の健康問題や生活機能障害を理解し、高齢者とその家族のQOL向上を目指した老年看護を実践するための基礎的能力を養う。 II. 実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 2. 老年期にある対象の健康問題と生活機能障害の要因・関連・経過を身体的・精神的・社会的側面から理解し、アセスメントできる。 3. 老年期にある対象の持てる力を引き出し、健康問題や生活機能障害に応じた個別的な看護計画を立案できる。 4. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、高齢者を尊重した看護実践ができる。 5. 高齢者の多様な療養の場に応じた看護の役割・機能と他職種との連携を理解できる。 6. 対象との関わりを通して、高齢者とその家族のQOL向上を目指した老年看護の役割、看護観を考察できる
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和の取れた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」方配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職として高い倫理観と調和のとれた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画できに実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	1・2年次に購入済みの以下文献 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子ほか著 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版
参考書	その他、実習中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	行動目標を評価基準とし、施設実習・学内実習および看護学実習カンファレンスなどにおける言動、記録物、出席状況に基づき評価する。
達成度の伝達	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録物やレポートにコメントを入れる。 2. 個人面接を行い、達成度を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	老年看護学実習は、医療施設と保健福祉施設において高齢者を一人受け持ち、高齢者の理解・看護過程の展開もしくはケアを通してよりよい看護を考える実習です。 「高齢者観」「高齢者看護観」を深め、自分がどのように高齢者とかわっていくことが望ましいのかを考えつけていきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護学概論

英文科目名称：Introduction to pediatric nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
栗田 佳江				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	小児看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	小児看護の理念を踏まえ、絶えず成長・発達している子どもの特徴と、それらに影響をおよぼす諸因子について学び、成長・発達の個人差や健康障害の理解、家族の特徴とアセスメント、母子保健、小児の安全事故防止と救命処置について修得する。 小児看護の目的・目標、基礎概念、基礎知識、子どもの権利擁護などについて概説し、小児各期の成長・発達の特徴と評価、家族とアセスメント、母子保健などについて学習する。また、社会問題となっている小児の虐待と看護についても概説する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 小児看護の特徴と理念①：小児看護の目ざすところ、小児と家族の諸統計 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第2回 小児看護の特徴と理念①：小児看護の変遷、小児看護における倫理、小児看護の課題 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第3回 小児の成長・発達① 成長発達とは、成長発達に影響する因子、成長発達の評価 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第4回 小児の栄養① 小児にとっての栄養の意義、食育、食事摂取基準、各発達段階別の小児の栄養の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第5回 小児の成長・発達と看護① 新生児期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第6回 小児の成長・発達と看護② 新生児期・乳児期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第7回 小児の成長・発達と看護③ 乳児期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第8回 小児の成長・発達と看護④ 幼児期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第9回 小児の成長・発達と看護⑤ 学童期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第10回 小児の成長・発達と看護⑥ 思春期・青年期の成長・発達の特徴と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第11回 家族の特徴とアセスメント① 小児にとっての家族とは テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第12回 家族の特徴とアセスメント② 家族のアセスメント テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第13回 小児と家族を取り巻く社会と母子保健① 小児の保健・福祉行政の推移、母子保健に関する法律と施策 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第14回 小児と家族を取り巻く社会と母子保健② 医療費の支援、予防接種、学校保健 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p> <p>第15回 小児の虐待と看護 テキスト当該ページの予習、講義ノートの整理</p>
授業の目的・到達目標	<p>小児看護の理念を踏まえ、子供の成長・発達段階と援助について理解し、小児看護の基本を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護における基本的概念・理念、目標と課題について理解できる。 ・小児の成長・発達段階の基本的知識を踏まえて、各成長・発達段階の評価と看護について理解できる。 ・家族の特徴とアセスメントについて理解できる。 ・小児と家族を取り巻く社会的状況を踏まえ、母子保健政策などについて理解できる。 ・小児の虐待と看護について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	小児看護学 市江和子編 オーム社 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 奈良間美保他著 医学書院 写真でわかる小児看護技術 山元恵子監修 インターメディアカ
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	課題レポート20%、筆記試験80%
達成度の伝達	レポートの返却、試験結果の公表、答案の返却によって行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	

講義科目名称：小児看護方法論 I

英文科目名称：Pediatric nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
栗田佳江、荻原弘幸				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		小児看護学
				養護教諭一種免許状

授業概要	小児期にある対象の成長・発達や健康問題の特徴・疾病の経過を踏まえ、健康障害が小児・家族に与える影響や、小児期に起こりやすい症状と、検査・処置時の看護について学習し、健康障害をもつ小児と家族の看護に必要な知識・技術を修得する。演習を取り入れ小児看護の基本的な看護技術を習得する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 病気・障害をもつ小児と家族の看護① 病気・障害が小児と家族に与える影響 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第2回	病気・障害を持つ小児と家族の看護② 小児の健康問題と看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第3回	小児における疾病の経過と看護① 慢性期にある小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第4回	小児における疾病の経過と看護② 急性期・周手術期にある小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第5回	小児における疾病の経過と看護③ 周手術期にある小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第6回	小児における疾病の経過と看護④ 終末期にある小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第7回	小児期に特徴的な症状を示す小児の看護① 不機嫌・啼泣・痛み・発熱の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第8回	小児期に特徴的な症状を示す小児の看護② 嘔吐・下痢・脱水の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第9回	小児期に特徴的な症状を示す小児の看護③ 呼吸困難・チアノーゼ・けいれんの看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第10回	小児期に特徴的な症状を示す小児の看護④ ショック・意識障害の看護、救急処置 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第11回	小児の状況に特徴づけられる看護① 入院中の小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第12回	小児の状況に特徴づけられる看護② 入院中の小児と家族の看護、外来における小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第13回	小児の状況に特徴づけられる看護③ 在宅療養中・災害時の小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第14回	小児の状況に特徴づけられる看護④ 活動制限・隔離が必要な小児と家族の看護 テキストの当該ページの予習、講義ノートの整理		
	第15回	小児のアセスメント①：アセスメントに必要な技術 小児とコミュニケーション、身体測定 予習：小児の身体測定、復習：小児看護技術演習の振り返り、技術練習		
授業の目的・到達目標	小児期にある看護の対象の成長・発達をふまえて健康障害の特徴・疾病の経過を理解し、健康障害を持つ小児・家族の看護に必要な知識・技術について学ぶ。 ・ 疾病・障害をもつ小児と家族の看護について理解できる。 ・ 小児期に特徴的な症状とその経過を説明できる。 ・ 外来受診や入院を必要とする小児と家族について理解できる。 ・ 健康障害を持つ小児の生活と看護について理解できる。 ・ 小児看護における基本的な看護技術を理解できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①奈良間美保他著 医学書院 小児看護学 市江和子編 オーム社 写真でわかる小児看護技術 山元恵子監修 インターメディカ			
参考書	授業中に適宜紹介する			
評価基準及び成績評価方法	課題レポート20%、筆記試験80%			
達成度の伝達	試験結果の公表、答案の返却によって行う。レポートは返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				

講義科目名称：小児看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Pediatric nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
萩原弘幸、栗田佳江				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		小児看護学

授業概要	小児期にある対象の成長・発達や健康問題の特徴を踏まえ、小児期の特徴的な疾病の各経過の特徴と看護、基本的な看護技術などについて学習し、小児看護の実際について学びを深める。そして、小児期の特徴的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について修得する。演習を取り入れ基本的な看護技術を修得する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護① 川崎病の小児と家族の看護 予習：川崎病の病態・検査・治療の学習、復習：講義ノートの整理	第2回	小児看護過程の展開方法① 看護過程のオリエンテーション、看護過程の展開方法GW：情報整理・アセスメント 予習：看護過程の情報整理・アセスメント個人レポート、復習：情報整理・アセスメントの修正
	第3回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護② 気管支喘息の小児と家族の看護 予習：気管支喘息の病態・検査・治療の学習、復習：講義ノートの整理	第4回	小児看護過程の展開方法② 看護過程の展開方法GW：情報整理・アセスメント 予習：看護過程の情報整理・アセスメント個人レポート、復習：看護過程の情報整理・アセスメントの修正
	第5回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護③ ネフローゼ症候群の小児と家族の看護 予習：ネフローゼ症候群の病態・検査・治療の学習、復習：講義ノートの整理	第6回	小児看護過程の展開方法③ 看護過程の展開方法GW：情報整理・アセスメント 予習：看護過程の情報整理・アセスメント個人レポート、復習：情報整理・アセスメントの修正
	第7回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護④ 白血病の小児と家族の看護 予習：白血病の病態・検査・治療の学習、復習：講義ノートの整理	第8回	小児看護過程の展開方法④ 看護過程の展開方法GW：関連図作成、看護問題の抽出 予習：看護過程の関連図作成・看護問題抽出個人レポート、復習：関連図作成・看護問題の修正
	第9回	小児看護過程の展開方法⑤ 看護過程の展開方法GW：看護計画の立案 予習：看護過程の看護計画の立案個人レポート、復習：看護計画の修正	第10回	小児看護過程の展開方法⑥ 看護過程の展開方法GW：看護計画の立案 予習：看護過程の看護計画の立案個人レポート、復習：看護計画の修正
	第11回	小児看護過程の展開方法⑦ 看護過程の展開方法GWの発表会 予習：看護過程の発表原稿の作成・発表準備、復習：個人の看護過程レポート作成	第12回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護⑤ 未熟児と家族の看護①対象の理解 予習：未熟児の特徴の学習、復習：講義ノートの整理
	第13回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護⑥ 未熟児と家族の看護②ケア 予習：未熟児の特徴の学習、復習：講義ノートの整理	第14回	小児期に特徴的な健康障害を持つ小児と家族の看護⑦重症心身障がい児の看護 予習：重症心身障がい児の病態・検査・治療の学習、復習：講義ノートの整理
	第15回	小児のアセスメント②：アセスメントに必要な技術 小児のバイタルサイン 予習：小児のバイタルサインの測定、復習：小児看護技術演習の振り返り、技術練習		
授業の目的・到達目標	小児期に特徴的な健康障害の病態・症状・診断・治療・看護について学習し、小児と家族の看護について理解できる。 ・川崎病の小児と家族の看護について理解できる。 ・気管支喘息の小児と家族の看護を理解できる。 ・ネフローゼ症候群の小児と家族の看護について理解できる。 ・白血病の小児と家族の看護について理解できる。 ・未熟児の看護について理解できる。 ・重症心身障がい児の看護について理解できる。 ・事例を通して小児看護過程の展開ができる。 ・小児看護における基本的な看護技術を理解できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学② 奈良間美保他著 医学書院 小児看護学 市江和子編 オーム社 写真でわかる小児看護技術 山元恵監修 インターメディカ			
参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 秋葉公子他著 ヌーヴェルヒロカワ			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験50%、看護過程レポート50%			
達成度の伝達	試験結果の公表、答案の返却によって行う。レポートは返却する。			
資格情報				

メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護学実習

英文科目名称：Pediatric nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
栗田佳江、荻原弘幸				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		小児看護学	

授業概要	小児期における対象と家族を総合的に捉え、成長・発達や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力の修得を目指す。実習方法は、幼稚園実習において幼児期にある健康な子どもへの関わり方や看護を、病棟実習においては健康障害を持つ子どもを受け持ち、看護過程の展開方法と看護の実際について学ぶ。また、子どもの養育者である家族への看護の実際についても学ぶ。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・幼稚園実習では、園のプログラムにそって健康な幼児の集団生活を体験する。 ・小児病棟実習は、患児を受け持ち、看護を展開する。 ・実習開始前に学内オリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習における留意点などを確認する。 ・看護を展開するにあたり、十分な事前学習の上、行動目標・行動計画を作成し、教員、実習指導者から助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、臨床実習指導者・実習担当教員から助言を受ける。
授業の目的・到達目標	<p>小児期における対象とその家族を理解し、成長・発達や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。 ・小児の人権や個の尊厳、成長発達段階、健康レベルに配慮したコミュニケーションを図ることができる。 ・健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。 ・小児と家族の看護問題を明らかにし、看護を展開できる。 ・小児の安全管理に関する看護者の責任を自覚し、感染及び事故防止に努めることができる。 ・実習を通して小児看護について学びを深め、自己の子ども観や看護観を育むことができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学① 小児看護学② 奈良間美保他著 医学書院 写真でわかる小児看護技術 山元恵子監修 インターメディカ
参考書	授業の中で適宜提示する。
評価基準及び成績評価方法	評価表に基づき、総合的に評価する。
達成度の伝達	個別面談にて説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護学概論

英文科目名称：Introduction to maternal nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
杉原 喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		母性看護学	

授業概要	母性の概念および母性各期の特徴と発達課題を理解し、それらに対する母性保健活動の実際と母性看護の機能と役割を学ぶ。女性のライフサイクルをリプロダクティブヘルス・ライツの視点でとらえ学習を展開する。具体的には、女性の性と生殖を中心とした健康課題を対象の身体的・心理的・社会的側面や歴史的経緯、現代の母性保健の動向から理解し、ライフステージに合わせた看護を学習する。また、生命倫理を考える機会とする。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 母性の概念：母性とは、父性とは、親性とは 予習：テキストp2～19、p34～45を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第2回 ヘルスプロモーション、ウィメンズヘルス、リプロダクティブヘルス・ライツ① 予習：テキストp24～45を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第3回 リプロダクティブヘルス・ライツ②：ドメスティックバイオレンス他 予習：テキストp291～315を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第4回 リプロダクティブヘルス・ライツ③：優生保護法から母体保護法への歴史的経緯、倫理的諸問題 予習：基礎ゼミナールで見学した栗生楽泉園の学びを確認してくる。 復習：授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第5回 母性看護の変遷、母性看護の現状と動向：出生、妊産婦死亡、周産期死亡、死産、乳児死亡 予習：テキストp54～94を読んでくる。 復習：テキスト、国民衛生の動向を再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第6回 母性看護に関連する施策：子育て支援施策、周産期医療のシステム 予習：テキストp54～94を読んでくる。 復習：テキスト、国民衛生の動向を再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第7回 母性看護に関する組織と法律：母子保健法、児童福祉法、母体保護法、戸籍法、死産の届け出に関する規程 予習：テキストp54～94を読んでくる。 復習：テキスト、国民衛生の動向を再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第8回 女性と労働：労働基準法、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律、育児休業法 予習：テキストp54～94を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第9回 性と生殖：セクシュアリティ、ジェンダー、性の多様性（性同一性障害、性分化疾患、SOGI） 予習：テキストp20～24、134～139を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第10回 生殖生理：ヒトの発生・性分化のメカニズム、性周期（月経）、受胎のメカニズム 予習：テキストp96～124、180～184を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第11回 思春期女性の看護：思春期女性の特徴（第二性徴、性意識・性行動の発達、性反応）、健康問題と看護（性感染症、人工妊娠中絶） 予習：テキストp256～269、185～204を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第12回 成熟期女性の看護：成熟期女性の特徴、健康問題と看護（月経随伴症状、月経困難症、月経前症候群、不妊症、家族計画と受胎調節） 予習：テキストp205～217、250～256を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第13回 更年期女性の健康：更年期女性の特徴（ホルモンの変化と閉経）、健康問題と看護（更年期障害、骨粗鬆症、尿失禁他） 予習：テキストp217～232を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第14回 老年期女性の健康：老年期女性の特徴、健康問題と看護（骨盤臓器脱、委縮性膣炎、外陰炎） 予習：テキストp232～247を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第15回 リプロダクティブ・ヘルスと倫理（人工妊娠中絶、生殖補助医療、出生前診断） 予習：テキストp45～52を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解する。</p>
授業の目的・到達目標	母性の概念および母性各期の特徴と発達課題を理解し、それらに対する母性保健活動の実際と母性看護の機能と役割を学ぶ。 ・母性の概念、意義および母性の特徴がわかる。 ・人間の性の意義と生殖生理の機序がわかる。 ・母性保健の動向を知り、それらの問題点を認識でき、母性保健対策の現状と看護師の役割がわかる。 ・母性各期の特徴と発達課題を理解し、援助の必要性と看護活動を述べるができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 森恵美他著 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会

参考書	わが国の母子保健 母子衛生研究会 他授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験試験（80%）とレポート（20%）により評価する。総合点が100点満点中60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案の返却を行う。レポートの返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	広い視野で母性看護学をとらえられるよう日々の社会情勢に目をむけ学習に取り組んでください。各自授業資料を整理し自分なりの ポートフォリオを作ってください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護方法論 I

英文科目名称：Maternal nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
杉原喜代美、島田葉子				
看護専門科目群	看護専門分野 II	母性看護学		

授業概要	女性のライフサイクルの中で、妊婦・産婦の生理的変化を理解し看護を学ぶ。具体的には、①妊娠、分娩の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。②妊娠、分娩に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養っていく。講義・演習を通して、学習内容を修得していく。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、出生前からのリプロダクティブヘルスケア 予習：既習科目臨床医学Ⅴ、母性看護学概論の復習、テキストp1～56を読んでくる。 復習：授業資料を読み返しこれからの学習予定を把握する。</p> <p>第2回 妊婦の看護① 身体的特徴、心理・社会的特徴 予習：テキストp58～86を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第3回 妊婦の看護② 妊婦の健康管理の方法、健康診査 予習：テキストp87～176を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第4回 妊婦の看護③ 胎児心拍数モニタリング、NST、胎児機能不全 予習：テキストp87～176を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第5回 妊婦の看護④ 妊婦の日常生活とケア 予習：テキストp87～176を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第6回 妊婦の看護⑤ マイナートラブルとケア 予習：テキストp87～176を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第7回 妊婦の看護⑥ 分娩準備教育、個別指導と集団指導 予習：テキストp87～176を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第8回 産婦の看護① 身体的特徴 予習：テキストp178～199を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第9回 産婦の看護② 心理・社会的特徴 予習：テキストp199～205を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第10回 産婦の看護③ 分娩第Ⅰ～Ⅳ期のケア 予習：テキストp205～253を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第11回 産婦の看護④ 補助動作の実際 予習：テキストp205～251を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第12回 産婦の看護⑤ 分娩後2時間のケア 予習：テキストp205～251を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第13回 異常妊産婦の看護① 感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠貧血 予習：テキストp358～456を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第14回 異常妊産婦の看護② 不育症、流・早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離 予習：テキストp358～456を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第15回 異常妊産婦の看護③ 妊娠合併症（心疾患、糖尿病他） 予習：テキストp358～456を読んでくる。 復習：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p>
授業の目的・到達目標	女性のマタニィサイクルの中で、妊婦、産婦の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。 ・妊婦、産婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 ・妊娠、分娩の生理的経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。 ・妊娠、分娩に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養う。 ・妊産婦の看護に必要な特有の技術を身に付け、母性看護が実践できる能力を養う。 ・妊婦、産婦の家族に対して看護ができる能力を養う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。 DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	森 恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]、医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験(80%)、レポート(20%)により評価する。総合点が100点満点中60点以上を合格とする。

達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案の返却を行う。レポートの返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	母性看護方法論Ⅰと母性看護方法論Ⅱは、3年次の母性看護学実習に繋ぐ科目です。当該科目の単位修得だけに終わらず母性看護学として自分なりのポートフォリオを作成してください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Maternal nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
島田葉子、杉原喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	母性看護学		

授業概要	女性のライフサイクルの中で、褥婦、新生児の生理的変化を理解し看護を学ぶ。具体的には、①褥婦、新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。②産褥期、新生児期に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養っていく。授業形式は講義の他、実習室での演習を通して、母性特有な看護技術等を修得していく。また、看護過程展開のグループワークを取り入れる。母性看護学方法論Ⅰとも関連させ母性看護を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 褥婦の看護① 身体的特徴、心理・社会的特徴 予習：既習科目臨床医学Ⅴ、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰの復習、テキストP308～320を読んでくる。 復習：授業資料を再度読み返し、これからの学習予定を把握する。 テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第2回 褥婦の看護② 退行性変化を促進するケア 予習：テキストP320～351を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第3回 褥婦の看護③ 進行性変化を促進するケア 予習：テキストP320～351を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第4回 褥婦の看護④ 日常生活とセルフケア 予習：テキストP351～354を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第5回 異常褥婦の看護 腹式帝王切開後のケア、子宮復古不全、産褥感染症、乳汁分泌異常、マタニティブルー、他 予習：テキストP432、P440～456、P484～503を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第6回 新生児の看護① 身体的特徴、親子関係 予習：テキストP254～283を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第7回 新生児の看護② 出生直後のケア、日常生活のケア 予習：テキストP283～306を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第8回 異常新生児の看護 高ビリルビン血症、低出生体重児 予習：テキストP456～483を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第9回 看護過程の展開① 予習：個人ワーク課題を進める。 復習：テキスト、授業資料を読み返し理解する。</p> <p>第10回 看護過程の展開② グループワーク 予習：個人ワーク課題をもとにグループで看護問題、看護計画、エデュケーションプランを検討できるように準備する。 復習：グループワークで検討された看護問題、看護計画、エデュケーションプランについて理解する。</p> <p>第11回 看護過程の展開③ グループワーク 予習：個人ワーク課題をもとにグループで看護問題、看護計画、エデュケーションプランを検討できるように準備する。 復習：グループワークで検討された看護問題、看護計画、エデュケーションプランについて理解する。</p> <p>第12回 看護過程の展開④ 全体発表会 予習：全体発表会の準備を行う。 復習：全体発表会の振り返りを行う。</p> <p>第13回 看護過程の展開⑤ 全体発表会 予習：全体発表会の準備を行う。 復習：全体発表会の振り返りを行う。</p> <p>第14回 全体発表振り返りとグループ討議 予習：全体発表会の準備を行う。 復習：自己の発表を振り返る。他のグループの発表について理解を深める。</p> <p>第15回 演習（新生児の清潔ケア：沐浴） 予習：演習に必要な資料を読み、動画を視聴する。 復習：演習を振り返り、自己演習に向けての課題を理解する。</p>
授業の目的・到達目標	女性のマタニサイクルの中で、褥婦、新生児の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。 ・褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 ・産褥の生理的経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。 ・褥婦におこりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養う。 ・新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育させるための援助能力を養う。 ・褥婦、新生児の看護に必要な特有の技術を身に付け、母性看護が実践できる能力を養う。 ・対象の家族に対して看護ができる能力を養う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	森 恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]、医学書院

参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験（80%）、レポート（20%）により評価する。総合点が100点満点中60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案の返却を行う。レポートの返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	母性看護方法論Ⅰと母性看護方法論Ⅱは、3年次の母性看護学実習に繋ぐ科目です。当該科目の単位修得だけに終わらず母性看護学として自分なりのポートフォリオを作成してください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護学実習

英文科目名称：Introduction to maternal nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
杉原喜代美、島田葉子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		母性看護学

授業概要	2週間の臨地での実習を行う。 実習方法は、機能別実習と受け持ちケース実習である。 ①機能別実習：外来、陣痛室、分娩室、新生児室、褥室において、各対象の看護を機能別に学ぶ。 ②受け持ち実習：正常に経過すると思われる母子を受け持ち、看護過程を展開する。
授業計画	
授業の目的・到達目標	妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に適した看護を実践できる基礎的能力を養う。 1. 妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的経過・母子関係の形成過程について理解できる。 2. 受け持ちケースの看護過程を展開することができる。 3. 母性を取り巻く地域の医療・保健・福祉諸機関との関連について理解できる。 4. 母性看護を通して自己の母性・父性意識を発展させることができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	
参考書	適宜提示する。
評価基準及び成績評価方法	評価表に基づき評価する。
達成度の伝達	適宜面接する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	母性看護方法論Ⅰ・母性看護方法論Ⅱの授業資料、実習事前学習をポートフォーリオとしてまとめ実習に臨んでください。
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護学概論

英文科目名称：Introduction to mental nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
山下美根子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		精神看護学	

授業概要	心の健康を保持増進する看護職者の役割と、それを支援するサポートシステムについて学ぶ。心の発達段階と発達課題を踏まえ、各段階における特徴と心の健康に影響を及ぼす因子について学習しメンタルヘルスプロモーションについて理解する。また、精神医療及び精神看護の歴史の変遷や諸外国の精神保健の実情について学び、日本の精神看護における課題について考察する。			
授業計画	第1回	精神看護とは？精神看護で学ぶ内容について 精神看護は英語圏では psychiatric mental health nursing と表現しています。Psychiatric nursing は精神疾患をもつ患者のケアについて、一方、mental health nursing は予防を含めた患者および健康者のこころのケアを指します。人間の健康維持増進には、心身面だけでなく多面的な視点から見る必要があります。つまり心身の側面だけでなく、患者・対象の生物的、心理的、社会学モデルに沿って、精神情緒の発達、自我形成、ストレス対処力、家族関係などについてもみます。このように包括的にアセスメントを行った結果、個別性のあるケアが提供できます。		
	第2回	歴史と法律、①我が国の精神保健の法律の推移 明治以前と今日までの精神保健に関する法律の推移を6期に分けた。各時期における法律の変遷を見ることで、保健・医療・福祉の視点から精神障がい者に対する扱いについて理解できる。		
	第3回	歴史と法律 ②西洋の歴史（古代ローマから近代アメリカの精神医療） 精神保健医療の歴史について、欧米と日本を比較対象する。特に、植民地アメリカ以降の精神保健医療の発達が我が国の施策や看護教育にどのように影響を及ぼしたかについて理解する。		
	第4回	ペプロウの患者—看護師関係について①情報収集の段階 ヒルデガード・ペプロウが提唱した患者—看護師関係について理解することで、患者への援助法を生み出します。一般科病棟で行われる様々な処置は精神科病棟にはありません。精神科病棟における援助は、患者の症状コントロールに対する援助、服薬管理やセルフケアについての支援が主なケアとなります。精神症状や不安のレベル、また服薬管理の能力は、個々の患者によって異なります。精神看護学では、個々の患者について包括的なアセスメントを行い、患者と共に対処プランを考案し、患者がそのプランを実行後評価するという看護過程の転換を個々の問題について行うことが重要です。		
	第5回	ペプロウの患者—看護師関係について②アセスメントの段階 患者について患者から（主観的）またカルテから（客観的）収集した情報を、精神情緒状態の6項目とセルフケア行動の6項目に系統的にまとめて、患者の全体像を理解する。実習期間に出来る支援を優先順位をつけて、短期目標と長期目標として定める。		
	第6回	ペプロウの患者—看護師関係について③看護援助の段階 患者と共に患者の問題点を定め、問題解決に向けての方法を考案する。		
	第7回	ペプロウの患者—看護師関係について④評価の段階 患者と共に考案した方法を患者が実行に移す。その結果、効果があった点、あまり効果がなかった点について患者と共に振り返ることで、修正案を考える。		
	第8回	対人関係論について①ペプロウ論との関係 アメリカの看護理論家が提唱した対人関係論の和訳を、ペプロウ論と併用することで精神看護実習期間における受け持ち患者との意義ある治療的関わりの構築ができることを目標とする。Reconceptualizing the nursing patient relationship (Hagerty, BM et al) Journal of Nursing Scholarship, 35, 145-150, 2003を和訳（山下美根子、臨地実習における対人関係の構築と概念枠組み、看護教育、391-397、2004）の一部を応用することで受け持ち患者との対人関係のとり方について考察する。ペプロウ論は患者—看護師関係の発展段階を4つに分けた。この4段階を実習期間に応用することで、受け持ち患者への援助と評価が可能となる。		
	第9回	対人関係論について①受け持ち患者との日々の関わりについて 対人関係論を応用することで、受け持ち患者とその日の関わりについて図式化することで、実習期間における日々の関わりのあり方が一目瞭然となる。		
	第10回	ラザラスのストレス対処論について ラザラスのストレス対処論を応用することで、精神症状、抗精神病薬の副作用に悩む患者へのストレス対処法について援助が可能となる。また、この理論を応用することで患者の家族への援助法も考案できる。		
	第11回	Caplan の精神保健と予防（1, 2, 3次予防）について Caplan の精神保健と予防（1, 2, 3次予防）を学ぶ。Caplan論を理解することは、地域で社会復帰を目指す対象者（利用者）やその家族への援助につながる。		
	第12回	危機論 精神看護における代表的な危機論、アグレラとフィンクが提唱した危機論について理解することで、対象者（利用者）とその家族への援助につながる。		
	第13回	精神障がい者とその家族 精神障がい者とその家族について理解するために、エコマップ、ジノグラム、ファミリーマップ、家族とのコミュニケーションマップなどのツールを活用することで、対象者とその家族との関係を見る。これらのツールを用いることで、対象者と家族間における問題点が明らかとなり、家族援助の仕方が考案できる。		
	第14回	家族論（アレンモデル）について カナダMcGill 大学看護で使用されてきたアレンモデルを用いることで、精神障がい者の家族の特徴が表出できる。家族の強みが表出され家族のプラス面を活用することで、対象者への援助となり得る。		
	第15回	ゲストスピーカー（当事者の声） 統合失調症をもつ人の体験談を聞くことで、患者の苦悩について理解できる。また、その体験談を精神保健医療の現状と照らし合わせることで、我が国の行政・教育・臨床現場・研究の面から考察する。		
授業の目的・到達目標	精神障がい者がどのような扱いを受けてきたかについて、わが国と西洋の歴史から学ぶ。明治時代の座敷牢から精神保健福祉法に至るまでの法律の改正を見ることで、わが国の精神保健医療福祉の施策の傾向が分かる。わが国における精神障がい者の扱いについて、日本と西洋との比較を見る。精神看護学に関連するエリクソンの発達理論、危機理論とストレス理論、ペプロウ論、人間関係論			

	などの理論を学び、精神障がい者とその家族への支援策に繋げる。小テストと試験から到達度の評価を行う。小テストの解答については説明を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	武井麻子他著：系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎、医学書院 2015年 武井麻子他著：系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 2015年
参考書	学習ユニットの内容について、教科書と配布資料の両方を活用してください。教科書にない、または詳しく説明されていないが重要と思われる部分を配布資料に織り込んでいます。精神障がい者に関する法律は年々変化しているため教科書だけでは不十分なこともあります。厚生労働省HPや新聞記事などで保健医療福祉に関する最新の施策の方向性や法律の改正について知ることができます。
評価基準及び成績評価方法	定期試験80%、小テスト20%、授業直後のクイズ20%
達成度の伝達	小テスト問題の回答について解説することで各自の到達度を伝える。 授業直後のクイズについては、説明やコメントを付けて返却することで授業内容の確認をする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業の後をオフィスアワーとします。
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護方法論 I

英文科目名称：Mental nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子、宮武陽子				
看護専門科目群	看護専門分野II	精神看護学		

授業概要	精神に障がいを持つことによる症状や日常生活上の課題に応じた看護の基礎を学ぶ。また、対象者が治療的対人関係やセルフケアができるようになるための援助方法の基本について学び、他職種との連携・協働について理解する。グループ活動として、事例を基に看護課程を展開する演習を行うことで、精神看護の支援の仕方についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 対象の生活の場と精神保健1 家族・家庭における精神保健上の問題</p> <p>第2回 対象の生活の場と精神保健2 学校、職場などにおける精神保健上の問題</p> <p>第3回 精神科看護師のメンタルヘルス1 パーンアウト、ワーカーホリック</p> <p>第4回 精神科看護師のメンタルヘルス2 リエゾン精神医学、リエゾン精神看護</p> <p>第5回 精神看護援助の基本1 セルフケアの援助</p> <p>第6回 精神看護援助の基本2 事例に基づいたロールプレイング、グループワーク</p> <p>第7回 精神看護援助の基本3 事例に基づいたロールプレイング、グループワーク</p> <p>第8回 精神症状に対する援助1 幻覚、妄想のある患者に対する看護</p> <p>第9回 精神症状に対する援助2 せん妄、抑うつ状態にある患者に対する看護</p> <p>第10回 精神症状に対する援助3 興奮状態にある患者に対する看護</p> <p>第11回 精神症状に対する援助4 自殺・自傷行為のある患者に対する看護</p> <p>第12回 精神疾患に対する援助1-① 統合失調症の理解と看護</p> <p>第13回 精神疾患に対する援助1-② 統合失調症の症状に関するバーチャルハルシネーション</p> <p>第14回 精神科リハビリテーションと他職種との協働、精神疾患患者のノーマライゼーション</p> <p>第15回 入院と社会資源の活用</p>
授業の目的・到達目標	精神の健康と現代社会における諸問題について学び、対象者の精神に障がいを持つことによる症状や日常生活上の課題に応じた精神看護の基礎を修得する。具体的な目標として <ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康と現代社会における諸問題を理解できる。 ・精神疾患及び症状や、これらが日常生活上に影響し起こりうる課題を理解できる。 ・精神看護の役割と機能、社会資源について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子著 医学書院 精神看護学 ころ・からだ・かかわりのプラクティス 萱間真美編 南江堂 パーフェクトガイド臨床実習ガイド 精神看護2 萱間真美編 照林社
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	小テスト20%、試験80%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業の後にオフィスアワーを設けます。
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Mental nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子、宮武陽子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		精神看護学

授業概要	事例をもとに精神に障がいを持つ人の看護を展開する。グループワークで、ペーパーペイシャントの事例を基に心身両面のアセスメントを行い、全体像から見える看護計画の立案まで検討しケアプランを作成することで精神看護における看護過程の発展の仕方を学ぶ。さらに、各自のグループワークを発表・共有することで、視点のとらえ方や様々な援助策について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 精神疾患に対する援助2-① 気分障害の理解と看護</p> <p>第2回 精神疾患に対する援助2-② 気分障害の理解と看護</p> <p>第3回 精神疾患に対する援助3 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の理解と看護</p> <p>第4回 精神疾患に対する援助4 摂食障害の理解と看護</p> <p>第5回 精神疾患に対する援助5 パーソナリティ障害の理解と看護</p> <p>第6回 精神疾患に対する援助6 器質性精神障害の理解と看護</p> <p>第7回 精神看護におけるアセスメント技法1-① オレム・アンダーウッド理論とアセスメント</p> <p>第8回 精神看護におけるアセスメント技法1-② オレム・アンダーウッド理論とアセスメント</p> <p>第9回 看護過程の展開1-① 全プロセスに対する説明および事例1説明</p> <p>第10回 看護過程の展開1-② 事例1をもとにアセスメントを行う、グループワーク</p> <p>第11回 看護過程の展開1-③ 関連図作成および看護計画立案、グループワーク</p> <p>第12回 看護過程の展開1-④ グループごとに看護計画発表</p> <p>第13回 看護過程の展開2-① 事例2説明、各学生が事例をもとにアセスメントから看護計画立案までを行う</p> <p>第14回 患者体験 抗精神病薬服用による過鎮静を体験するバーチャルセッション</p> <p>第15回 患者体験 抗精神病薬服用による過鎮静を体験するバーチャルセッション</p>
授業の目的・到達目標	2年次前期の精神看護概論で学んだ看護理論を基に、また、精神看護方法論1で学んだ各論内容を活用して、患者の疾患、症状、既往歴を検討したうえで、日常生活における課題を明らかにするためのアセスメント法を修得する。具体的な目標としては <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患や症状および病気に関する看護が理解できる。 ・発達段階を踏まえて、患者の今後の課題が理解できる。 ・理論にもとづいた患者理解ができ、看護援助が立案できる。 精神障がい者の苦悩をDVD鑑賞から理解し、援助策について考えられる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子著 医学書院 精神看護学1 精神保健・他職種つながり 改定第2版 編集 萱間真美 野田文隆 南江堂 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 改定第2版 編集 萱間真美 野田文隆 南江堂 パーフェクトガイド臨床実習ガイド 精神看護2 萱間真美編 照林社
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	事例を基に展開した看護過程のグループワーク50%と個人ワーク50%
達成度の伝達	各グループが発表した全体像とケアプランについて、良い点を認め改善すべき点を指摘し、疑問点や質問に答える。各グループが発表した内容に対してフィードバックをすることで、各自の達成度を伝える。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業の後にオフィスアワーを設けます。

講義科目名称：精神看護学実習

英文科目名称：Mental nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
富山美佳子、宮武陽子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		精神看護学	

授業概要	精神障がいをもつ対象の精神的・身体的・社会的諸問題を総合的に理解し、対象に適した看護を学ぶ。 精神障がいをもつ対象を精神的・身体的・社会的側面から理解し、精神症状と身体に関連性、さらに日常生活への影響がわかり、看護過程を展開し看護を実践する。また、学生レクリエーションを企画し実施する。保健医療福祉チームにおける看護師の役割や連携について学ぶ機会とする。
授業計画	
授業の目的・到達目標	精神障がいをもつ人を受け持ち、精神障がいが日常生活と社会生活に及ぼす影響とその人がもつ苦悩について理解する。家族との関係や家族の反応について理解し、家族を含めた援助の実際について学ぶ。患者—看護師関係の実際を学び、自身のプロセスレコードを記述し、治療的人間関係について考察する。セルフケアについてのアセスメントを行い、その人の治療が効果的に進めることができるように日常生活をマネジメントする能力を養う。また、関連職種と連携しながらリハビリテーションを促進するための援助や地域で生活するための支援の実際について学ぶ。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	1年次、2年次で用いた教科書を活用する。
参考書	随時提供する。
評価基準及び成績評価方法	実習の目的と目標に基づいて評価を行う。指導教員の評価と学生各自が行う評価を用いる。
達成度の伝達	実習半ばにおいて、中間評価を行う。実習終了後は、個人面接を行い各学生の強みと改善すべき点を伝える。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	帰校日をオフィスアワーとします。
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護概論

英文科目名称：Introduction to home care nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
棚橋 さつき				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	在宅看護論	養護教諭一種免許状	

授業概要	居宅等における療養者とその家族について総合的に理解し、安定した療養生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎知識、および、地域包括ケアシステムを学ぶ。学習目標は、①在宅医療推進の社会的背景と在宅看護の役割・機能について理解する、②居宅等における療養者の健康障害、および、生活上の課題を理解する、③療養者を介護する家族の役割と課題について理解する、④療養者および家族を支援する地域ケアシステムを理解する、⑤在宅看護における関連機関・関連職種との連携について理解する、の5点である。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 在宅看護の変遷と歴史的背景 ・在宅医療・在宅看護が必要とされる社会的背景 ・在宅看護の変遷	第2回	在宅看護の目的と特性 ・在宅で療養することの意味 ・在宅看護の目的
	第3回	在宅療養者の理解とサポートシステム ・在宅看護の対象者 ・在宅の「場」の違いにおける看護の役割	第4回	在宅ケアにかかわる諸制度 ・在宅ケアを支える医療保険・介護保険 ・在宅療養における社会制度
	第5回	在宅ケアにおけるケアマネジメント ・ケアマネジメントの定義 ・居宅介護支援専門員 ・ケアマネジメントの展開 ・サービス担当者会議	第6回	在宅看護におけるリスクマネジメント ・生活の中で必要な安全管理 ・感染症の予防と対策
	第7回	訪問看護制度の概要と役割 ・訪問看護制度 ・訪問看護ステーションについて	第8回	訪問看護マナーと実際の仕組み
	第9回	在宅看護管理と人材育成	第10回	病院と在宅の違い
	第11回	在宅移行への継続看護 ・退院調整と退院支援 ・病院看護師と訪問看護師との連携	第12回	在宅事例におけるグループワーク①
	第13回	在宅事例におけるグループワーク②	第14回	事例発表
	第15回	在宅看護の展望と総括		
授業の目的・到達目標	在宅で療養する個人とその家族に対する看護活動に必要な基礎的知識を修得する。 ・在宅医療推進の社会的背景と在宅看護の役割・機能がわかる。 ・居宅等における療養者の健康障害、および、生活上の課題がわかる。 ・療養者を介護する家族の役割と生活上の課題がわかる。 ・療養者および家族を支援する地域ケアシステムについて説明できる。 ・在宅看護における関連機関・関連職種との連携について説明できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	医歯薬出版株式会社 新版 在宅看護論			
参考書	随時、参考資料を配布			
評価基準及び成績評価方法	小テスト20% 定期試験60% グループワークまとめ20%			

達成度の伝達	小テストの結果から、自分の理解度を確認する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護方法論 I

英文科目名称：Home care nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
杉本 厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	

授業概要	<p>疾病や障害をもちながら居宅等で療養している人々が、地域の中で自立した生活を送るために必要な在宅ケアマネジメントについて講義・演習を通して学ぶ。①ケアマネジメントの目的・役割・機能について理解する、②介護保険法、障害者自立支援法におけるサービス利用までのプロセスを理解する、③ケアマネジメントの方法を理解する、④ケアプラン・サービス計画の立案の方法を理解する、⑤ケアマネジメントにおけるモニタリングと評価について理解することを学習目標とする。</p>			
授業計画	第1回	<p>ガイダンス 在宅看護の特徴を理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護方法論 I の授業の進め方についての説明 在宅看護の変遷と社会背景、在宅医療の現状について学ぶ。 療養者のための看護師ほか他職種の連携について 		
	第2回	<p>在宅看護の特徴を理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護の対象者（療養者本人と家族・介護者）と理解し、家族・介護者の介護負担について学ぶ。 継続看護 退院支援について学ぶ 		
	第3回	<p>在宅療養に必要な医療・看護・福祉制度を理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護制度の仕組みについて理解する。 医療保険制度における訪問看護と介護保険制度における訪問看護について学ぶ。 		
	第4回	<p>在宅療養に必要な医療・看護・福祉制度を理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の仕組みについて学ぶ。 介護保険制度における介護サービスについて学ぶ。 		
	第5回	<p>障害者の福祉制度（障害者総合支援法）について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 障害者総合支援法による在宅サービスと施設サービスの理解 在宅難病者に対する制度と社会資源 難病療養者に対する制度の理解 		
	第6回	<p>在宅ケアと在宅看護①</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養成立の条件を理解し、在宅ケアチームにおける看護の役割について事例を通して学ぶ。 在宅療養者の事例を通して、在宅サービスの内容・担当職種、ケアマネジメントについて学ぶ。 		
	第7回	<p>在宅ケアと在宅看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムを理解する 地域包括支援センターの位置づけと役割について学ぶ。 		
	第8回	<p>在宅看護過程の展開（1）情報の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 療養者の基本的な情報の整理 国際生活機能分類（ICF）の構成要素と相互作用について理解する。 		
	第9回	<p>在宅看護過程の展開（2）看護問題の抽出 サービス関連図</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 療養者の基本的な情報の整理 ICFの構成要素に沿って、療養者の基本的情報の整理について学ぶ。 在宅サービス関連図の作成 在宅サービスの種類とケア内容から、各サービス間の連携や情報共有についてまとめる 		
	第10回	<p>在宅看護過程の展開（3）看護計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 看護問題の抽出と解決策の立案 ICFの構成要素に沿って分類された、療養者の基本的情報から看護問題を抽出する。 		
	第11回	<p>在宅看護過程の展開（4）看護計画の評価・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 看護問題の抽出と解決策の評価・修正 看護問題解決のための在宅サービスの種類と頻度について考える。 		
	第12回	<p>在宅看護過程の展開（5）サービスの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 在宅サービスについて理解する 在宅サービスの種類とケア内容から、各サービス間の連携や情報共有についてまとめる。 		
	第13回	<p>在宅看護過程のまとめ（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬事例の看護過程の展開から学習内容をまとめる。 <p>1) 在宅ケアチームにおける看護師の役割。 2) 在宅看護に求められる疾患の知識と看護技術。</p>		
	第14回	<p>在宅看護過程のまとめ（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬事例の看護過程の展開から学習内容をまとめる。 <p>1) 在宅看護における主治医との連携。 2) 在宅看護における医療関係以外の職種との連携の必要性。 3) 在宅看護に必要な社会保障制度の知識。</p>		
	第15回	<p>在宅看護方法論 I のまとめ</p>		

・在宅看護方法論Ⅰの総括	
授業の目的・到達目標	在宅療養者の特徴を理解し、在宅看護の場で求められる看護過程の展開に必要な知識を身につけ、在宅医療・看護・福祉に関する制度に基づいた看護計画の立案ができる。医療施設から在宅療養・施設介護への看護の継続の視点とその仕組みを学ぶ。在宅療養を支える家族・介護者の健康管理の必要性を理解し、在宅介護の継続に必要な看護の提供について学ぶ。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	新版在宅看護論 医歯薬出版 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
参考書	系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
評価基準及び成績評価方法	筆記試験60% レポート40%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を提示し解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	在宅看護方法論Ⅰは、在宅で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の実践に必要な医療・看護・福祉制度の理解と看護過程の展開方法の知識が求められる。また、関係職種を担当するサービス内容を理解し、連携に必要な知識・技術を学びます。臨床看護と異なり、一般の家庭が看護の提供の場となりますので、授業を通して訪問時のマナーも身に着けましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Home care nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
杉本 厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	

授業概要	<p>疾病・障害により「医療ケア」と「生活ケア」を必要とする療養者とその家族への援助方法や在宅療養支援体制について演習（実技含む）を通して学ぶ。①生活の場における「医療ケア」・「生活ケア」の特徴を理解する。②慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解する、③神経難病難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解する、④認知症がある療養者と家族への援助方法を理解する、⑤独居で精神障害をもつ療養者への援助方法を理解する、⑥終末期にある人とその家族への援助方法を理解することを学習目標とする。</p>			
授業計画	第1回	ガイダンス 在宅看護の実際①	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護方法論Ⅱの授業の進め方の説明 在宅看護におけるアセスメント技術と在宅医療機器について学ぶ。 福祉用具と日常生活補助用具について学ぶ。 	
	第2回	在宅看護の実際②	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメントとケアマネジメントの機能 介護保険製における介護サービスの種類と内容 地域包括ケアシステム 厚生労働大臣名が定める疾患 訪問看護ステーションの仕組み 	
	第3回	在宅看護の実際③ 福祉用具と日常生活用具	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具、日常生活補助具の実際について学ぶ。 在宅看護実習室において、グループごとに福祉用具の活用と使用の目的について演習を行う。 	
	第4回	在宅看護技術 疾患別の観察技術①アセスメント技術	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等）と在宅酸素療法 在宅栄養管理（在宅中心静脈栄養、経管栄養） 	
	第5回	在宅看護技術 疾患別の観察技術②アセスメント技術	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法中の在宅療養 感染症予防と安全管理 	
	第6回	在宅看護技術 症状別の観察技術③アセスメント技術	<ul style="list-style-type: none"> 神経難病（筋萎縮性側索硬化症等）と在宅人工呼吸療法 筋・骨格系疾患（パーキンソン病、関節リウマチ、脊髄小脳変性症、脊柱管狭窄症、後縦靭帯骨化症等） 	
	第7回	在宅看護技術 症状別の観察技術④アセスメント技術	<ul style="list-style-type: none"> 循環器系疾患（脳血管疾患、心疾患、腎疾患） 代謝性疾患（糖尿病）と在宅服薬管理、自己注射、CAPD 	
	第8回	在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療①	<ul style="list-style-type: none"> 終末期療養者の看護 在宅リハビリテーション、住宅改修、移動福祉用具 	
	第9回	在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療②	<ul style="list-style-type: none"> 在宅における小児の支援について学ぶ。 	
	第10回	在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療③ 演習	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン測定の演習 担当疾患を想定したロープレ演習（療養者の状況を設定し、初回訪問看護の場面を設定する） 観察の視点（病状、医療処置の内容、ADL・IADL、介護状況）について、学びをまとめる 	
	第11回	在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療④ 演習	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療の実際を演習にて学ぶ。 医療処置の看護手順・必要物品・観察のポイントを演習を通して体得する。 DVD等により理解の促進を図る。 	
	第12回	在宅医療・看護技術① 在宅医療機器 演習	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療機器の特徴について学習を行い知識としてまとめる。 (Nursing Skillの活用による個人学習) (写真でわかるシリーズ 写真でわかる訪問看護の活用による復習) 	
	第13回	在宅医療・看護技術② 在宅医療機器 演習	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療機器の操作、看護技術演習を通して体得する。 シミュレーター学習 	
	第14回	在宅医療・看護技術③	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護における医療処置 在宅医療機器の取り扱い、看護のポイントについての学習および演習からの学びの体得する。 	
	第15回	在宅看護方法論Ⅱのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護の今後と課題と展望 在宅看護論実習に向けて 	

授業の目的・到達目標	<p>疾病や障害をもちながら居宅で療養している対象に特徴的な健康障害を理解し、対象の自立・自律を促進しQOLを維持・向上させていくために在宅療養支援体制と看護を展開するうえでの基礎的看護について修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における「医療ケア」・「生活ケア」の特徴を理解できる。 ・慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解できる。 ・神経難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解できる。 ・認知症がある療養者と家族への援助方法を理解できる。 ・終末期にある人とその家族への援助方法を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>新版在宅看護論 医歯薬出版 写真でわかるシリーズ 写真でわかる訪問看護（改訂代2版） インターメディカ</p>
参考書	<p>系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験60% レポート・演習40%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>在宅看護方法論Ⅱは、在宅看護に必要な疾患の実践的な看護技術、医療・看護・福祉の関わる制度の理解、ケアマネジメントの理解など幅広い知識・技術が求められます。 臨床看護学のすべての看護学領域が関係する分野ですので、授業時間以外の自己学習時間を十分に活用して、予習・復習を行って、授業に臨んでください。</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 家族看護論

英文科目名称： Family nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
杉本 厚子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		在宅看護論

授業概要	患者のケアにおいては、専門職だけでなく家族の果たす役割が重要な位置を占めている。これらの家族を看護の対象として捉え、家族援助の方法を学習する。授業では、①家族の発達と危機、②家族員の健康問題によって生じる家族の問題、③家族機能をシステムとしての捉える方法、家族のセルフケア能力を高める援助、⑤家族看護に関する主な理論やモデルを学習する。そして、家族看護における看護専門職の役割について考察する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス	家族看護論とは	○「家族」とは ○家族の機能・形態の変化 ○家族看護論の発展と動向
	第2回	家族看護論における対象の理解	① 発達する家族	システムとしての家族
	第3回	家族看護論における対象の理解	② 家族の理解	家族像の形成
	第4回	家族看護論における看護実践	① 健康な家族についての考え方	家族とのパートナーシップ
	第5回	家族看護論における看護実践②	代表的なアセスメントモデル、家族を援助するときの基本姿勢	
	第6回	家族看護実践と社会的・文化的背景	①家族と文化	家族と地域社会
	第7回	家族看護実践に役立つ考え方	① 実践例	
	第8回	家族看護実践に役立つ考え方	② 実践例	まとめ
授業の目的・到達目標	<p>家族および家族支援に関する諸理論を学び、家族の持つセルフケア能力を高める援助方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象としての家族を理解できる。 ・現代社会における家族について理解できる。 ・家族アセスメントの方法と家族の援助方法について理解できる。 ・家族看護における看護職の役割を理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院			
参考書	山崎あけみ他：家族看護学. 南江堂. 2015.			
評価基準及び成績評価方法	小テスト50% 課題レポート50%			
達成度の伝達	少テストを毎回実施する。配布された結果一覧により達成度を自分で確認する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	○授業は、各領域実習終了後に集中的に行います。臨地実習での経験を振り返り、家族の問題をイメージしながら学んで下さい。 ○オフィスアワー：授業開講日の昼休み時間			
履修登録条件				

講義科目名称：在宅看護論実習

英文科目名称：Home care nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
杉本 厚子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		在宅看護論
授業概要	居宅等で療養する訪問看護利用者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護援助の実際と、在宅療養生活を支援する地域包括ケアシステムについて、主に訪問看護ステーションを拠点として学習する。			
授業計画	<p>実習期間：平成30年5月7日～12月21日 実習時間：8時30分～16：00 実習場所：訪問看護ステーション 地域包括支援センター 社会復帰施設</p>			
授業の目的・到達目標	<p>目的 地域の居宅等で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>到達目標 1. 在宅療養者とその家族を総合的に理解する。 2. 生活の場で展開される看護活動の実際を理解する。 3. 退院から在宅療養開始・継続するための支援体制と看護師の役割が理解できる。 4. 地域で生活する精神障害者とその家族への支援の実際を理解する。 5. 地域包括支援センターの業務内容と介護予防事業について理解できる。</p>			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	特になし			
参考書	押川眞喜子編 写真でわかる訪問看護 インターメディカ 2016.			
評価基準及び成績評価方法	<p>(1) 出席状況、実習記録、実習態度、実習事前学習の状況から総合的に評価する。 (2) 実習評価表に基づき、実習指導者の意見と(1)の内容から教科担当教員が評価する。 (3) 行動目標を評価内容とし、1～4点の4段階で評価し、60点以上を合格とする。</p>			
達成度の伝達	記録提出物にコメントする。 個人面接を行い達成度を伝える。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	授業で配布した資料の全てをファイルして持参する。実習前に知識の確認テストを実施する。			
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護学概論

英文科目名称：Introduction to public health nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
沼田 加代				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	公衆衛生看護学の基本的理念と目的を理解し、公衆衛生看護の対象や場の特性を学ぶ。公衆衛生看護学の対象となる個人・家族・集団・組織を含むコミュニティである地域について理解し、公衆衛生看護学の基本的な考え方であるプライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションを学ぶ。さらに、地域や社会の動向からみた人々の健康課題とその支援となる公衆衛生看護活動の基本的な展開を学ぶ。また、歴史的変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開の基礎を学び、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱの科目で具体的な内容につながるよう学習をすすめる。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 公衆衛生看護学とは① 公衆衛生看護学の理念と目的、公衆衛生看護の職業倫理、保健師助産師看護師法</p> <p>第2回 公衆衛生看護学とは② 公衆衛生看護学の基本理念：健康の概念、予防レベルと公衆衛生看護活動、日本の健康政策</p> <p>第3回 公衆衛生看護学とは③ 公衆衛生の定義：ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア</p> <p>第4回 公衆衛生看護学とは④ 公衆衛生看護の変遷</p> <p>第5回 公衆衛生看護学とは⑤ 保健医療福祉システム：公衆衛生行政、公衆衛生看護と法体系</p> <p>第6回 公衆衛生看護活動① 公衆衛生看護活動の対象：個人・家族、組織、集団、コミュニティ</p> <p>第7回 公衆衛生看護活動② 公衆衛生看護活動の場、活動内容、活動方法とその特性</p> <p>第8回 公衆衛生看護活動③ 社会環境の変化と健康課題：人口や疾病構造と健康課題、社会構造・文化的背景と健康課題、環境と健康</p> <p>第9回 公衆衛生看護活動④ 保健指導：目的・対象、特徴、方法と選定</p> <p>第10回 公衆衛生看護活動⑤ 保健行動：保健行動とは、保健行動と行動変容、セルフケア行動</p> <p>第11回 公衆衛生看護活動⑥ 公衆衛生看護活動の場と特性：行政、学校、職域、医療・福祉施設</p> <p>第12回 公衆衛生看護活動の展開過程 自己決定の支援、ソーシャル・キャピタルや社会的ネットワークの活用、PDCAサイクルとマネジメント</p> <p>第13回 公衆衛生看護の展開① 対象別公衆衛生看護活動：母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障害者（児）保健活動</p> <p>第14回 公衆衛生看護の展開② 対象別公衆衛生看護活動：感染症の保健活動、難病の保健活動、災害と保健活動</p> <p>第15回 公衆衛生看護活動の展望 公衆衛生看護活動の課題、公衆衛生看護活動の今後の展望</p>
授業の目的・到達目標	公衆衛生看護学の基本的理念と目的、公衆衛生看護の対象や場の特性を理解し、公衆衛生看護活動の基礎を学ぶ。 ・公衆衛生看護学の理念・目的・概念・対象について理解できる。 ・プライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションの理念が理解できる。 ・地域や社会の動向と人々の健康課題と公衆衛生看護活動の基本的な展開が理解できる。 ・歴史的変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開についてその基礎を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	標 美奈子、他 著：《標準保健師講座1》 公衆衛生看護学概論、医学書院。 津村 智恵子、他 編：公衆衛生看護学、中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向、厚生統計協会。
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	

講義科目名称：健康教育相談論

英文科目名称：Health education counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
豊島 幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	あらゆるライフステージにある対象者が健康の保持増進をしながら生活するための援助方法である健康相談及び健康教育についてその基礎的知識・技術・態度を学習する。 健康教育や健康相談のニーズについて、あらゆる側面からアセスメントする方法について理解し、対象者の健康レベルをふまえた援助方法について学ぶ。特に対象者自身の能力を促進し、自ら課題を解決して行くことができるような支援について学習する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス ヘルスプロモーションと健康教育 予習：ヘルスプロモーションの定義 復習：健康教育にとってヘルスプロモーションの概念はなぜ重要なのか		
	第2回	グローバル社会と健康問題 環境汚染、新たな感染症、災害、犯罪 予習：環境問題、新興感染症、災害や犯罪が健康にどのように影響すると考えるか 復習：健康への影響とその対策についての自分の考え		
	第3回	リスク行動と健康障害 飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症、歯科口腔疾患、 予習：飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症、歯科口腔疾患の健康問題はどのようなものか 復習：健康への影響とその対策についての自分の考え		
	第4回	生活習慣の疫学・病態・予防 悪性新生物、糖尿病、循環器疾患、アレルギー疾患 予習：それぞれの疾患の原因、症状、治療、看護についてのまとめ 復習：それぞれの疾患の予防法		
	第5回	保健行政と支援システム 学校保健と地域保健の役割 予習：学校保健と地域保健の違い 復習：講義での学びと考察		
	第6回	生涯保健 小児保健、成人保健 障害者のQOLと保健・福祉 予習：小児、成人、障害者の看護や保健について今までの学んできた内容と自分が感じているイメージ 復習：小児、成人、障害者のQOLとは何か、自分の考えをまとめる		
	第7回	ライフスタイルと健康教育 身体機能を高めるライフスタイルと健康予備能力を高めるライフスタイルと、健康教育 予習：ライフスタイルとは何か 復習：ライフスタイルに働きかける健康教育についての自分の考え		
	第8回	健康教育相談活動の基本理解 健康教育相談活動の目的および方法 予習：自分が考える健康教育相談活動のイメージ 復習：健康教育相談の対象者のアセスメントの必要性和健康教育のテーマの選択で必要なこと		
	第9回	健康教育相談活動と支援体制 健康教育相談活動と支援体制、協働、役割 予習：健康教育活動をしている場や機関にどんなものがあるか 復習：健康教育相談活動の機能・役割と、保健行政と支援システムについて理解できたこと		
	第10回	健康教育相談活動に必要な理論と技法 コーディネーター型、カウンセリング技法 予習：コーディネーター、カウンセリングとは何か 復習：コーディネーター型、カウンセリング技法の重要性和保健師の役割		
	第11回	様々な場における健康教育相談活動① 学校における健康教育相談活動 予習：学校保健の講義で学んだ事の復習 復習：学校における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと		
	第12回	様々な場における健康教育相談活動② 医療の場における健康教育相談活動 予習：医療の場における保健師の役割についてのイメージ 復習：医療の場における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと		
	第13回	様々な場における健康教育相談活動③ 地域における健康教育相談活動 予習：地域における保健師の役割についてのイメージ 復習：地域における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと		
	第14回	様々な場における健康教育相談活動④ ピアサポートによる健康教育相談活動 予習：ピアサポートとは何か 復習：ピアサポートの機能と利点		
	第15回	まとめ 健康教育相談活動の課題と展望		
授業の目的・到達目標	あらゆるライフステージにある対象者の健康の維持増進のための援助方法の一つである健康相談及び健康教育について、その基礎的知識・技術を学ぶ。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育相談活動の目的・理論・方法について理解する ・健康教育相談活動の機能・役割と、保健行政と支援システムについて理解する。 ・さまざまな場における健康教育相談活動について理解する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 学校保健

英文科目名称： School health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島 幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状

授業概要	学校保健は、養護教諭のみならず、すべての教育関係者が理解しておかなければならない基礎基本の内容である。学校保健の目的や領域構造、法的根拠等について学習する。			
授業計画	第1回	教育職員としての養護教諭の役割、日本の養護教諭と海外のスクールナースの位置づけの違い		
	第2回	学校保健の目的、学校保健の領域構造		
	第3回	学習指導要領と学校保健		
	第4回	学校経営と保健室経営		
	第5回	養護教諭に関する法規と職務内容		
	第6回	教育課程の編成に関する協力の在り方		
	第7回	学校教育目標と学校保健		
	第8回	保健教育と保健管理		
	第9回	学校保健計画の立案、実施、評価		
	第10回	学校安全計画の立案、実施、評価		
	第11回	学校における組織活動		
	第12回	保健の保持増進と保健指導		
	第13回	個別の保健問題の把握と指導		
	第14回	感染症、食中毒の予防と発生時の対応		
	第15回	学校保健に関する組織と養護教諭のかかわり		
授業の目的・到達目標	教育や教職に関する基本的事項について理解し、教職の意義や養護教諭の役割、職務内容に関する知識を修得する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護教諭の判断および看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	学校保健ハンドブック第6次改訂、教員養成系大学保健協議会 ぎょうせい			
参考書	新しい保健教育 日本健康教育士養成機構 保健同人社 国民衛生の動向 厚生統計会			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（客観・論述）70%、レポート30% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。			
達成度の伝達	模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。面接予約方法は授業で提示します。			
履修登録条件				

講義科目名称：産業保健

英文科目名称：Occupational health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	講義
担当教員				
大澤 真奈美				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	あらゆる職業に従事する人々の健康を維持・増進させる産業保健活動について学ぶ。 職業に起因する健康障害を予防するための労働衛生対策と労働衛生管理体制、人々の健康を維持・増進するために組織的に行う健康支援活動である産業保健活動の実践について理解し、労働衛生行政や産業保健の歴史の変遷をふまえ、近年の産業保健における課題について考察する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス・産業保健の目的と変遷 産業保健の目的、労働衛生対策の変遷 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第2回 産業保健に関わる法制度と労働衛生の実態 労働基準法、労働安全衛生法等、業務上疾病と災働災害の現状、労災保険制度 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第3回 労働衛生管理体制と産業保健活動 事業場の労働衛生管理体制、産業保健活動における3管理(作業環境管理・作業管理・健康管理) (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第4回 事業場における健康管理 事業場における健康管理のしくみ(健康診断、事後措置、保健指導、適正配置)、健康管理における看護職の役割、労働衛生マネジメントシステム (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第5回 労働衛生対策の行政機構と地域における体制 日本の労働衛生行政、地域における体制、国の支援事業(中小企業対策等)、小規模事業場の課題 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第6回 職場の健康づくりメンタルヘルス対策と産業保健活動 トータルヘルスプロモーション、産業保健におけるヘルスプロモーション、職場におけるメンタルヘルス対策 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第7回 職業性疾病予防対策と産業保健活動 化学物質、石綿、粉じん、物理的因子(電離放射線、騒音障害等、腰痛、VDT等)による健康障害防止対策 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p> <p>第8回 健康確保対策・快適職場づくり対策と産業保健活動 職場における受動喫煙防止対策、過重労働における健康障害防止対策、快適職場の形成等 (予習・復習)各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字等の内容は特に重要な事項のため、授業後の復習にて必ず確認を行う。</p>
授業の目的・到達目標	<p>あらゆる職業に従事する人々の健康を維持増進させるための産業保健活動について理解し、産業看護職としての機能と役割について自己の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働く人々の特徴と職場における健康管理について説明できる。 日本の労働者が抱える健康課題の特徴と予防対策を理解できる。 産業保健活動における看護職の職務と、展開方法について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	特に指定しない
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験100%
達成度の伝達	筆記試験の結果を開示する
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：地域ケアシステム論

英文科目名称：Local care system

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
沼田加代、齋藤恵子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	

授業概要	地域における継続的・包括的な支援システムについて学ぶ。地域で生活する人々を支える関係機関・関係組織と各専門職及び住民組織や当事者組織の役割を理解し、地域ケアシステムの構築に必要なマネジメント能力及びコーディネート能力とネットワークづくりを学ぶ。また、地域の顕在化・潜在化した健康上の課題を解決するための保健計画と保健事業計画の立案と評価を理解する。さらに、地域の実情に応じた施策化のプロセスにおける保健師の役割と保健活動の実際を学ぶ。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 地域保健活動・地区活動 地域・地区の定義と活動の範囲：行政区画、日常生活圏域、コミュニティ・エンパワメント		
	第2回	地域組織の育成・支援 地域組織の育成・支援の目的と過程：仲間づくりを意図した育成・支援、構成員および地域組織の主体性を高める支援		
	第3回	地域ケアシステムの構築① 地域ケアシステムの概念：地域ケアシステムの発展過程		
	第4回	地域ケアシステムの構築② ネットワークの形成とケアコーディネーション：関係者・関係機関との連携・協働、パートナーシップ、連携のための会議の企画・運営		
	第5回	保健医療福祉における事業化と施策化① 事業化の目的と過程：サービスの公平性、利用可能なサービスの創設、法的根拠、保健事業の位置づけの明確化、予算の確保、マンパワーの確保と調整		
	第6回	保健医療福祉における事業化と施策化② 事業化の目的と過程：保健事業計画の策定、モニタリング、進行管理、インプット・アウトプット評価、保健事業の継続・中止		
	第7回	保健医療福祉における事業化と施策化③ 施策化の目的と過程：施策の決定会議（パブリックコメント、議会による検討）		
	第8回	保健医療福祉における事業化と施策化④ 施策化の目的と過程：中長期的な目標設定と対策、施策の公表、進行管理と評価結果の公表		
授業の目的・到達目標	地域で生活するための継続的・包括的な支援システムと保健事業の立案と施策化のプロセスを学ぶ。 ・地区活動および地域組織の育成・支援に関わる活動の展開方法を理解できる。 ・地域ケアシステムの定義・目的および基盤となる理論を学び、展開方法を理解できる。 ・地域における看護活動を展開するにあたって他職種との連携や調整機能が理解できる。 ・保健事業の計画・実施・評価の方法と施策化のプロセスが理解できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版）、インターメディカル。			
参考書	標 美奈子,他 著：《標準保健師講座1》 公衆衛生看護学概論, 医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験100%			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論 I

英文科目名称：Public health nursing practice I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
沼田加代、齋藤恵子、横山文子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	公衆衛生看護学の対象である「個人・家族・グループ」および「地域」に向けた支援について、対象に適した援助技術の目的と方法を学ぶ。「個人・家族・グループ」に向けた援助技術である健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査について、援助技術の目的と対象を理解し、援助方法の展開を演習を通して学ぶ。また、「地域」に向けた援助技術である地域診断について、地域の保健統計や保健師活動の情報収集からアセスメント方法までを理解するとともに、地域で暮らす人々の健康課題を明確化するまでの地域診断の一連の過程を学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 個人・家族・グループへの支援① 公衆衛生看護活動における対人支援の基本：自己効力感の向上、エンパワメント、セルフケア能力の向上、行動変容</p> <p>第2回 個人・家族・グループへの支援② 公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法：健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査</p> <p>第3回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際① 健康相談の展開と実際〔演習〕</p> <p>第4回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際② 家庭訪問の展開と実際：家庭訪問の計画立案〔演習〕</p> <p>第5回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際③ 家庭訪問の展開と実際：家庭訪問の実践〔演習〕</p> <p>第6回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際④ 健康教育の展開と実際：健康教育の計画立案〔演習〕</p> <p>第7回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑤ 健康教育の展開と実際：健康教育の教育媒体の作成〔演習〕</p> <p>第8回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑥ 健康教育の展開と実際：健康教育の原稿の作成〔演習〕</p> <p>第9回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑦ 健康教育の展開と実際：健康教育の実践〔演習〕</p> <p>第10回 個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑧ 健康教育の展開と実際：健康教育の評価〔演習〕</p> <p>第11回 地域への支援 地域アセスメント<地域診断>の概念</p> <p>第12回 地域への支援の展開と実際① 地域アセスメント<地域診断>の過程：情報収集〔演習〕</p> <p>第13回 地域への支援の展開と実際② 地域アセスメント<地域診断>の過程：既存の統計資料の分析〔演習〕</p> <p>第14回 地域への支援の展開と実際③ 地域アセスメント<地域診断>の過程：多角的・継続的アセスメント〔演習〕</p> <p>第15回 地域への支援の展開と実際④ 地域アセスメント<地域診断>の過程：健康課題の明確化〔演習〕</p>
授業の目的・到達目標	<p>公衆衛生看護学における援助技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学の対象が主体的に問題を解決できるよう働きかける技術を理解できる。 ・公衆衛生看護活動の援助技術である健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査の支援について理解できる。 ・地域で暮らす人々の健康上の課題を明確化するための地域アセスメント<地域診断>の展開過程が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	公衆衛生看護学 荒賀直子他編 インターメディカル
参考書	標 美奈子,他 著：《標準保健師講座2》 公衆衛生看護技術, 医学書院. 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版.
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing activity deployment II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
沼田加代、齋藤恵子、横山文子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学

授業概要	公衆衛生看護活動の場である行政（都道府県や市町村）が主に対象とする母子保健・成人保健・高齢者保健について、各ライフステージの特性に応じた保健活動および健康課題に対応した保健活動を体系的に学ぶ。各ライフステージおよび各健康課題に対応する保健活動の歴史的変遷や法的根拠を理解し、保健活動の目的や展開内容と方法の実際を学ぶ。さらに、各保健活動における保健師の役割と他職種との連携や社会資源の活用により展開される保健活動の実際を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 母子保健活動① 母子保健の動向と対策</p> <p>第2回 母子保健活動② 乳幼児の成長発達と保健指導</p> <p>第3回 母子保健活動③ 母性・父性の保健、予防接種</p> <p>第4回 成人保健活動① 成人保健施策と保健師活動、成人期の日常生活と生活習慣病</p> <p>第5回 成人保健活動② 特定健康診査と特定保健指導</p> <p>第6回 高齢者保健活動① 高齢者保健対策の動向と現状</p> <p>第7回 高齢者保健活動② 高齢者の健康と生活特性</p> <p>第8回 高齢者保健活動③ 介護予防事業と保健師活動</p> <p>第9回 精神保健活動① 精神保健福祉の動向、精神障害者の生活と保健指導</p> <p>第10回 精神保健活動② 社会病理を背景とする精神的問題</p> <p>第11回 障害者（児）保健活動 障害者（児）の生活と保健指導、権利擁護</p> <p>第12回 難病の保健活動 難病対策の理念、難病患者の生活と地域のサポートシステム</p> <p>第13回 感染症の保健活動① 感染症対策の動向、感染症対策と保健指導</p> <p>第14回 感染症の保健活動② おもな感染症と保健師活動</p> <p>第15回 健康課題をもつ人々への保健活動 虐待や依存症、生活保護対象者の支援</p>
授業の目的・到達目標	<p>公衆衛生看護活動が行われる場と対象者の特性に応じた保健活動について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子・成人・高齢者といった各ライフステージに応じた保健活動の方法と実際について理解できる。 ・事例を通じた実践的な保健活動から保健師の役割を理解できる。 ・各保健活動の歴史的変遷から今後の有効な保健事業の展開を考えることができる。 ・人々が主体的に課題を解決できるよう、地域の社会資源を活用した保健活動の展開が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	中谷 芳美 他 著：《標準保健師講座 3》 対象別公衆衛生看護活動，医学書院。 津村 智恵子 他 編：公衆衛生看護学，中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向，厚生統計協会。
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	

講義科目名称：健康相談活動の理論と演習

英文科目名称：Health consultation and counseling activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島 幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	健康相談活動の考え方、進め方について理解し、エビデンスに基づくアセスメントができるように演習を通して学習する。			
授業計画	第1回	健康相談の法的根拠		
	第2回	健康相談、健康相談活動の進め方		
	第3回	児童期、青年期の心の発達と課題		
	第4回	集団及び個人の心身の健康状況の把握		
	第5回	養護教諭自身の自己分析と自己理解		
	第6回	保健室における面接の基本と実践		
	第7回	面接記録用紙の作成と活用(支援記録と面接記録)		
	第8回	専門家、専門機関との連携の在り方		
	第9回	いじめ問題への対応と養護教諭の役割		
	第10回	基本的相談対応の技法と態度		
	第11回	事例検討 初期対応		
	第12回	事例検討 内科的訴えへの対応		
	第13回	事例検討 心因性のものか見分けるための対応		
	第14回	事例検討 保健室登校の対応		
	第15回	健康相談活動の力量を高めるために		
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の発達に関する現代的な健康課題等について理解する。 ・エビデンスに基づく分析の重要性を学び、人権や主体性を尊重しながら養護教諭として児童生徒と関与することができる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護・教育・看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。			
教科書	教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引き 文部科学省 子供たちを児童虐待から守るために—養護教諭のための児童虐待マニュアル— 日本学校保健会			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	筆記試験(50%)、課題レポート(50%)			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	ゆっくり語り合いたいのでアポイントを取ってください。面接予約方法は授業で提示します。			
履修登録条件				

講義科目名称：養護概説

英文科目名称：Theory of “Yogo” Teachers/ School nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島 幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、児童生徒の発達過程、心理等を理解し、子どもの発達とその支援に向けた教育的働きかけについて基本的理解を図る。 ・養護教諭が行う授業実践の内容について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身に付ける。
授業計画	<p>第1回 養護教諭の概念と職務の変遷</p> <p>第2回 中教審答申からみる養護教諭の役割</p> <p>第3回 学校保健安全法からみる養護教諭の役割</p> <p>第4回 保健室の機能と役割</p> <p>第5回 保健室経営における具体的な計画と実践</p> <p>第6回 学校における健康相談の基本的な考え方</p> <p>第7回 子どもの現代的な課題と対策</p> <p>第8回 学校における安全管理と危機管理</p> <p>第9回 学校環境衛生活動の進め方</p> <p>第10回 環境教育の理解と学校保健活動</p> <p>第11回 学校環境衛生の基準の理解と実践</p> <p>第12回 救急処置の基本</p> <p>第13回 救急処置と事後の対応</p> <p>第14回 救急体制の整備</p> <p>第15回 要管理児童生徒の把握と対応</p>
授業の目的・到達目標	養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯及び学校教育における養護教諭の役割について理解し、児童生徒の現代的課題に対応できるようにする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「対象者；幼児・児童・生徒の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた養護実践能力・看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける養護教諭(看護専門職)として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につなげる。
教科書	新訂版 学校保健実務必携(第4次改訂版) 第一法規 学校保健、安全実務研究会 新養護概説(第9版) 采女智津江 少年写真新聞社 2018
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル2015 日本学校保健会
評価基準及び成績評価方法	筆記試験(70%)、課題レポート(30%)
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとって下さい。面談予約方法は授業で指示します。授業の質問は授業中、直後に積極的に受け付けます。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護管理論

英文科目名称：Public health nursing management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	選択	講義
担当教員				
沼田 加代				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学
授業概要	公衆衛生看護管理の目的や機能を理解し、公衆衛生看護の専門職である保健師としての専門的自律と人材育成のあり方を学ぶ。公衆衛生看護活動における組織運営と業務管理、予算管理について学習し、ヘルスケアの質を保证するための評価を理解する。また、健康上の危機管理として感染症の集団発生における看護職と関連他職との連携・協働について学ぶ。さらに、自然災害や人為災害等による健康危機管理の範囲と事前対策や発生時の対策および発生後の対策について学習する。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、公衆衛生看護管理とは 公衆衛生看護管理の目的と機能、地域ケアの質保証</p> <p>第2回 公衆衛生看護管理の構造と機能 組織運営と管理、人事管理、予算管理、業務管理、情報管理</p> <p>第3回 継続教育と専門的自律 現任教育の目的と方法、人材育成方針</p> <p>第4回 健康危機管理対策① 健康危機管理の概念：健康危機管理の理念と目的、健康危機を起こす要因</p> <p>第5回 健康危機管理対策② 健康危機管理と保健師活動</p> <p>第6回 感染症の集団発生時の保健活動 感染症調査、集団発生時の保健活動、感染拡大防止</p> <p>第7回 災害と保健活動① 災害の定義と災害保健活動の基本、災害支援制度とシステム</p> <p>第8回 災害と保健活動② 災害と保健師活動：災害予防と事前対策、発災直後から応急対策期、災害復旧・復興対策期</p>			
授業の目的・到達目標	<p>保健師として地域住民の健康レベルの向上や質の高いサービスを遂行できるように組織運営・管理、健康危機管理、災害時保健活動、健康危機の予防について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護管理の理念、しくみを理解できる。 ・公衆衛生看護管理が計画、組織、資源を統制する一連のプロセスであることを理解できる。 ・保健師に求められる管理能力について理解できる。 ・健康危機管理、災害発生と保健活動、健康危機の予防について理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版），インターメディカル。			
参考書	<p>標 美奈子,他 著：《標準保健師講座 1》 公衆衛生看護学概論, 医学書院。</p> <p>中谷 芳美,他 著：《標準保健師講座 3》 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院。</p> <p>津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。</p>			
評価基準及び成績評価方法	課題レポート100%			
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護学実習 I

英文科目名称：Public health nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	実習
担当教員				
沼田加代、齋藤恵子、横山文子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学
授業概要	地域の人々の健康課題を解決するために、市町村の地域特性に基づき展開される公衆衛生看護活動の実践能力を養う。地域の人々に身近な保健サービスを提供する市町村保健師の機能と役割を理解し、個人・家族・集団・組織を対象とした地域診断の過程を通して、健康課題を解決するための保健活動の展開と評価を学ぶ。さらに、対人保健サービスの援助技術を習得し、地域の社会資源を活用した生活支援の実践と公衆衛生看護活動の意義を学ぶ。			
授業計画	<p>実習期間：第1グループ 平成31年1月15日～1月25日 第2グループ 平成31年1月28日～2月8日 第3グループ 平成31年2月12日～2月22日</p> <p>実習場所：栃木県内各市役所・町役場・市町村保健センターなど</p>			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健医療福祉体系における市町村の機能と市町村保健師の役割が理解できる。 2. 地域診断の過程を通して、地域に暮らす人々の健康特性にあわせ展開される保健活動が理解できる。 3. 個人・家族・集団・組織に対して健康課題解決のための援助技法を活用した生活の支援が実践できる。 4. 健康課題の解決に向けて、地域住民や関係機関、他職種と連携・協働する意義とその方法が理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学. jp (第3版), インターメディカル. 厚生統計協会著：国民衛生の動向, 厚生統計協会.			
参考書	適宜、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。			
達成度の伝達	実習記録やレポートにコメントを記入する。			
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。 保健師教育課程履修の条件「2年次までの看護師教育課程と保健師教育課程の必修科目および3年次前期の疫学、公衆衛生看護管理論の全ての単位を修得していなければならない。」を満たしていること。			
メッセージ・オフィスアワー	栃木県内各市町村の地域特性を理解した上で、市町村保健師の活動を学ぶ。			
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	3単位	選択	実習
担当教員				
沼田加代、齋藤恵子、横山文子				
看護専門科目分	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		
授業概要	地域保健および産業保健や学校保健における対象集団の特性に基づいた健康の保持増進への支援を理解し、地域全体を捉える視点を持つとともに、多様な保健活動に対応できる実践能力を養う。			
授業計画	<p>実習期間：平成30年4～7月</p> <p>実習内容：保健所実習、産業保健実習、学校保健実習</p>			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生活動の中心機関である保健所の機能と役割が理解できる。 2. 働く人々の健康を支援する安全・健康管理体制と産業保健の実際を理解し、産業看護職の役割がわかる。 3. 学校における保健教育と保健管理の実際と養護教諭の役割が理解できる。 4. 地域における健康増進への支援として保健師が果たす役割と意義が理解できる。 5. 地域保健と産業保健や学校保健との連携について理解し、個人と地域全体を連動させながら展開する健康への支援を考察できる。 6. 公衆衛生看護管理の体制を理解し、健康危機の組織的な未然防止対策と発生時の対応を考察できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学. jp (第3版), インターメディカル. 厚生統計協会著：国民衛生の動向, 厚生統計協会.			
参考書	適宜、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。			
達成度の伝達	実習記録物やレポートにコメントを記入する。			
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。 保健師教育課程履修の条件「3年次までの看護師教育課程の必修科目と保健師教育課程の必修科目の全ての単位を修得していなければならない。」を満たしていること。			
メッセージ・オフィスアワー	栃木県の地域特性を理解した上で保健所保健師の活動を学ぶ。また、本科目は産業保健師と学校保健活動の学びも得ることにより、多様な保健活動に対応できる保健師の資質を習得する。			
履修登録条件				

講義科目名称：看護倫理

英文科目名称：Nursing ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
川島美佐子、村上隆夫				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域
授業概要	人間の尊厳、生命の尊厳と、人間の生存を守るための生命倫理について学び、看護における倫理の重要性について理解する。看護における倫理の歴史の変遷と生命倫理に関わる法令や指針をふまえ、近年にみられる看護倫理に関する課題について学習する。看護の対象となる人の人権と権利擁護について学習し、看護専門職として果たすべき倫理的責任と望ましい行動について考察する。			
授業計画	<p>第1回 生命倫理学の成立、死生観と身体観の歴史的变化について（村上隆夫） 予習：講義内容について書物、インターネット等で調べること 復習：講義内容について書物、インターネット等でさらに調べること</p> <p>第2回 脳死と臓器移植、インフォームド・コンセントの倫理的問題について（村上隆夫） 予習：第1回に同じ 復習：第1回に同じ</p> <p>第3回 妊娠中絶、生殖技術の倫理的問題について（村上隆夫） 予習：第1回に同じ 復習：第1回に同じ</p> <p>第4回 安楽死と尊厳死、医療資源の分配の倫理的問題について（村上隆夫） 予習：第1回に同じ 復習：第1回に同じ</p> <p>第5回 看護実践における倫理的課題（川島美佐子）</p> <p>第6回 臨地実習で学生が直面した倫理的ジレンマと課題の明確化（GW）（川島美佐子） 【予習】一人一人がどのようなことにジレンマを抱えたか、整理してくる</p> <p>第7回 倫理的ジレンマと解決についてのグループ発表（川島美佐子） 【予習】グループの中で、わかりやすく伝えられるよう、練習しておく</p> <p>第8回 まとめ（川島美佐子）</p>			
授業の目的・到達目標	近年、医療の高度化や複雑化のなかで、多様な倫理的課題が存在する。本講義では、看護倫理の基本的知識を学び、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求する。また、実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決に向けた道筋を考える力を養う。 ①看護倫理の基本的知識を習得できる ②実習で直面した倫理的課題を明確化できる ③倫理的課題に対してとるべき態度や行動について考えられる			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			
教科書	なし レジュメの配布（村上隆夫）			
参考書	なし レジュメで指示（村上隆夫）			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（村上隆夫） （川島美佐子） ①授業への参加度及びその都度の感想で40点 ②「臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマとその解決について」のレポートで60点			
達成度の伝達	試験結果または模範解答の公表をもって行う（村上隆夫）			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	倫理的課題についての感受性を高く持てるように、日々の生活や看護実践を見直せる機会にしていきたいと思います			
履修登録条件				

講義科目名称：医療と安全管理 I

英文科目名称：Medical care and safety management 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中村 史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域
授業概要	<p>医療安全の歴史的変遷と動向について、日本及び国際的観点から理解し、近年の日本における医療安全への取り組みについて学ぶ。 医療事故の発生のメカニズムについて人間工学の視点から理解し、コミュニケーションエラー及びヒューマンエラーを防止するための方法について学習する。 医療安全を効果的に推進し、管理していくために必要とされる能力について理解し、リスクマネジメント及びコンフリクトマネジメントの実際について学ぶ。</p>			
授業計画	<p>第1回 医療におけるヒューマンエラー ・ヒューマンエラーの考え方・医療安全に対する行政の取り組み 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 メディカル・リスク・マネジメント ・事故発生のメカニズム・看護事故の構造・看護業務と事故発生要因 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 医療安全とコミュニケーション ・医療チームにおけるコミュニケーション ・医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 診療の補助の事故防止 ・患者に投与する業務における事故防止（総論） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 リスク管理と危険予知1 ・リスク発生の原理と対策 危険予知トレーニング ・リスクとなる問題点の抽出 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 リスク管理と危険予知2 ・リスク発生の原理と対策 危険予知トレーニング ・リスク分析と対応策 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 臨地実習と安全 ・実習中の事故防止および事故発生時の学生の対応 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 医療と安全管理 I まとめ ・医療事故の種類と安全対策 予習：これまでの講義内容から、疑問点を明らかにし授業で質問できるよう準備する 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>			
授業の目的・到達目標	<p>・医療安全の歴史的変遷と動向について、日本及び国際的観点から理解し、近年の日本における医療安全への取り組みについて学ぶ。 ・医療事故の発生のメカニズムについて人間工学の視点から理解し、コミュニケーションエラー及びヒューマンエラーを防止するための方法について学習する。 ・医療安全を効果的に推進し、管理していくために必要とされる能力について理解し、リスクマネジメント及びコンフリクトマネジメントの実際について学ぶ。</p>			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、多職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。</p>			
教科書	<p>・統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院</p>			
参考書	<p>・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー 医学書院 ・川村治子：医療安全ワークブック 医学書院 ・ナーシング グラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版 ・ナーシングスキル</p>			
評価基準及び成績評価方法	<p>・筆記試験（60%）・レポート課題（40%）</p>			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<p>・自己の目標や課題を明確にし、準備を整えて臨みましょう。オフィスアワー 事前にメールでご連絡下さい。 E-mail: nakamura.fumie@v90.ashitech.ac.jp (中村史江)</p>			
履修登録条件				

講義科目名称：医療と安全管理Ⅱ

英文科目名称：Medical care and safety management 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
中村 史江				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合領域	

授業概要	医療におけるリスクマネジメントのプロセスについて、事例を用いた演習をとおして理解を深める。 リスクマネジメントサイクルについて学習し、リスクの把握、分析、対応、評価の一連の活動について理解する。リスク要因となる人間の行動や環境の状態を早期に発見するために、医療現場に多くみられる与薬、医療機器管理、カテーテル管理、転倒、転落等の事例を用いたKYT（危険予知訓練）を行い、事故防止を目的とした分析や対処の基礎的能力を養う。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 事故発生のメカニズム 予習：教科書のp2～38を読み、疑問点を明らかにする。医療と安全管理Ⅰを復習する。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 カテーテル管理1 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 カテーテル管理2 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 チューブ管理 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 RCA分析1 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 RCA分析2 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 輸血事故防止 予習：教科書のp81～93を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 医療機器管理1 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 医療機器管理2 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 内服薬事故の防止 予習：教科書のp94～112を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 口腔ケアリスク管理 予習：教科書のp168～174を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 業務に共通する間違い要因と防止 予習：教科書のp186～201を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 組織としての医療安全管理対策 予習：教科書のp216～245を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 注射事故予防 予習：教科書のp42～65を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 演習まとめ 予習：これまでの配布資料および教科書を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理における必要な知識を学び、重要な言葉を理解する。 2. 患者安全・医薬品の安全・医療機器安全に必要な取り組みを理解する。 3. 事故を予防する取り組みや事故事例分析の方法を養う。 4. 安全ために看護師として、身につけるべき必要な能力を理解する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践（2）医療安全 川村治子他著 医学書院
参考書	医療におけるヒューマンエラー 河野龍太郎 医学書院 医療安全ワークブック 川村治子 医学書院 ナースンググラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版
評価基準及び成績	筆記試験 50%、レポート課題50%

評価方法	
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と安全管理Ⅱでは、2年次の医療と安全管理Ⅰおよび関連科目の学習、各論実習を基盤に演習を行います。 ・ナースィング・スキルの授業に該当す各手順の詳細、基本事項を確認し授業に臨むこと。
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究

英文科目名称：Nursing research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、佐藤栄子、杉原喜代美、青山みどり、栗田佳江				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合領域	

授業概要	看護における研究の意義・目的について理解し、看護研究の対象となる事象や基本的な手法について学ぶ。看護研究の過程についてその概要を理解し、文献の検索方法及び文献レビューの方法について学習する。看護研究における概念枠組み、研究デザインについて理解し、データの収集および分析方法について学ぶ。そして結果についての考察や結論のまとめ方について理解し、看護研究をするための基礎的知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 研究とは、研究の意義 1. 看護研究の役割、特徴 2. 看護実践の質向上に必要な研究力</p> <p>第2回 リサーチクエスション、文献レビューとその方法 1. リサーチクエスション 2. レビューの目的、クリティークの方法</p> <p>第3回 研究における倫理的配慮 1. 倫理的配慮の原則 2. 依頼書と同意書</p> <p>第4回 研究デザインの概要、研究の設計と方法の選択 1. 研究デザインの選択 2. 質的研究と量的研究 3. ミックスメソッド</p> <p>第5回 質的研究① 事例研究のデータ収集と分析</p> <p>第6回 質的研究② 1. 質的記述研究のデータ収集と分析 2. 内容分析のデータ収集と分析</p> <p>第7回 質的研究③ グラウンデッドセオリーのデータ収集と分析</p> <p>第8回 量的研究① 実態調査研究（アンケート調査含む）のデータ収集と分析</p> <p>第9回 量的研究② 相関研究のデータ収集と分析</p> <p>第10回 量的研究② 実験研究（介入研究）のデータ収集と分析</p> <p>第11回 研究を伝える学会発表・論文作成 1. 研究のまとめ方 2. 研究成果を伝える方法</p> <p>第12・13回 文献クリティーク 1. 文献を深く読む 2. 文献クリティークの実践</p> <p>第14回 研究計画書作成方法 1. 研究計画書の意義 2. 書式と書き方</p> <p>第15回 看護研究における課題 1. 質の高い看護実践のために 2. 看護研究における今後の課題</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護における研究の意義・目的を理解し、看護研究を展開するための過程と基礎的な手法を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究を行う価値と重要性を考えることができる。 2. 自らの関心を深め問題意識を持つことがリサーチクエスションとなることが理解できる。 3. 看護研究に伴う倫理的問題を考えることができ、必要とされる倫理的配慮の内容が理解できる。 4. 看護研究の過程（リサーチクエスションの発見、デザインと方法の決定、データの収集、結果の分析・解釈、発表・論文作成）が理解できる。 5. 文献検索ができ、検討ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究. ヌーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方. 医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究. 看護協会出版会 <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	レポート課題（50%）・ワークへの取り組み（50%）とし総合的に評価する。

達成度の伝達	レポート課題はコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 受講後は、その日のうちに必ず復習し課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：看護管理と継続教育

英文科目名称：Nursing management and continued education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	2単位	必修	講義
担当教員				
中村 史江				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合領域	

授業概要	良質な看護サービスを提供するための看護管理について学ぶ。 看護管理の対象となる資源について理解し、その管理方法の実際について学習する。看護管理者に必要とされるリーダーシップ能力について理解し、日本の医療や看護行政及びマーケティングをふまえた上で効果的に管理する方法について学ぶ。また、看護専門職としてのキャリア開発について学習し、看護における現任教育や継続教育、生涯教育の方法や課題について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 看護管理学の概念・基礎的理論 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp2からp14を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第2回 看護職の労働環境とワーク・ライフ・バランス 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp110からp117を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第3回 病院における看護管理の実際 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp76からp148を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第4回 看護組織論（・組織とマネジメント ・組織と個人） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp76からp86を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第5回 看護マネジメント論（・組織達成のマネジメント ・看護サービス提供のしくみ） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp87から96を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第6回 看護職の継続教育・キャリア開発 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp97からp119を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第7回 看護経営・経済論（・物品管理 ・診療報酬制度） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp118からp127を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第8回 看護情報管理論（情報の管理） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp128からp135を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第9回 看護を取り巻く諸制度（・看護職の法制度 ・医療制度） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp152からp179を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第10回 看護職の機能（マネジメントのプロセス） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp16からp24を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第11回 安全管理とチーム医療に必要なマネジメント 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp25からp59を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第12回 看護業務の実践（・基準手順 ・情報の活用） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp60からp73を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第13回 マネジメントに必要な知識と技術 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp184からp218を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第14回 日常業務のマネジメント・1日の業務の組み立て方 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp70からp72を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第15回 看護ケアのマネジメント・看護ケアの優先順位の決定 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp70からp72を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>
授業の目的・到達目標	看護管理の概念と意義を理解し、看護専門職としてキャリア形成の必要性について学ぶ。 ・看護マネジメントに必要な理論とスキルが理解できる。 ・看護管理がすべての看護師の役割であることを理解できる。 ・将来に継続できるキャリア形成のための準備と発展させる方法が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」 「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」「自己の成長をめざし、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 上泉和子著 医学書院
参考書	看護学テキスト 統合と実践 看護管理 小林亜美他編 学研

評価基準及び成績 評価方法	筆記試験（50％）、課題レポート（50％）
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	看護管理とは、人々がそれなりの健康やQOLを維持向上していくことを目的として、多様な資源を用いて効果的に効率的に創造的に看護実践を行うことであり、またそうした看護実践が組織的に行われるよう環境を整えて看護職者を支援していくことです。広義には看護に関わる法・制度も含まれます。看護管理があつて初めて質の高い看護実践が生まれます。したがって全ての看護職者が看護管理学の基礎的知識を持っていることが大切です。また日本では地域包括ケアに向け社会保障制度改革が進められています。これからは地域を包括的にとらえ、看護職が果たす役割と看護管理のあり方を検討する視点も求められています。
履修登録条件	

講義科目名称：統合実習

英文科目名称：Integrated practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	実習
担当教員				
中村史江、杉原喜代美、櫻井清美、川島美佐子、佐藤栄子、青山みどり、栗田佳江、沼田加代、富山美佳子、川久保和子、鈴木早智子、島田葉子、斉藤利恵子、宮武陽子、石井千晴、尾島喜代美、杉本厚子、茂木英美子、横山文子、横山詞果				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合実習	

授業概要	看護管理の実際を学び、看護師としての実践力を高めるとともに組織の中での役割を学ぶ。 4年間の集大成の実習と位置づけ、既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた看護の実践力の向上を図る。複数の患者へのケアの実際から、ケアの優先度を判断し、安全性や倫理に基づいた看護を体験する。組織の中での役割や他職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を理解する。さらに、看護観を持ち将来に向けて継続的に自らのキャリアデザインを発展できることを目指す。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。 ・施設毎に組織管理体制について臨地でオリエンテーションを受ける。 ・病棟看護師と一緒に行動し複数の患者の看護を体験する。また、看護師の1日の看護業務を学ぶ。その際、実習時間はフレキシブルとする。 ・看護を展開するにあたり、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。
授業の目的・到達目標	<p>実習目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の実際をとおりて組織の中での看護師の役割を学ぶとともに、看護実践力を高める。 <p>実習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた看護の実践力を養うことができる。 ・複数の患者へのケアの実際から、ケアの優先度を判断し、安全性や倫理に基づいた看護を理解できる。 ・看護部の役割、看護師長、チーム・リーダー、チーム・メンバーの役割を理解できる。 ・多職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を明確にできる。 ・看護観を持ち自らのキャリアデザインを発展できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践 (1) 看護管理 上泉和子他著 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践 (2) 医療安全 川村治子他著 医学書院
参考書	実習中に、適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：ホスピスケア論

英文科目名称：Hospice care theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
岩崎 紀久子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	主に病院で行われるホスピスケア、緩和ケアに焦点をあて、そのケアを行う看護職の役割について学ぶ。 対象者の苦痛や困難を緩和し、尊厳を保ちながら人生の終末を迎えることができるようになるためのケアの実際について学習し、対象者が心の安らぎを保ちながら生活を送るための支援について学ぶ。また、関連職種との連携・協働について理解し、対象者のニーズに応じたサポートのあり方について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 死のイメージ、死の概念について 予習：終末期にある人について学習するため、教科書 p16～24、p61～p79を読み、予習しておくこと 復習：授業中配布した資料を見直し、終末期にある患者の特徴を復習しておくこと</p> <p>第2回 終末期にある患者の心理・社会的特徴と援助、スピリチュアルペインに対する援助について 予習：終末期患者の全人的苦痛について確認するとともに、教科書p129～p139、p280～p291を読み、予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例などからスピリチュアルペインについて復習しておくこと</p> <p>第3回 死をめぐる倫理的課題について 予習：倫理に関してこれまでに学習した内容を見直すとともに、教科書p44～p53を読み、死をめぐる倫理的課題について予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例等を参考にし、終末期における倫理について復習しておくこと</p> <p>第4回 終末期にある患者の家族への支援—悲嘆、家族に対するグリーフケアについて— (予習) 終末期患者の家族の支援を学ぶので、教科書p90～p98、p159～p181を読み予習しておくこと (復習) 授業時に配布したプリント、教科書から危機のプロセスおよび悲嘆について復習しておくこと</p> <p>第5回 ホスピス・緩和ケアの概念と実際、がん患者の身体的苦痛とその緩和方法（がん性疼痛） 予習：ホスピス・緩和ケアについて、教科書p4～p15を読み、さらにがん性疼痛について、教科書p191～p204、p246～260を読み、予習しておくこと 復習：がん終末期に出現する身体症状と緩和の原則について、配布資料、教科書を通して復習しておくこと</p> <p>第6回 がん患者の身体的苦痛とその緩和方法（がん性疼痛のマネジメントと看護の役割） 予習：前回に引き続き、がん性疼痛のマネジメントについて学習するので、教科書を読み予習しておくこと 復習：がん患者の疼痛コントロールの重要性について資料、教科書をもとに復習しておくこと</p> <p>第7回 がん患者の身体的苦痛とその緩和方法（全身倦怠感に対するケア、呼吸器症状に対するケア） 予習：がん患者に出現する頻度の高い、倦怠感および呼吸器症状について学習するので、教科書p186～p190、p214～p223を読み予習しておくこと 復習：授業で学習した全身倦怠感および呼吸器症状について、症状緩和の方法と看護師の役割について復習しておくこと</p> <p>第8回 ホスピスケアに関する授業全体のまとめと死のシミュレーション 予習：これまでに学習した授業内容について、理解が不十分な点に関しては明確にして授業に臨む 復習：死にゆく人の心理の理解と看護師の役割について自分自身の考えをまとめておく</p>
授業の目的・到達目標	人生の終末期にある人とその家族の身体的、心理的、社会的問題を理解し、患者の苦痛を全人的苦痛として捉え、患者と家族への援助のあり方について学習する。また患者と家族のQOL (Quality of life) について理解し、QOLの維持・向上に向けた具体的な援助方法について述べる事ができる。加えて、終末期にある患者および家族の死へのプロセスについて学び、死別後の家族の悲嘆に対する援助について理解する。また、終末期におこりやすい身体症状とその具体的な緩和方法についての理解を深め、看護者の役割について述べる事ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	緩和・ターミナルケア看護論 第2版
参考書	適宜、提示する
評価基準及び成績評価方法	課題レポート、授業態度等を総合的に評価する。原則としてレポート点60点以上を合格とする。
達成度の伝達	課題レポートの返却によって行う
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	ホスピス・緩和ケアに関して興味・関心のある学生の受講を希望します。通常から授業に関する書物、闘病記等を積極的によみ、理解を深めておいてください。 具体的な事例を含めて授業を展開しますので、積極的な受講態度を期待しています。
履修登録条件	

講義科目名称： 感染看護特論

英文科目名称： Advanced infection nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
小林 由美江				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	特定領域		

授業概要	健康に影響を及ぼす感染の課題を理解し、感染予防及び感染時における看護職の役割について学ぶ。 感染予防のための重要概念となる標準予防策（Standard precautions）について理解し、感染予防の方法と技術について学ぶ。 近年における新興感染症や再興感染症について理解し、医療機関における感染対策と感染症発生時の対応について学ぶ。 医療機関における感染管理認定看護師の役割と活動の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 感染管理と看護の役割 医療機関における感染管理認定看護師（ICN）の役割と実際 予習：感染管理認定看護師に期待される能力は、医療関連感染の予防と自施設における感染管理システムの構築です。そして、病院に出入りする人全てが感染予防策を実践できるよう支援を行います。具体的にどんな役割が必要だと思いますか、臨地実習での学びを思い出しましょう。 復習：感染管理における看護の役割を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第2回 感染症を持つ患者・家族の看護 HIV感染症などのウイルス感染症に対する看護 予習：HIVをはじめとするウイルス感染症で入院、または通院する感染症患者に対する看護の役割について考えてみましょう。 復習：ウイルス感染症患者への対応を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第3回 易感染状態にある患者・家族の看護 予習：疾病の治療、特に化学療法により易感染状態にある患者への看護の役割について考えてみましょう。 復習：易感染患者への対応について理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第4回 地域・在宅における感染管理 予習：様々な医療処置が必要な者、抵抗力が低下した高齢者等、易感染状態にある療養者は多く、在宅における感染管理は重要です。在宅における感染管理に課題について考えてみましょう。 復習：在宅における感染管理の必要性を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第5回 医療機関における感染防止と看護活動 手指衛生を初めとする標準予防策の実践 予習：手指衛生は、医療関連感染対策の基本であり、有効性が証明されています。しかし、実際には手指衛生が十分に実施されているとはいえません。患者ケアの際には、適切な場面とタイミングで手指衛生を実施する必要があります。WHOが提唱する「手指衛生の5つの瞬間」について考えてみましょう。 復習：多忙な臨床現場で手指衛生が必要な場面は様々です。交差感染発生の原理を理解し適切な手指衛生や個人防護具の正しい使用方法について理解しましょう。疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第6回 医療機関における感染予防とファシリティマネジメント 予習：適切な療養環境を患者や職員に提供するための医療施設の環境管理部門における感染管理（ファシリティマネジメント）は欠かせない視点です。どんな環境が最も良いと考えますか。臨地実習で体験した病院を例に考えてみましょう。 復習：医療施設の環境管理部門におけるファシリティマネジメントについて理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。</p> <p>第7回 医療関連感染サーベイランス 予習：医療関連感染サーベイランスとは、感染管理に関わる対策の立案、導入、評価に不可欠な医療関連感染に関するデータを継続的に収集、分析、その結果を共有する活動です。医療施設では様々なサーベイランスが実施されていますが、今後、看護師としてそれらのデータを臨床現場でどのように活用しようと考えますか？サーベイランスの必要性について考えてみましょう。 復習：効果的な感染対策活動を実施するためには、自施設の医療関連感染がどれくらい発生し、どのような傾向にあるのか、サーベイランスデータを有効に活用しましょう。</p> <p>第8回 感染看護の課題と方向性 公衆衛生上問題となる新興感染症と再興感染症 予習：近年の新興感染症や再興感染症の動向や対策について、医療機関の役割やそこで働く様々な職種の役割とはなんでしょうか？新型インフルエンザ等や災害時を例に考えましょう。 復習：アウトブレイク発生時の対応等、具体的な対策について理解し、平時の感染対策の重要性を理解しましょう。</p>
授業の目的・到達目標	感染症患者及び易感染患者の看護を理解できる。 医療機関で展開されている感染管理を理解し、感染症の拡大や制圧のための、臨床現場における看護活動について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	必要に応じ、資料を配布する。
参考書	特に指定なし、感染症の看護や感染管理に関連する参考書
評価基準及び成績評価方法	各授業の最後にレポートまたは確認テストにより採点する他、参加態度も考慮する。
達成度の伝達	テスト問題またレポートの返却によって行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	臨床現場で看護師や保健師としての活動を目前に控え、希望や不安など様々な思いがあろうかと思えます。少しでもイメージしやすいようお手伝いできればと思います。

	<p><オフィスアワー> 感染予防に関するご相談、また看護師として働くことへの不安などのご相談は、講義の際にご連絡ください。専任教員ではありませんので十分な時間が取れませんが、可能な限り対応いたします。</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 国際看護特論

英文科目名称： Advanced international nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越幸代、会沢紀子、李 孟蓉				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	特定領域		

授業概要	世界的な健康課題や各国が協力して取り組む看護活動について学ぶ。 世界の健康課題の現状やその背景について理解し、国際的に協力して健康課題に取り組む国際看護の過程について学習する。その協力する対象となる国際機関、政府、非政府組織の役割や、各職種の連携について理解し、国際協力における課題について考察する。また、日本の看護職の国際協力における実際の活動について理解し、国際看護の今後の展望について考察する。
授業計画	<p>第1回 【国際看護の定義と基礎知識】（宮越） <講義> 国を超えた看護の実践、開発途上国の定義と分類およびとらえ方 予習：「開発途上国」「プライマリヘルスケア」の用語の定義、教科書の210ページから220ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。</p> <p>第2回 【世界の保健医療状況と途上国におけるプライマリ・ヘルス・ケア】（宮越）<講義> プライマリ・ヘルスケアが必要とされる途上国の現況 予習：教科書の251～272ページ 復習：復習レポートの記述、第7回で提出</p> <p>第3回 【世界の健康問題と取り組み】（李） <講義> 国際社会がめざす保健医療の目標達成に果たす看護の役割 予習：「グローバルヘルス」の概念、教科書の220ページから236ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。</p> <p>第4回 【在留外国人への看護と健康支援】（李） 予習：教科書の237～244ページ。在留外国人の生活や健康問題、医療について身近な情報や体験、新聞等の媒体から実情に関心を持ち把握しておく。 復習：配布資料を熟読</p> <p>第5回 【途上国における国際看護協力の実際①】（会沢） <講義> 国際緊急支援に関わる看護活動の事例 予習：教科書の272～302ページ 復習：配布資料を熟読</p> <p>第6回 【途上国における国際看護協力の実際②】（会沢） <意見交換・グループワーク> 国際協力活動と異文化での看護活動 予習：第5回に準ずる 復習：第5回に準ずる</p> <p>第7回 【多文化共生看護と国内における外国人看護師との協働】（宮越） <DVD視聴・講義・意見交換> 在日外国人の生活と健康問題、文化アセスメント、在日外国人看護師の受入および就労条件とよりよい協働 予習：外国人看護師の受入条件、就労状況について新聞やテレビ等の媒体から、国内の実情に関心を持ち把握しておく 復習：配布資料を熟読し、講義内容や意見交換を踏まえた各自の考えについてのレポート作成</p> <p>第8回 【看護分野の国際協力に必要な知識と技術】（宮越） <講義・事例検討> 日本と異なる看護や看護技術、医療行為等の事例検討・ミニテスト 予習：日本とは方法や考え方が異なると予想される看護技術や看護方法について、既習の知識や各自の経験から考えておく 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。</p>
授業の目的・到達目標	<p>1. 国際看護の実践に必要な基礎的知識と方法を学び、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた看護の実践方法について考える（主に、開発途上国を中心とした国際協力）。</p> <p>2. 国際看護の場面における具体的な状況判断が必要な事例への対応や国際協力方法について検討し、多文化共生や効果的な国際協力の視点から国際看護を具体的に捉えることができる。</p> <p>以上の観点から、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた国際看護についての基礎的な考え方を習得する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	医学書院 《系統看護学講座 統合分野》、看護の統合と実践[3]、災害看護学・国際看護学(第3版)
参考書	授業單元ごとに適宜紹介します
評価基準及び成績評価方法	第2回の授業後のレポート、第6回のグループワークの達成度をそれぞれ5段階で30点満点で採点（5:30点、4:24点、3:18点、2:12点、1:6点）し、第8回目のミニテスト結果（40点満点）を合わせて総合的にを行います。
達成度の伝達	レポートおよびグループワークに対する総評と採点結果、ミニテスト実施直後のフィードバックによって行います。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。
履修登録条件	

講義科目名称：災害看護特論

英文科目名称：Advanced disaster nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越 幸代、会沢 紀子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	災害看護の歴史的変遷と災害に関する制度について理解し、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響と健康上の課題について学習する。 災害の種類と災害サイクル、その災害に伴う疾病構造や健康課題について学習し、対象となる人や集団（場所）、災害各期に応じた看護の方法について理解する。また、災害時における社会資源の活用や住民のネットワークの構築、地域における災害対策マニュアルをふまえた上での看護活動の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 【災害看護概論】（宮越） <講義> 災害の種類と疾病構造。災害サイクルと活動の場、災害医療と看護職の役割 予習：教科書の2～65ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。</p> <p>第2回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護①】（宮越） <講義・紙上シミュレーション> 災害各期の看護の特徴、発災後急性期の病院での初期対応 予習：教科書の65～126ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。</p> <p>第3回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護②】（宮越） <講義・意見交換> 避難所・仮設住宅での看護活動の実際（熊本地震の事例等） 予習：事前配布資料の熟読 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第4回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護③】（会沢） <講義・演習> トリアージとは、トリアージタグの使い方、トリアージ演習と被災後のトリートメント 予習：教科書の95～102ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第5回 【地域災害看護の展開】（会沢） <講義・事例検討> 地震災害時における救護班および地域での災害看護の展開 予習：教科書の168～208ページ（第3章） 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第6回 【被災者特性に応じた災害看護の展開①】（宮越） <講義> 災害時要配慮者・要援護者・慢性疾患患者の看護 予習：教科書の126～146ページ 復習：教科書の該当ページ、グループワーク課題（事例検討）</p> <p>第7回 【被災者特性に応じた災害看護の展開②】（宮越） <講義・グループワーク> 高齢期・妊産婦・小児・障がい者・在日外国人等の看護 予習：教科書の126～140ページおよび143～149ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第8回 【被災者特性に応じた災害看護の展開③】（宮越） <講義・ミニテスト> 精神的な支援を必要とする対象の看護 予習：教科書の149ページ～165ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害サイクルや災害発生の際、対象の特性に合わせた看護を考え、実践するための方法を考える。 2. 防災・減災及び災害時の対応における看護者の役割を考える。 3. 災害発生後急性期におけるトリアージとトリートメントの基本を学び、演習を通してトリアージ判定の方法を学ぶ。 <p>以上の3点から、防災・減災にかかわる災害医療における看護師の役割と方法について知り、災害看護を実践できる基礎的な知識と急性期のトリアージ判定の基礎的な力を習得する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	医学書院 <<系統看護学講座 統合分野>>、看護の統合と実践[3]、災害看護学・国際看護学(第3版)
参考書	授業單元ごとに適宜紹介します
評価基準及び成績評価方法	第7回のグループワークの達成度をグループごとに5段階で採点する（5:40点、4:32点、3:26点、2:18点、1:10点）。グループワークの目標を達成したレベルを各40点内で換算する。加えて8回目のミニテスト結果（60点）を換算し総合的に行う。
達成度の伝達	グループワークおよびミニテスト実施直後のフィードバックによって行います。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究ゼミナール I

英文科目名称：Nursing research seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、杉本厚子、中村史江、荻原弘幸、尾島喜代美、齋藤恵子、富山美佳子、石井千晴、川久保和子、齋藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、横山文子、横山詞果				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		研究ゼミナール	

授業概要	3年次に科目「看護研究」で学んだ知識をもとに、演習での体験を通して、看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。研究とは何か、研究の意義とプロセスを倫理的視点で学ぶ。各研究デザインの特徴と方法を理解し、自分の興味関心のあるテーマで文献研究を行う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学習をすすめていく。文献検索・検討を十分行い、後期の文献学習発表会の準備を行う。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、ゼミグループ担当の教員の紹介（全体ガイダンス後は各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究ゼミナールの進め方について 2. ゼミグループ担当教員の紹介 <p>第2回 グループごとのオリエンテーション（各教員研究室）、研究テーマの選択 リサーチクエスチョンの意見交換</p> <p>第3回 グループごとに研究テーマの決定（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リサーチクエスチョンの意見交換 2. 研究テーマの決定 3. 前期のグループ計画などの検討 <p>第4回 グループごとに文献検索・検討①（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献レビューの目的や方法の確認 2. クリティークの方法の確認 <p>第5回 グループごとに文献検索・検討②（各教員指定場所）</p> <p>第6回 グループごとに文献検索・検討③（各教員指定場所）</p> <p>第7回 グループごとに文献検索・検討④（各教員指定場所）</p> <p>第8回 グループごとに文献検索・検討⑤（各教員指定場所）</p> <p>第9回 グループごとに文献検討のまとめ①（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第10回 グループごとに文献検討のまとめ②（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第11回 グループごとに文献検討のまとめ③（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第12回 グループごとに文献検討のまとめ④（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第13回 グループごとに文献検討のまとめ⑤（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第14回 グループごとに文献検討のまとめ⑥（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第15回 前期の看護研究ゼミナールのまとめ、グループごとに総括</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、研究方法の基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 2. 関心のある研究テーマを選択決定できる。 3. 研究テーマに沿った文献を検索し、検討できる。 4. プレゼンテーションの効果的な方法がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究. ヌーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方. 医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究. 看護協会出版会 <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	文献検討グループレポート（80%）、個人レポート（20%）により総合的に評価する。

達成度の伝達	随時学生にコメントしていく。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究ゼミナールⅡ

英文科目名称：Nursing research seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、杉本厚子、中村史江、荻原弘幸、尾島喜代美、齋藤恵子、富山美佳子、石井千晴、川久保和子、斉藤理恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、横山文子、横山詞果				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		研究ゼミナール	

授業概要	演習での体験を通して、看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学習をすすめていく。看護実践における研究の役割や研究疑問を具体化する過程を学ぶ。看護研究ゼミナールⅠでまとめた結果を文献学習発表会において発表し、研究成果公表の実際を体験する。また、研究計画書の作成をとおして、研究計画書の意義と作成のプロセスを学習する。4年間の集大成として、専門職者として研鑽し続けられる基本的能力を身につけることを目指す。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス（各教員研究室） 後期のグループ計画などの検討</p> <p>第2回 文献学習発表会準備①（各教員指定場所） 1. 研究成果を伝える方法の確認</p> <p>第3回 文献学習発表会準備②（各教員指定場所）</p> <p>第4回 文献学習発表会① 各ゼミの文献学習の成果を発表し、相互に学びあう</p> <p>第5回 文献学習発表会②</p> <p>第6回 文献学習発表会③</p> <p>第7回 文献学習発表会④</p> <p>第8回 文献学習発表会のまとめ、研究計画書作成①（各教員指定場所） 1. 研究計画書の意義の確認 2. 研究計画書の書き方の確認</p> <p>第9回 研究計画書作成②（各教員指定場所）</p> <p>第10回 研究計画書作成③（各教員指定場所）</p> <p>第11回 研究計画書作成④（各教員指定場所）</p> <p>第12回 研究計画書作成⑤（各教員指定場所）</p> <p>第13回 研究計画書作成⑥（各教員指定場所）</p> <p>第14回 研究計画書作成⑦（各教員指定場所）</p> <p>第15回 看護研究ゼミナールのまとめ、グループごとに総括</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における研究の役割を理解できる。 2. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 3. 効果的なプレゼンテーションが工夫できる。 4. 研究計画書が作成できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究. ヌーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方. 医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究. 看護協会出版会 <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
達成度の伝達	随時学生にコメントを返していく。

資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：教職論

英文科目名称：Theory of Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
豊島 幸子				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職とは何か、教員の養成制度、職務の専門性を考える。教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。養護教諭の歴史と養成制度について学び、現在の健康問題と今後の課題といった諸事項に関して、具体的に身近な事例を通して理解を深める。			
授業計画	第1回	教職の意義と教員の使命・資質 教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて理解する。 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解する。		
	第2回	現代社会の教育的諸問題と教職の課題 教育的諸課題と教師という職業について考える。 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。		
	第3回	教員の仕事と役割 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価、教科外指導と教員、進路指導、教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解する。		
	第4回	学級経営・学校経営・校務分掌と教員 学校経営、学校経営、保健室経営、校務分掌について理解し、教員に求められる基本的な資質能力について考える。		
	第5回	教育相談と教員 教育相談とは、不登校への対処、いじめへの対処、組織的な連携の必要性について理解する。 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解する。		
	第6回	教員の研修と服務規程 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。教員免許状更新講習制度についても理解を深める。また、教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。		
	第7回	学習指導要領と教員 学習指導要領とは何か、学習指導要領とその変遷について理解する。 学習指導要領等の改訂のポイントについて理解し、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」についても理解を深める。さらに、各学校におけるカリキュラムマネジメントの確立について考える。		
	第8回	特別支援教育と学習指導要領 特別支援教育の現状と学習指導要領について理解する。 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。		
	第9回	養護教諭の歴史と養成制度 養護教諭の歴史と養成制度について理解する。 教育職としての養護教諭の理解と進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。		
	第10回	養護教諭の職務と専門性 養護教諭の職務の基本法である学校教育法や学校保健安全法、保健体育審議会答申、中央教育審議会答申などの内容を理解する。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。		
	第11回	保健教育と養護教諭 学校教育法施行規則において、教育課程の基準は文部科学大臣が公示する学習指導要領によるものと定められていることを理解する。また、小学校、中学校については2017年3月に告示された平成29年度版学習指導要領に示されている保健学習及び特別活動（保健指導関連）の目標・内容などについて要点を理解する。		
	第12回	保健室の管理・運営 保健室は、学校教育において目的を実現するために必要な施設としてその設置が法的に義務付けられている点を理解し、保健室の経営的視点に立ったマネジメント能力の向上の重要性について考える。特に、近年の児童生徒の健康課題は多岐にわたるため、養護教諭の保健室経営に期待が高まっていることを理解する。		
	第13回	学校における危機管理 学校で発生する危機には多くの側面があるが、教育課程に関すること、子どもや教職員など「人」に関すること、施設・設備や用具などの「物」に関することがあることを理解する。		
	第14回	課題のある児童生徒の指導 心身の健康課題を早期発見・対応することにより、学校教育をより効果的に進めることを目指す、最も基本的な教育活動であることを理解する。不登校やいじめなどの課題のある児童生徒の指導について考える。		
	第15回	教員・校務分掌との連携・協働 チーム学校運営への対応について、学校内外の専門家等と連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。		
授業の目的・到達目標				
教育目標に対する科目の位置付け	教員免許（養護教諭）取得に必要な教職科目で、1年後期に設けている必修科目である。本講は、教師の仕事は何か、教師の職務内容、学校や教師をめぐる現状など教職についての基本的な理解を深め、学生の教職への意識と使命感を高める。			
教科書	教職問題研究会編：教職論（第2版）－教員を志すすべてのひとへ、ミネルヴァ書房（2016）			
参考書	随時紹介する。			

評価基準及び成績 評価方法	筆記試験・課題レポートで60点以上を合格とする。
達成度の伝達	
資格情報	教職論は、教職資格取得に必要な教職科目の一つで、教職、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ科目である。教職を目指そう、あるいはまだ将来の職業がはっきりしていなくとも教職の資格を取得しようと思っている学生は積極的に受講して欲しい。
メッセージ・オ フィスアワー	ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。面接の予約方法は授業で提示します。授業の質問は授業中・直後に積極的に質問を受け付けます。
履修登録条件	

講義科目名称：教育基礎論

英文科目名称：Theory of Education Fundamentals

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
丸山 剛史				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教育とは、社会の側からの統制・維持の作用と、個人の側からの発達・適応・創造という二つの作用を弁証法的に実現する社会的営為であるといわれている。
授業計画	<p>第1回 教育とは 授業全体の導入として、受講者に「教育とは何か」について考えてもらいながら、教育、学校教育に関心をもてるようにする。</p> <p>第2回 教育、義務教育の始まり 教育と義務教育の始まりについて例をあげて説明し、教育や義務教育の社会的意義について理解させる。</p> <p>第3回 「学校」の誕生 「学校」は発明であるともいわれている。わが国における「学校」の始まりについて説明し、学校の社会的機能やわが国の学校の特殊性について理解させる。</p> <p>第4回 第二次大戦前日本の学校・教育課程・教師 わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦前の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育勅語、国定教科書など、戦前の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第5回 第二次大戦後日本の学校・教育課程・教師 わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦後の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育基本法、学校教育法、学習指導要領など、戦後の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第6回 企業社会と教育・学歴主義 産業化が進化した社会にみられ、わが国の子ども達も苦悩させられる学歴主義について説明する。ここでは特に特殊日本的な企業内教育についても説明する。</p> <p>第7回 学力論：「日本型高学力」と学力低下論議 日本の子どもたちの学力には、他国ではみられない、「日本型高学力」とでもいうべき独特な性質をもっている。ここでは、「日本型高学力」の内容を説明する。</p> <p>第8回 カリキュラム・カリキュラム開発 子どもたちの学びについて、教師が意図していなくても、子どもたちが勝手に学び取ってしまう「潜在的なカリキュラム」の問題がある。「潜在的なカリキュラム」問題を手がかりに、カリキュラムやカリキュラムづくりのあり方について考える。</p> <p>第9回 子どもの遊びと発達、遊びは学習の土台 子どもの遊びは、学習の土台であるといわれている。子どもの成長発達を促すとともに、豊かに学ぶための土台になる、子どもの遊びの教育的意義について考える。</p> <p>第10回 教育方法論（1）：生活綴り方、生活教育 代表的な教育方法である生活綴り方、生活教育について事例を紹介しながら説明する。</p> <p>第11回 教育方法論（2）：討議・話し合い 民主主義を実現するために不可欠とされる討議・話し合いについて、実状や留意点を説明するとともに、テーマを設定して実践してもらい、教育的意義や実践上の難しさを理解させる。</p> <p>第12回 授業づくりの理論 学校教育、教師に求められる最も中心的な活動・営みとして授業がある。授業づくりについて説明し、授業と授業づくりについて理解を深める。</p> <p>第13回 学校経営・学級経営、教育条件整備 学校教育においては学校経営や学級経営といった経営的な問題もある。教育の内容ではないけれども、教育の外にあって内を守るものとして教育条件整備の問題もある。こうした学校、教師を取り巻く問題について理解を深めてもらう。</p> <p>第14回 教師論：日本型教師像 教師とはどうあるべきか。わが国には、日本型教師像とでもいうべき独特の教師像がある。他国の教師像とどのように異なるか、なぜ日本型教師像が生まれたのかについて説明する。</p> <p>第15回 まとめ これまでの授業を振り返り、授業科目で学んだことを確認する。</p>
授業の目的・到達目標	
教育目標に対する科目の位置付け	「教育基礎論」は本学が付与する教員免許に必要な教職科目である。「教職論」とともに教職科目としては最初の1年次後期に配当されており、教職の必修科目であるから教員免許を取得しようと思う者は全員履修しなければならない。本科目は「教育基礎論」との名称に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理に関する科目である。2年次以降の教職科目、例えば教育課程論、特別活動の指導法、教育制度論、生徒指導論など、学校教育に関する各論の基礎にもなる。
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	堀尾輝久『教育入門』（岩波新書、1989年）、木村元『学校の戦後史』（岩波新書、2015年）
評価基準及び成績評価方法	試験で60点以上を合格とする。授業への出席状況、学習態度も参考にする。
達成度の伝達	「ワークシート」を用意し、コメントを記すなどして達成度の伝達を行います。
資格情報	

メッセージ・オフィスアワー	授業の前後に教室にて対応します。
履修登録条件	

講義科目名称：教育制度論

英文科目名称：Theory of Education Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
池守 滋				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	公教育の原理と意義及び教育制度の理念、教育制度に関する法規について学ぶ。我が国の教育制度の成り立ちと各学齢段階における教育制度及び外国の教育制度について学ぶ。また、学校を支える教育行政と財政について学ぶ。学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことや開かれた学校づくりの意義と重要性を学ぶ。具体的な事例を通して、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性及び危機管理や事故対応について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 学校と教育制度 我が国の学校と教育制度について、グループごとに意見をまとめ、発表する。</p> <p>第2回 公教育とは 公教育の原理と意義及び教育制度の理念について理解する。</p> <p>第3回 教育制度と法令 教育制度に関する法規について理解する。</p> <p>第4回 教育制度の成り立ちと歴史 教育制度の成り立ちと我が国における歴史的変遷について理解する。</p> <p>第5回 戦後の教育制度とこれから 戦後の教育制度について理解し、今後の教育制度の展望についてまとめる。</p> <p>第6回 就学前教育と初等教育制度 幼児期の就学前教育制度と初等教育制度について理解する。</p> <p>第7回 中等教育制度 我が国における中等教育制度について理解する。</p> <p>第8回 高等教育制度 高等教育制度及びその他の教育制度について理解する。</p> <p>第9回 外国の教育制度 諸外国の教育制度について、我が国との違いを理解する。</p> <p>第10回 教育行政制度① 文部科学省と教育委員会の役割と業務及び関連する法令について理解する。</p> <p>第11回 教育行政制度② 都道府県教育委員会と市町村教育委員会の役割と業務、組織について理解する。</p> <p>第12回 教育財政制度 学校教育を支える教育財政制度、義務教育費国庫負担制度などについて理解する。</p> <p>第13回 教育制度の課題と改革の方向 教育制度の課題について調べ、その改革の方向性について理解する。</p> <p>第14回 学校と地域 学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことの重要性を理解する。学校の教職員と地域の関係機関との連携による開かれた学校づくりの意義と重要性を理解する。</p> <p>第15回 学校の安全 学校を取り巻く事件、事故の事例を通して、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性を理解する。新潟中部地震や東日本大震災などの事例を通して、危機管理や事故対応について理解する。また、新たな安全上の課題についても理解を深める。</p>
授業の目的・到達目標	教育に関わるニュース等に注意すること。
教育目標に対する科目の位置付け	現代の学校教育制度について、基礎的な知識を身につけるとともに、関連する課題を理解する。学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。（教育目標1）
教科書	毎時間、プリントを配布する。
参考書	現代教育制度（佐藤 純一他、学文社）
評価基準及び成績評価方法	課題、定期試験 授業への積極的参加の態度などを総合的に判断する。
達成度の伝達	試験やレポートの結果については、講評、解説をおこなう。
資格情報	養護教諭免許を取得するための必修科目である。
メッセージ・オフィスアワー	金曜日：10：30～11：30 非常勤講師控え室
履修登録条件	

講義科目名称：教育課程論

英文科目名称：Curriculum Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
黒羽 正見				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの教育課程経営の体験活動を通して、教育実践者としての「教育課程を経営する意味」のリアリティに接近する。			
授業計画	第1回	オリエンテーション：教育課程論の学び方と学ぶ上での核となる概念の説明 学び合い、自己認識、暗黙知、気づきと振り返り、自己更新、教師の成長		
	第2回	教育課程の基盤にあるもの ビデオ（みんな輝いているよ）視聴による教育課程の理解		
	第3回	学校教育における教育課程の現代的課題とその解決方法 1枚の折り紙から紡ぎ出される方法とは		
	第4回	教育課程に滲み出る教師の人間性 1編の生徒の詩から連想される教育課程の色		
	第5回	教育課程を円滑に機能させるもの 授業中の教室に教育課程が生み出すもの		
	第6回	教育課程の障害となるもの 学校内に生じるものと教室内に生じるもの		
	第7回	教育課程の障害物を取り払う方法 1枚のA4判の紙からWe-feelingを生み出そう		
	第8回	教室における教育課程の創造の仕方 学習指導案と略案・細案について		
	第9回	教育課程と生徒理解 教育課程におけるコミュニケーション方法		
	第10回	教育課程と評価 模擬授業と他者評価・自己評価		
	第11回	教育課程とカリキュラムの違い 国レベルから教室レベルに至るまでの学習指導要領の変容過程		
	第12回	教育課程の新しい方向 教育の計画・内容を機能させる教育課程経営のしくみについて		
	第13回	教育課程と教師の成長の関係 教育課程からカリキュラムをつくる意味		
	第14回	教育課程のさまざまな捉え方 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、教科カリキュラムと経験カリキュラム		
	第15回	まとめとしての教育課程をつくる 教育課程の方法・技術の基底に存在するもの（知識・技術に還元できぬもの）		
授業の目的・到達目標	学校教育の教育課程（カリキュラム）編成の規定要因、歴史、現状、課題等についての理解を得る。			
教育目標に対する科目の位置付け	動きのない紙面上の教育課程（計画・内容）から生徒との相互行為として「教師が教育課程をつくる」意味の理解を実践的に深める。			
教科書	稲垣応顕・黒羽正見編「学際型現代学校教育概論」金子書房			
参考書	なし			
評価基準及び成績評価方法	毎時間の振り返りシート、レポート、出席状況、学習態度等を参考にする。			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称： 道徳と特別活動

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中山 和彦、高橋 知己				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	<p>教師と児童・生徒の立場から、1年間（4月から翌年3月まで）の特別活動のカリキュラムづくり（計画・実施・評価）を行う。到達目標の判断基準となるので、以下の手続きを踏まえて自身の学級経営における授業構成を考える。主に次の4点は大切である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎回の道徳及び特別活動カリキュラム開発の集団討議に主体的に参加する。 2 毎回、作業ワークシートを作成した上で、最低でも1回は集団討議の司会を担当する。 3 全体討議の場では自身の問題関心と照らし合わせて、積極的な質問を展開する。 4 毎回の集団討議後、自身の主体的な考えを自己評価として詳細に記述する（オムニバス） 			
授業計画	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳とは何か ・道徳性とは何か ・教育とは何か ・本講義の根本・本質・原点について考える。（中山） 		
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育とは何か ・学級経営と道徳教育（道徳科） ・教育活動全体で推進する道徳教育について考える。（中山） 		
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の道徳性の発達 ・学習指導要領一部改正による道徳科の設置とその趣旨 ・道徳科の模擬授業を体験して学ぶ。（中山） 		
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解と道徳教育 ・保健室における道徳教育 ・講義全体のまとめ（中山） 		
	第5回	学級（学年）文化を拓く教師（高橋）		
	第6回	教材研究と授業構想（高橋）		
	第7回	学習指導案を創る（高橋）		
	第8回	模擬授業と評価（高橋）		
授業の目的・到達目標	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの道徳及び特別活動のカリキュラム開発の体験活動を通して、教育実践者として、道徳及び特別活動のカリキュラム開発のリアリティに接近できるようにする。			
教育目標に対する科目の位置付け	道徳性の育成を目指す道徳教育の目標及び道徳的価値に関わる内容が多く含まれる特別活動の目標は、本学科の教育目標すべてに直結するものである。			
教科書	指定なし。毎回、担当者が関係する資料を配付する。			
参考書	学習指導要領解説 「特別の教科 道徳編」 私たちの道徳（文部科学省）			
評価基準及び成績評価方法	定期試験実施。 試験60% 平常点40%で評価する。			
達成度の伝達	「学習のふり返し」（リアクションカード）を返却して、個別に達成度を伝える。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：教育の方法と技術

英文科目名称：Methods and Strategies of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
久保田 善彦				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景の知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、体験的に修得していく。
授業計画	<p>第1回 学習とは何か ・アクティブラーニングと構成主義</p> <p>第2回 教えることと学ぶこと ・小学校1年生の算数と国語から考える</p> <p>第3回 思考を外に出そう(1) ・マップ型(概念地図, マインドマップ, イメージマップ) ・フィンランドの授業を体験しよう(カルタ)</p> <p>第4回 思考を外に出そう(2) ・運勢ライン法</p> <p>第5回 学習意欲</p> <p>第6回 協調学習(1) ・知識構成型ジグソー学習法(おてがみ)</p> <p>第7回 協調学習(2) ・知識構成型ジグソー学習法(雲のでき方)</p> <p>第8回 協調学習(3) ・学びの共同体の基本構造</p> <p>第9回 授業ビデオを見よう(1) ・ワークショップ型授業研究</p> <p>第10回 授業ビデオを見よう(2) ・ワークショップ型授業研究</p> <p>第11回 ワークシートを作製しよう</p> <p>第12回 学習ゲームを作成しよう(1) ・環境ゲームのデザイン</p> <p>第13回 学習ゲームを作成しよう(2) ・環境ゲームの製作と実施</p> <p>第14回 子どもの作品を見取ろう ・真正な評価について(ポートフォリオ・パフォーマンス) ・子どもの作品を見取る</p> <p>第15回 振り返りと議論</p>
授業の目的・到達目標	(1)知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。 (2)機能や役割といった教育方法に関する基礎を体験的に理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	特に指定しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。定期試験(60%)：講義全体の内容について、試験を行う。
達成度の伝達	小テスト、定期試験の解答例を受講学生に示す。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 生徒指導論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
森 慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	児童期・思春期の生徒指導を中心テーマとし、いじめや不登校、問題行動など具体的な事例に則して考察・討論し、生徒指導の意義、生徒指導の基礎を理解させる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：生徒指導とは</p> <p>第2回 生徒指導の意義と課題</p> <p>第3回 生徒指導体制と生徒指導計画</p> <p>第4回 校則、懲戒、体罰と生徒指導</p> <p>第5回 児童生徒を取り巻く環境の変化と生徒指導</p> <p>第6回 生徒指導と教育相談</p> <p>第7回 不登校・引きこもりへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第8回 不登校・引きこもりへの指導援助（2）小学校</p> <p>第9回 不登校・引きこもりへの指導援助（3）中学校</p> <p>第10回 不登校・引きこもりへの指導援助（4）高等学校</p> <p>第11回 いじめへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第12回 いじめへの指導援助（2）いじめをどう捉えるか</p> <p>第13回 いじめへの指導援助（3）ネットいじめ</p> <p>第14回 いじめへの指導援助（4）いじめの予防</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の目的・到達目標	人間としての在り方・生き方を問う生徒指導のすすめ方について考察し、生徒指導の実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年
参考書	
評価基準及び成績評価方法	レポートまたは試験を50%、講義内での発表およびディスカッションの内容を50%として総合的に評価する予定だが、受講者の人数によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。
達成度の伝達	希望者には総合評価の内訳を開示する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：教育相談

英文科目名称：Consultation in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
森 慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	いじめ、不登校や児童虐待など、学校内外における児童生徒の諸問題は様々な形で現れており、対応する教師側の学校教育相談・教育臨床に関する知識、スキルの習得が求められている。本講義では、学校で行なわれる教育相談・教育臨床の機能、位置づけ、役割、方法などについて概略を説明し、さらに具体的課題として、不登校、いじめ、発達障害などのトピックスを取り上げ、教師の行なうべき対応方法や対策について理解を深めていくことを目指す
授業計画	<p>第1回 生徒指導と教育相談、チーム学校の視点での生徒指導、教育相談</p> <p>第2回 教育相談の現状と課題</p> <p>第3回 教育相談に関する基礎知識（1）：精神分析</p> <p>第4回 教育相談に関する基礎知識（2）：行動療法、応用行動分析</p> <p>第5回 教育相談に関する基礎知識（3）：認知療法、認知行動療法</p> <p>第6回 暴力行為への指導援助</p> <p>第7回 外国人児童生徒への指導援助</p> <p>第8回 児童虐待への指導援助</p> <p>第9回 発達障害への指導援助</p> <p>第10回 精神障害への指導援助</p> <p>第11回 性の課題への指導援助</p> <p>第12回 保護者対応</p> <p>第13回 危機管理／緊急支援</p> <p>第14回 外部講師講話（予定）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の目的・到達目標	本科目では、将来教師として生徒指導を行う上で必要最低限の知識技術を身につけることが求められる。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年
参考書	必要に応じて授業で紹介する。
評価基準及び成績評価方法	レポートを50%、講義内での発表およびディスカッションの内容を50%として、総合的に評価する予定だが、受講者の人数によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。
達成度の伝達	希望者に総合評価の内訳を明示する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：教職実践演習（養護教諭）

英文科目名称：Seminar in Teacher's Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	講義＋演習
担当教員				
豊島幸子、池守滋、森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	今までの教職科目での学び、養護実習での実践を踏まえ、養護教諭として必要な知識・技能のブラッシュアップを図る。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（養護実習全般にわたる振り返りと自己の課題を把握する）</p> <p>第2回 養護実習のリフレクションから教育実践について考える（1）小学校、中学校を中心に</p> <p>第3回 養護実習のリフレクションから教育実践について考える（2）中学校、高等学校を中心に</p> <p>第4回 教職実践から捉えた養護教諭の役割</p> <p>第5回 特別活動、総合学習等への養護教諭の関わり</p> <p>第6回 新しい学校課題と養護教諭</p> <p>第7回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（1）各種審議会答申等を踏まえ構想を練る</p> <p>第8回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（2）各自が作成した構想を発表し、ディスカッションを行う</p> <p>第9回 特別支援教育と養護教諭</p> <p>第10回 特別支援教育の現状と実際（足利特別支援学校の見学を含む）</p> <p>第11回 特別支援教育の現状と実際（足利特別支援学校の見学を含む）</p> <p>第12回 救護法を学ぶ（1）心肺蘇生法と止血法</p> <p>第13回 救護法を学ぶ（2）傷病者管理法</p> <p>第14回 救護法を学ぶ（3）副子（当て木）固定法と搬送法</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の目的・到達目標	<p>①学校教育の現状と児童生徒の実態を理解し、教育者としての使命感を持ち、児童生徒の成長・発達について適切に対応できる養護教諭としての資質を養う。</p> <p>②養護教諭としての職務に関する専門的な知識、技術及び指導力を身につけるとともに、豊かな教養と人間性を養う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	必要な資料をコピーして配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組みで評価する。ただし原則として全15回の出席を認定単位の条件とする。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	シラバス記載の回次は年度当初での予定です。外部講師や外部機関の都合により変更することがあります。
履修登録条件	

講義科目名称：韓国語入門

英文科目名称：Introduction to Korean

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期（今年度休講）	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
橋本 京子				
人間の理解と科学的思考科目群		韓国語入門		

授業概要	韓国の言葉や文化、両方に触れることを目的とする。日本と韓国は、地理的にも歴史的にも密接に関わっており、両国の文化及び言語の面においても類似点が多いと言われる。とりわけ、韓国語は日本語と文法的に似ている部分が多いため、最も覚えやすい外国語であると言っても過言ではない。講座では、韓国の衣・食・住文化を初め、ハングル語の文字と発音の仕方、初級の文型について学ぶ。なお、韓国の医療事情についても紹介する予定である。
授業計画	<p>第1回 日・韓両国の表現の違い / ハングルの文字の構成① 子音・母音の名称と発音について 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：子音と母音の名前や発音を練習し、覚える。</p> <p>第2回 ハングルの文字の構成② 激音・濃音・パッチムについて 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：文字や発音の練習をする。</p> <p>第3回 連音化現象とその他の発音法則について 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：発音練習を徹底する。</p> <p>第4回 ハングルの発音のまとめと書き取り / 自分や友人の名前をハングルで書こう 予習：諮問などを考え、メモしておく。 復習：間違い箇所を確認し、理解する。</p> <p>第5回 漢数字や固有数字の使い方に付いて / 「私は日本人です」の語彙と文型 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：書いたり、発音したりしてみる。</p> <p>第6回 指示代名詞について 「これは何ですか」の語彙と文型 / 時間、曜日の言い方 / テスト 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：発音やスペルに気を付け、覚える。</p> <p>第7回 ビデオ鑑賞① 韓国の医療事情について 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：まとめをふりかえる。</p> <p>第8回 ビデオ鑑賞② 意見交換 韓国料理の試食会 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：ハングルの文字や発音について復習する。</p>
授業の目的・到達目標	日・韓国両国の表現の違いを理解し、両国の文化の共通点や相違点に関する理解を深めることがねらいである。その方法論として、まず、ハングルの読み・書きをしっかりと覚えることから始め、韓国語の基本文型を身に付けることを本講座の最終到達目標とする。韓国の医療事情にも触れる予定。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	特になし（プリント配布予定）
参考書	
評価基準及び成績評価方法	原則として、テストの点数が60点以上を合格とする。また、数回の小テストの点数も加味する。
達成度の伝達	小テスト、テストの返却により行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	ハングルの読み・書きの基礎と韓国文化に触れる絶好のチャンスです。少しでも興味のある人には是非来て欲しい！
履修登録条件	